

行政又ハ司法事務ニ熟スルカ或ハ書記又ハ主計ノ事務ニ通スル等ノ類ヲ掲クヘシ  
一 滿三年奉職

明治何年何月何日何等体巡查拜命何年何月何日何等体ニ進ミ何年何月何日何等体ニ進  
ム等ノヲ記スヘシ  
其他ノ審査ノ参考トナルヘキ事項ハ可成掲記スルヲ要ス

第四類

第二 保安及風俗警察

○第三百七十一番 明治十一年十二月二十日

飼主無之犬ハ時々撲殺爲致候義モ可有之ニ付自今一般飼犬ノ義ハ必ス其飼主ノ姓名ヲ記  
載シタル金輪或ハ標札ヲ首ニ附置候様可致此旨觸示候事

○甲第五十八號 明治十二年四月七日

自今各町村内ニ於テ非常取締法等相設候節ハ左之通相心得此旨布達候事

一 各町村内ニ於テ非常取締ノ爲メ鳴物ヲ備ヘ若クハ人民相救援スル等適宜ノ方法ヲ設  
ケントスルモノハ所管ノ警察署ヲ經テ本廳ノ認可ヲ得ヘシ

一 除害ノ爲メ多人數集合シ狐狼狩等ヲ爲サントスルトキハ所轄警察署ヘ願出認可ヲ受  
クヘシ

○甲第十六號 明治十四年二月二日

免許銃讓渡ノ節其願面ニ處有之手續明記ス可キ等ノ處中ニハ之ヲ掲ケス從來處持シタル

モノ、如ク申立候向モ有之調査上差支候條自今右願出ノ節ハ父元ノ遺物又ハ他ヨリ讓受  
ケタル等判然記載候様可致此旨布達候事

但軍用銃ハ該番號記載可致事

○甲第六十五號 明治十六年八月二十日

自今蝗蟲驅除等ノ爲メ田畦成ハ門戸前ニ於テ焚火致度者ハ戸長ノ與印ヲ得テ處管警察署  
ヘ願出此旨布達候事

○甲第七十四號 明治十七年八月二十六日

發狂人ヲ看守ノ爲メ自宅ニ鎖鑰セントスル者ハ最近ノ親屬二名以上連署醫員ノ診按書ヲ  
添ヘ處管警察署ニ届出認可ヲ受クヘシ此旨布達候事

○甲第九十號 明治十七年十一月二十二日

自今人家若クハ道路接近ノ場處ニ於テ工事ノ爲メ火藥ヲ以テ巖石ヲ(破碎)セントスルハ  
(俗ニ發破)實地ノ圖面ヲ添所管警察署ヘ願出認可ヲ受クヘシ此旨布達候事

○甲第七十三號 明治十八年九月十九日

火防組設置ノ町村若クハ接近町村人民ニ於テ火防組ノ爲メ鐘橋建築費并ニ器械購求若ク  
ハ修繕費トシテ出金セントスルモノ及ヒ火災ノ際救援ヲ受ケタル報酬トシテ火防夫ヘ金  
圓物件等ヲ贈與セントスルモノハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出認可ヲ受クヘシ此旨布達候  
事

○秋田縣令第一號 明治十九年八月六日

銃炮賣買讓與及ヒ其改造廢銃等ニ關スル願届ハ所管警察署ヘ差出スヘシ

但賣買讓與ノ届書ハ正副二通ヲ差出スヘシ  
新規軍用銃買入願及捺印願ハ所管警察署ヲ經由シ縣廳ヘ差出スヘシ  
銃炮所持ノ者轉居又ハ改氏名若クハ薪ニ管内ヘ移住シタルトキハ所管警察署ヘ届出ツヘシ

但轉居ニ付警察所管ヲ異ニスルトキハ新舊所管警察署ヘ届出ツヘシ

○秋田縣令第十九號 明治二十年十一月一日

祭典法會等ニ際シ神樂又ハ手踊若クハ放樂(見料ヲ徴セサ)興行ヲ爲サントスル者ハ社寺  
境界ノ内外ヲ問ハス所管警察署又ハ分署ヘ届出ツヘシ

但明治十二年四月第五十八號第三項ヲ刪除ス

○秋田縣令第二十九號 明治廿一年四月廿一日

山野火入取締規則左之通相定ム

但從來ノ達觸示等ニテ之ニ抵觸スルモノハ廢止ス

山野火入取締則

第一條 人民所有ノ山野ニ火入ヲサント欲スル者ハ左ノ條項ヲ具シタル書面ヲ以テ警  
察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

一 火入ノ期日

一 箇所限リ地目段別及字番號

一 四至境界ヲ見ルヘキ實地畧圖

但四境接續地地目及森林ヘノ距離共

第二條 火入ヲサント欲スル者ハ森林原野ニ接シタル境界ヘ防火線ヲ設クヘシ

第三條 防火線ハ幅三間以上ニシテ都テ柴草ヲ刈採リ落葉塵芥等ヲ除去シ或ハ土堤又ハ  
堀溝等ノ設ヲナスモノトズ

但道路窪谷等ニテ本條ノ防火線ヲ設ケサルモ延燒ノ虞ナキ箇所ハ此限リニアラス

第四條 火入期日五日以前接續山野ノ所有主官林ナラハ大小林區署若クハ大林區派出所  
若クハ官林巡邏官林外官有地ナラハ戶長及最寄巡查在勤所ヘ報告スヘシ

第五條 火入認可後ト難モ當日風穩ナラサルトキハ若手スヘカラス

第六條 火入中ハ其區域ノ廣狹ニ隨ヒ二名以上ノ人夫ヲ出シ取締上注意ヲ加ヘ火氣全ク  
消滅ニ至ル迄其場ヲ退去スヘカラス

第七條 既ニ火入ノ認可ヲ受タリト雖モ郡長警察官大小林區署員大林區派出所員戶長官  
林巡邏等ニ於テ防火ノ準備不充分ト認マルトキ又ハ風勢ノ變動等ニヨリ他ヘ延燒ノ虞  
アリト思量スルトキハ直ニ之ヲ中止セシムルコトアルヘシ

第八條 此規則第一條第二條第四條第六條ニ違背シタルモノハ拾錢以上壹圓以下ノ科料  
ニ處ス

○告示第五十六號 明治二十年五月十日

他府縣新聞紙雜誌雜報ノ發賣所又ハ發賣人ヨリ之レカ受賣ヲ爲サントスル者ハ其住所氏  
名ヲ所管警察署ニ届出ツ可シ

但休廢業ノトキ亦同シ

明治十一年十二月十一日

各區々戸長

○乙第百八十二番 死傷人檢視等ノ節出張補助部或ハ巡查ヨリ最寄醫業ノ者ヲ召喚スルニ間ニハ其手數ヲ厭ヒ他事ニ托シテ出頭セサル者モ有之哉ニ相得聞不相濟事ニ候且傷者又ハ途上急病人ノ如キニ至テハ瞬間ノ遲速ニヨリ貴重ノ身命ニ關ル義ニ付爾後不心得ノ者無之様右醫業ノ者ヘ嚴重可相達此旨相達候事

○乙第三十號

明治十四年五月十六日

町村役場

火災豫防ハ平素各自ニ於テ注意スヘキ勿論ニ候ヘトモ其害ノ起ルヤ豫期スヘカラス消防一度機ヲ失スルトキハ蔓延救フヘカラサルニ至リ貴重ノ人命ヲ殫シ國家ノ財産ヲ蕩盡スル等慘狀ノ甚敷モノニシテ之レカ防禦ノ方法ハ一日モ忽セニスヘカラス故ニ今般別紙法案發布候條五百戸以上密接ノケ所一町村又ハ數町村ノハ本年七月ヲ期シ消防ノ方法充備候様協議ヲ遂ケ施行方ノ儀ハ郡役所ヲ經由シ本廳ノ認可ヲ得ヘキ儀ト可相心得此旨相達候事

但五百戸未滿ノケ所ハ數町村ヲ聯合スルカ若クハ土地ノ便宜ニ依リ別紙法案ニ照準シ漸次其方法ヲ設クヘキ事

火防法案

第一條 火防費ハ別紙甲乙豫定表ニ依リ該町村ノ協議費ニ屬シ其徵收方法ハ町村會ノ適宜定ムル處ニ徒ヒ之ヲ出納スルハ專ラ町村役場(數町村聯合ノ)ノ負擔トナシ警察署又ハ分署認印ノ證ニ據リテ支出スルノトス 但著ナキノ地ハ町村會議長又ハ副議長(議長不在ノトキハ議員ノ内一名)認印ノ證ニ

依リ支出スルモノトス

第二條 火防協議收支ノ決算ハ每一ケ年年纏ヲ以處管部役處ヲ經由シ警察本署ニ報告スヘシ若シ支出殘餘ヲ生シタルトキハ町村役場(數町村聯合ノ)ニ積置後年ノ不足ヲ補ヒ又ハ消防ニ便ナル器械ヲ購求スル等火災保險ノ資本トナスヘシ

第三條 消防夫ヲ別チテ二類トス一ヲ何町村ポンプ組トシ一ヲ何町村消防組トス其人員及器械ノ組織左ノ如シ

- 一 ポンプ組役付ノ事
  - 頭取 一名
  - 副頭取 一名
  - 筒先掛 二名
  - 捻回掛 二名
  - 水原根筒掛 一名
  - 押手掛 十二名
  - 高張提灯持 一名
  - 但晝間ハ旗
  - 階子持 二名
  - 別手組 八名
- 一 消防組役付ノ事
  - 頭取 一名

副頭取	一名
纏持	一名
階子持	二名
龍吐水掛	四名
高張提灯持	一名
但書間ハ旗	
平組	二十五名
一 ボンブ組器械ノ事	
ボンブ	一基
西洋水袋	八ツ
玄番桶	二ツ
高張提灯	一張
旗	一流
階子	一挺
刺叉	一挺
腰差提灯	二張
消止札	十五枚
一 消防組器械ノ事	
龍吐水	一挺

階子	大一挺
纏	一本
鳶口	十五挺
刺叉	一挺
旗	一流
高張提灯	一張
腰差提灯	二張
玄番桶	二ツ
釣瓶	四ツ
消止札	十五枚
第四條 消火失ハ滿十八年以上骨格強壯ノ男子ニシテ可成最寄町村ノ者ヲ撰ムヘシ	
第五條 此法案ニ依リ協議決定本廳ノ認ヲ得タルトキハ消火夫役付ノ事ハ該町村戸長ヨリ管警察署長ニ具申スヘキモノ	
第六條 消火夫死傷等ノ事アルトキハ吊祭扶助療治料等ヲ給スルノ備勿カラサルヘカラサルヲ以テ豫メ協議ヲ遂ケ臨時費トシ若干ノ金額ヲ徴収スルヲ要ス	
但吊祭扶助療治料等ヲ給スルノ額ハ豫メ左ノ項目ニ據リ協議決定シ置クヘシ	
死亡ノ部	
一 重傷死ニ至ル者	
吊祭料拾五圓	

但家族親戚ナキモノハ同組ニ給シテ吊祭セシム  
 遺族扶助金五拾圓  
 但父母妻子等遺留ノ家族ニ給ス

療治料  
 但疵ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス  
 傷痕ノ部  
 一 一等傷痕 終身不具ニシテ自由ヲ辨スル能ハサル者  
 扶助金五拾圓  
 療治料  
 但疵ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス  
 二等傷痕 同上其ナル者  
 扶助金三拾五圓  
 療治料  
 但疵ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス  
 三等傷痕 同上稍其次ナル者  
 扶助金貳拾五圓  
 療治料  
 但疵ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス  
 四等傷痕 不具ニ至ルト雖トモ用便ニ差支ナキモノ

役名	人員	一人一年	小計
頭取	一人	壹圓	壹圓
同副	一人	七拾五錢	七拾五錢
<p>金七圓五拾錢          療治料          但疵ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス          一 五等傷痕 全ク不具ニ至ラサル者          療治料          但疵ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス          別ニ扶助金ヲ給セズ          甲號ボツア組諸費豫定表          金四百七拾三圓七拾七錢          內          金百五拾四圓七拾七錢          金三百拾九圓          此譯          年中足留手當金          每年支消ノ費額          初年支消ノ費額</p>			

筒先掛以下		二十八人	五拾錢	拾四圓	五百六十
通計金拾五圓七拾五錢 火場手當金之部					
火手	當	員	一人	一人	一年
頭取	一人	ノ手當	四拾錢	五ヶ度	數
同副	一人		三拾錢	同	小計
筒掛以下	二十八人		貳拾錢	同	同壹圓五拾錢
通計金三拾壹圓五拾錢 被服及屬具之部					
品目	一個ノ價	買入之數	保存期限	小計	
看板	壹圓	三十枚	一ヶ年	三拾圓	
頭巾	壹圓拾六錢	同	二ヶ年	二ヶ年ニ割一ヶ年 分拾七圓四拾錢	
股引	九拾五錢	同	一ヶ年	貳拾八圓五拾錢	
通計金七拾五圓九拾錢					

消耗費					
品目	一個ノ價	買入之數	保存期限	小計	
蠟燭	大 貳錢	四十丁		八拾錢	
同	小 八厘	同		三拾貳錢	
桶	掃油	一升		五拾錢	
諸器械繕及掃除具 買入代					
通計金三拾壹圓六拾貳錢 合計金百五拾四圓七拾七錢 初年一時支出ノ費目					
品目	一個ノ價	買入ノ數	小計		
ボンプ	三百圓	一基	三百圓		
旗	壹圓	一流	壹圓		
西洋火袋	三拾錢	八個	貳圓四拾錢		
玄番桶	大 壹圓 小 七拾五錢	二個	壹圓七拾五錢		
通計金五百六十一					

第四類 第二 保安及風俗警察

五百六十一

高	張	九拾錢	一張	九拾錢
階	子	大六圓	一挺	六圓
指	叉	五圓九拾錢	一挺	五圓九拾錢
腰差	提灯	四拾五錢	二張	九拾錢
消	止札	壹錢	五十枚	拾五錢

通計金三百拾九圓

乙號消防組諸費豫定表

金貳百貳拾八圓四拾七錢

內

金百六拾四圓四拾貳錢

金六拾四圓五錢

此譯

年中足留金之部

每年支消ノ費額

初年支消ノ費額

足留手當

一八一年

小計

壹圓

五百六十二

同	副	一人	七拾五錢	七拾五錢
總持	以下	三十三人	五拾錢	拾六圓五拾錢
通計金拾八圓貳拾五錢				
火場手當之部				
役	名	一人	一人ノ度	年計
頭	取	一人	四拾錢	貳圓
同	副	一人	三拾錢	壹圓五拾錢
總持	以下	三拾三人	貳拾錢	三拾三圓
通計金三拾六圓五拾錢				
被服及屬具之部				
品	目	一個ノ價	買入ノ數	小計
看	板	壹圓	三十五枚	三拾五圓
頭	巾	壹圓拾六錢	同	一ヶ年保存ニ付半額一 年分貳拾圓三拾錢
股	引	九拾五錢	同	三拾三圓貳拾五錢

第四類 第二 保安及風俗警察

五百六十三

通計金八拾八圓五拾五錢 消耗費			
品目	一個ノ價	買入ノ數	小計
蠟燭 大	貳錢	四十丁	八拾錢
同 小	八厘	同	三拾貳錢
諸器械修繕費			貳拾圓
通計金貳拾壹圓拾貳錢			
合計金百六拾四圓四拾貳錢			
初年一時支出ノ費目			
品目	一個ノ價	買入ノ數	小計
龍吐水	貳拾五圓	一挺	貳拾五圓
階子	大 四圓五拾錢	一挺	四圓五拾錢
旗	壹圓	一流	壹圓
纏	拾四圓	一本	拾四圓
品目	一個ノ價	買入ノ數	小計
高 刺	五圓九拾錢	一挺	五圓九拾錢
高 張	九拾錢	一張	九拾錢
腰差 提火	四拾五錢	二張	九拾錢
立 番 桶	七拾五錢	二ツ	壹圓五拾錢
釣 瓶	三拾錢	四ツ	壹圓貳拾錢
消 止 札	壹錢	十五枚	拾五錢
通計金六拾四圓五錢			

通計金六拾四圓五錢			
高 刺	五圓九拾錢	一挺	五圓九拾錢
高 張	九拾錢	一張	九拾錢
腰差 提火	四拾五錢	二張	九拾錢
立 番 桶	七拾五錢	二ツ	壹圓五拾錢
釣 瓶	三拾錢	四ツ	壹圓貳拾錢
消 止 札	壹錢	十五枚	拾五錢
通計金六拾四圓五錢			

○丙第貳拾八號 明治十九年五月十二日 郡役所 町村戸長役場  
 公共之用惡水路ニ接シ家屋等ヲ建築セントスルモノハ右水路敷ヨリ内部へ一尺以上ノ地  
 ナ餘シ建築セシムヘシ  
 右相違ス

○達第百四十一號 明治二十年十月十四日 郡役所 戸長役場  
 官署ノ工事ニ係リ道路ノ往來又ハ牛馬諸車ノ通行停止ヲ必要トスルトキハ豫メ期限ヲ定  
 メ現場ノ畧圖ヲ添エ所管警察署へ停止方ヲ照會スヘシ  
 但本文ノ場合ニ於テハ可成橋梁ニハ假橋ヲ設テ道路ハ片側ツ、停止候様注意スヘシ



○丙第七十二號 明治十六年二月二十七日

各郡役所

管内銃獵之儀ハ十月二十日ヨリ四月二十日限り差許候處自今十月十五日ヨリ五月二十日迄チ一期ト相定差許候條農事ノ妨害トナラサル様注意獵業可致旨郡内該業人エ可申達此旨相達候事

○丙第二百二十四號

郡役所

管内銃獵之儀者十月十五日ヨリ翌年五月二十日限り差許置候ニ付自今右免狀之儀ハ郡内取摺製表相添六月二十日限り返納可致此旨相達候事

○丙第九十六號

各郡役所

鳥獸獵規則第二條但書ニ據リ臨時免許ヲ與ヘ除害セシムルキ同第十條但書ニ據リ鳥獸ノ害ヲ爲ス山間等ノ村落銃獵伸期之儀伺出之節ハ該鳥獸名ヲ明記被害ノ景狀ヲ具シ可差出且又鳥獸獵免狀ヲ受ケタルモノ其期限内改姓名又ハ管内甲地ヨリ乙地ヘ轉住スルトキハ免狀書換手數料取立ルニ及ハス本人所持之免狀姓名又ハ住所ノミ書改メ主任者檢印下附候儀ト可相心得此旨相達候事

但本文ニ抵觸スル從前ノ指令等ハ取消候事

○丙第三百八號

各郡役所

諸市場取締規則第一條ニ依リ新ニ市場ヲ許可スルトキハ豫メ所管警察署ヘ商議ヲ遂シヘシ此旨相達候事

○丙第六百六十七號

郡役所

明治十八年五月

郵便物之義ハ專ラ速達ヲ要シ晝夜ノ別ナク時間ヲ期シ遞送致候處其經路中道路修繕等ニ際シ往來止或ハ馬車止ノケ所等有之爲メ迂路ヲ遞送致候テハ多少ノ延達ニ相成公衆之不便不少候ニ付前項ノ場所ト雖トモ人馬車通行シ得ラルヘキ限リハ郵便物遞送之節ハ特ニ通行差許候ニ付道路修繕之爲メ往來留等認可ニ際シ豫メ可達置此旨相達候事

○明治十八年六月十五日

警察本署

人馬車往來留之場所ト雖トモ郵便物遞送之節特ニ通行差許候旨別紙之通各郡長ヘ相達候條爲心得此旨相達候事

○郡第二百八十六號

郡役所

鳥獸獵取締規則ニ依リ獵獵又ハ遊獵ヲ免許シ及其廢業届出テマルトキハ其都度住所氏名年齢ヲ記載シ所管警察署ヘ通知スヘシ

右訓令ス

○明治十七年七月七日

警察所

孝子節婦ヲ始メ篤行奇特ノ者申告手續別紙丙第四百四十五號之通り各郡役所ヘ相達候條此旨可相心得尤警察官吏ノ探偵ニヨリ直ニ具狀セントスルトキハ前達第四項ノ手續キテ經テ后申出候様各署ヘモ夫々通知可致此旨相達候事

○丙第四百四十五號

明治十二年七月五日

孝子節婦ヲ始メ篤行奇特ノ者具狀候節ハ自今左ノ通り相心得無違々可取計此旨相達候事

但本文之趣ハ各町村役場ヘモ無漏可相達置事

- 一 郡役所ニ於テ孝子節婦篤行奇特ノ者具狀セント欲スルトキハ右取調書一ト先所管警察署ニ回シ警察官吏ノ探偵書ヲ得而ノ后之ヲ本廳ニ差出ス可シ
- 一 各役場ニ於テ同斷具狀セントスルトキハ其取調書郡役所ヲ經テ本廳ヘ差出ス可シ
- 一 第貳項各役場ヨリ本廳ニ差出ス具狀書郡役所ニ到達スレハ郡役所ニ於テハ第壹項ノ手續ヲ經テ之ヲ本廳ニ進達スヘシ
- 一 孝子節婦篤行奇特ノ者警察官吏ニ於テ之ヲ探偵シ本廳ニ具申セントスルトキハ其探偵書一ト先郡役所ニ回送シ來ラハ郡役所ニ於テ尙其見込書書面ヲ付シ而ノ后之ヲ警察官吏ニ返付スヘシ

明治十五年八月五日

警察本署

○ 昨十四年六月相達候集會條例取扱心得別紙ノ通り更正候條此旨相達候事

集會條例取扱心得

- 第一條 條例ニ依リ届出ツルトキハ其社則並ニ社員名簿等ハ勿論講談論議スル事項ヲ篤ト審査シ治安ニ妨害ナキモノト認ムル時ハ是レヲ認可シ其妨害アルモノト認ムルトキハ之ヲ認可セサルモノトス若シ疑ハシキ事項等ニシテ難決ノモノハ本署ヲ經テ長官ノ判決ヲ乞フヘシ

但社則改正等モ本條ニ據ル

- 第二條 條例第四條ノ場合ニオイテ治安ニ妨害アリト認ムヘキ事項ハ大凡左ノ如シ
- 一 人ヲ教唆煽動シテ國法ヲ怨忌セシムルノ意ヲ含ミタルモノ

- 二 人ヲ教唆煽動シテ官吏ヲ疾視セシムルノ意ヲ含ミタルモノ
  - 三 人ヲ教唆煽動シテ政府ヲ怨望セシムルノ意ヲ含ミタルモノ
  - 四 妄リニ自主自由ノ說ヲ主張シ大義名分ヲ顧ミサルモノ
  - 五 妄リニ私黨ノ理アルヲ說キ國民ノ本分ヲ顧ミタルモノ
- 前條項ニ記載スルノ外尙現場ニ監臨シタル時ハ條例第六條ヲ參酌シ其許否ハ當該官ノ意見ニ任スト雖トモ同條第二項ニヨリ處分スヘキモノト見認ルルハ意見書ヲ付シ長官ニ指出スヘシ
- 第三條 第一條ノ届書ハ正副三通社則並ニ人名書ハ出サシメ正本ハ該署ニ留メ副本一通ニ指令ヲ付シ他ノ一通ハ本署ヲ經テ長官ノ見聞ニ供スヘシ
  - 但本條認可セサルモノハ事由ヲ詳記シ差出スヘシ
  - 第四條 會場ハ警部警部補ノ内一名適宜巡查ヲ奉ヒ監臨スヘモノトス
  - 第五條 監臨ノ警部警部補ハ適宜取締ニ便ナルヲ所ヲ撰ヒ會主會長又ハ幹事等ヲシテ其位置ヲ定メムヘシ
  - 第六條 監臨スル警部警部補ハ能ク其論旨ノ治安ニ妨害アルヤ否ヤヲ審量シテ其處置ヲナスヘシ
  - 第七條 條例第七條ノ制限ヲ犯シ退去セシメ之ヲ肯セサル時又ハ論旨果シテ治安ニ妨害アルモノト断定シ全會解散セシムルトキハ會主會長ニ命ス若シ會主會長不在ノトキハ社長又ハ幹事ニ命令スヘシ
  - 但本條ノ命令ヲ肯ンセサルモノハ直ニ公力ヲ以テ解散セシムヘシ

第八條 全會ヲ解散セシメタルトキ社員ハ勿論傍聽人ハ退散ノ上退場スヘシ

第九條 已ニ解散セシメタル後又更ラニ集會セシムルヲ届出ルモノハ本則第一條ノ手續ニ

ヨルヘシ

第十條 公然演説ヲ届出テス陰ニ集會ヲナシ條例ニ抵觸スルモノアルヲ認知スルトキハ

解散ヲ命ジ尙處分ノ手續ヲナスヘシ

第十一條 凡ソ政黨ト稱スルモノニシテ冥漠中主義思想ヲ同フスルニ止マルモノハ該條

例之立入ルヘキモノニアラスト雖トモ若シ結合ノ體質アルモノト認メタルトキハ其首

領又ハ役員ト看認ルモノヲ召喚シ其主義目的及ヒ實行スヘキ順序推問ノ末條例ノ手續

ヲ履行セシムルモノトス

但本文ノ場合ニ於テ一應長官ニ具申シ其判決ヲ乞フ可シ

第十二條 政黨ニシテ左ノ諸項中或ハ一項ノ實アル者ハ一團結合ノ體質アル者トナシ結社

ト認定スル者トス

一 役員ヲ組織スルモノ

二 社則ヲ立又ハ盟約アルモノ

第十三條 本部ニ對スル地方部又ハ遊説委員等ハ條例第八條ニヨリ差免スヘカラサルハ

勿論都テノ取締ハ緩慢ニ付スヘカラス

第十四條 何等ノ名義ヲ以テスルモ多衆集會スルトキハ條例第十六條ニヨリ警察官是レ

ニ監臨スルヲ得ヘシト雖トモ眞ノ學術會及ヒ懇親會等ハ間接之レカ視察ヲ加ヘナル

ヘク監臨セサルヲ要ス

第十五條 條例ニ觸レ處分セシ分並ニ罰科ニ所セラレタル者ハ其事由ヲ詳記シ本署ヲ經

テ長官ヘ具申スヘシ

第十六條 集會届書ノ指令書式左ノ通り

認可スルモノ

印 書面届出ノ趣認可候事

年月日

認可セサルモノ

印 書面届出之趣認可難致候事

年月日

○第十八號 明治十年八月十六日

火藥取締規則取扱手續別冊ノ通相定候條此旨相達候事

本文ニ矛盾スル從前ノ令達ハ総テ消滅ス

火藥取締規則取扱手續

第一條 警察本署ニ於テハ火藥賣買營業者(煙火及(マツチ)ノ)

札ハ名簿ト割印ヲ爲スヘシ(營業者ヘモ適用ス)ノ名簿ヲ製シ置キ免許鑑

名簿ニハ營業者ノ住所族籍氏名許可ノ年月日ヲ登記シ貯藏火藥ノ種類數量及火藥庫ノ

位地等ヲ附記スヘシ

第二條 警察本署ニ於テ火藥賣買營業ヲ免許シ又ハ火藥庫ノ建築ヲ認可シタルトキハ明

治十八年第一號公達ニ依リ主務省へ届出ノ手續ヲナスヘシ  
 前項ノ場合及煙火「マツチ」ノ製造火藥ノ貯藏又ハ仮貯藏所ノ建設ヲ認可シタルトキハ  
 其住所氏名數量位地等ヲ詳記シ速ニ所管警察署ニ通報スヘシ  
 第三條 警察本署ニ於テハ毎年一月三十日限り前條ノ公達ニ準シ第六條ノ申報ニ依リ前  
 年ノ賣買ニ係ル火藥類ノ統計表ヲ論シ主務省へ届出ノ手續ヲ爲スヘシ  
 第四條 左ニ記載スル願書ハ所管警察署ヲ經由シテ進達セシメ其指令書ハ同署ニ送致シ  
 テ本人ニ下付セシムルモノトス  
 一 火藥類賣買營業願  
 二 火藥類拂下願  
 三 煙火及「マツチ」製造願  
 四 火藥類貯藏願  
 五 火藥庫建築願  
 六 仮貯藏所建設願  
 第五條 前條第一項第二項第三項ノ願出アルトキハ本人平素ノ行爲ヲ探偵シ第四項第五  
 項第六項ノ願出アルキハ巡查ヲ派遣シテ貯藏又ハ建設ノ地位方法等ヲ検査セシメ其狀  
 況ヲ詳悉シタル副申書ヲ添ヘ進達スヘシ  
 第六條 營業者ヨリ毎月火藥類賣買ノ届出アルキハ附録第一ノ書式ニ依リ月報表ヲ作リ  
 前月分ハ翌月廿日限り警察本署へ差出スヘシ  
 第七條 日出前日没後ニ於テ火藥ノ賣買運搬及荷作ノ願出アルキハ其事由ヲ審接シ危險

ノ慮ナキモノハ許可ヲ與フヘシ  
 第八條 營業者ニハ附録第二第三ノ書式ニ依リ火藥類賣渡及買入帳ヲ製シ置キ買買ノ都  
 度記載セシムヘシ  
 第九條 銃砲用及坑業土工其他職業ノ爲メ火藥類買入ノ認可ヲ請フモノアルキハ其事  
 實ヲ審接シ不都合ナキキハ附録第四ノ書式ニ依リ許可証ヲ下付スヘシ但坑業土工等拾貫  
 目以上ヲ買入ルキハ可成仮貯藏所ヲ設ケシムヘシ  
 第十條 毎月一回以上警察官又ハ代理巡查ヲシテ營業者ノ倉庫ニ臨ミ検査ヲ爲サシムヘ  
 シ但左ノ各項ニ注意スルヲ要ス  
 一 貯藏ノ許否  
 二 貯藏ノ數量  
 三 貯藏ノ方法  
 四 帳簿ノ記載方  
 五 火藥庫ノ周圍  
 煙火製造所へハ隨時監臨シ第一項第二項第三項ヲ検査セシムヘシ  
 第十一條 取締上必要ト認ムル場合ニ於テハ營業者ニ非ラスト雖トモ前條ノ手續ニ依リ  
 其ノ家宅ニ臨檢シ貯藏ノ數量及使用ノ方法等ヲ調査セシムヘシ  
 第十二條 火藥庫又ハ仮貯藏所建設ノ通報ヲ受ケタルトキハ特ニ巡查一名ニ検査掛ヲ命  
 シ隨時監臨シテ其構造等規則第十七條第十八條第二十條ニ準據スルヤ否ヲ検査セシメ  
 竣切ノ後ハ詳細ナル巡查報告書ヲ差出サシメ本廳へ開申スヘシ

第十三條 五貫目以上ノ火藥運搬ノ認可ヲ請フモノアルトキハ巡查ヲ派遣シテ其荷作要則第二十三條ニ準據スルヤ否ヲ檢セシメ危險ノ慮ナキ者ハ附錄第五ノ書式ニ依リ許可証ヲ與フヘシ但事宜ニ依リ巡查一名ヲシテ遞送護衛セシムヘシ

第十四條 前條ノ許可ヲ爲シタルトキハ即時ニ差出人受取人ノ住所氏名種類數量運搬ノ日時場所等ヲ詳記シ沿道警察本分署ニ通報スヘシ

警察本分署ニ於テハ各部内沿道ノ町村戸長役場へ通報シ人家稠密ノ地ハ特ニ警戒ヲナサシムヘシ

第十五條 火藥類ノ運搬ハ可成水路ヲ取ラシメ若シ陸路ヨリスルトキハ人家稀疎ノ地ヲ撰マシムヘシ

第十六條 營業者規則ヲ犯シ所刑ヲ受ケタルキ尙ホ營業ヲ禁止又ハ停止スヘキ者ト認ムルニ於テハ其裁判宣告ノ謄本ヲ添ヘ詳細狀情ヲ具シ本廳ヘ開申スヘシ

第十七條 煙火及マツチ製造所建設ノ願出アルトキハ巡查ヲ派遣シテ其實地ヲ檢査セシメ危險ノ慮ナキ者ハ認可ヲ與フヘシ

前項ノ認可ヲ爲シタルトキハ速ニ其地構造等ヲ詳記シ警察本署ヘ申報スヘシ

第十八條 前各條中警察本署ト明文ヲ掲ケサルモノハ總テ警察署ノ取扱手續ヲ規定シタルモノトス

附錄 第一書式 用紙美濃界紙

明治何年 何月 火藥類賣買報告表 何警察署長 氏 名 印

賣渡ノ部		買入ノ部	
營業者名	火藥	營業者名	火藥
何ノ某	何百圓	何ノ某	何百ケ
何ノ某	、	何ノ某	、
合計		合計	
營業者名		營業者名	
火	藥	火	藥
劇發	火藥	雷	管
雷	管	導	火
管	管	導	火
管	管	導	火
管	管	導	火

第二書式 大藥類賣買帳

明治 年 月 日

買受人 氏 名 印

住所族籍 年 齡

一 火藥	何百圓
一 雷管	何百ヶ
一 何々	

右ハ銃獵又ハ煙火製造用ニテ免狀ヲ檢閲シテ賣渡ス或ハ坑薬用ニテ賣渡ス許可証何號別冊ニ綴ル(許可証ハ順次番號ヲ付シ)別冊ニ綴リ保存スヘシ)以下倣之

第三書式  
火藥類入帳

住所族籍  
賣渡人 氏 名  
年 齡

明治年月日(官廳ヨリ拂下ケ得タルトキハ)其應名ヲ記載スヘシ)

一 火藥 何百圓

一 雷管 何百ヶ

一 何々

右ハ前記名ノ人ヨリ買入ル賣渡証書何號別冊ニ綴ル或ハ前記官廳ヨリ拂下チ受ク(賣渡証書ハ順次番號ヲ付シ)別冊ニ綴リ保存スヘシ)以下倣之

第四書式  
用紙美濃界紙

何第何號(署名ノ頭) 火藥類買入許可証	住所族籍 氏 名
一 火藥 何百圓	
一 雷管 何百箇	
一 何々	

右火藥類銃獵又ハ煙火製造或ハ坑薬土功用ノ爲メ營業者ヨリ買入ル、フチ許可ス

年 月 日

第五書式  
用紙全上

何第何號(全上) 火藥運搬許可証

住所族籍  
氏 名  
氏 名

一 火藥 何貫目 荷數幾箇

一 何々

右火藥類前記名ノ者ニ於テ年月日時何地ヲ發シ何地ヲ經テ何郡町村何某へ運搬スルヲ許可ス

此証ハ運搬中之ヲ携帯シ運搬畢ラハ直チニ當署若シハ何警察署又ハ分署へ返納スヘシ  
年 月 日 明治十八年八月廿五日 何 警 署 實 署 印

○警甲第六十號 遺失物取扱心得別紙通り改定候條此旨相達候事 警察本署

遺失物取扱手續

- 第一條 遺失物ヲ拾得届出タルトキハ第一號領置証書式ニヨリ物件個數金員及ヒ氏名等ヲ記入シ之レニ押印セシメ第二號受領証ヲ下付スヘシ  
但物件ニハ領置証ト同一ノ番號ヲ付シ置クヘシ
- 第二條 前條ノ届出アルトキハ第三號書式ニ依リ三十日間之ヲ揭示スヘシ
- 第三條 甲署所管内ニ於テ遺失物ヲ拾得乙署ニ届出タルトキハ之ヲ甲署ニ通知シ甲乙兩署ニ於テ揭示スヘシ
- 第四條 逃走シタル家畜類ヲ取押ヘ及ヒ長大ニシテ運搬シカマキ物件ヲ届出タルトキハ之ヲ本人ニ預ケ置キ若シ本人ニ於テ領置シカマキトキハ便宜處分スヘシ
- 第五條 遺失物一年内物主明白ナルトキハ第一號書式裏面第二欄内ニ拾得者ト共ニ押印セシメ該物件ヲ遺失者ニ下付スヘシ其拾得者ニ給スルトキモ亦全シ
- 第六條 官廳ノ徽章又ハ檢印アルモノ及印章等ヲ拾得者ニ給スルトキハ徽章檢印アル者ハ之ヲ去リ印面ハ削ルヘシ
- 第七條 郵便物ヲ拾得届出タルトキハ物品ハ最寄郵便局ニ送付シ其費用ハ該局ヨリ拂ハシムヘシ

第八條 賊ノ拾得品止宿人逃亡シ殘留品又ハ湯屋ニテ交換セラレタル物品等ハ明治十二年三月十四日內省番外達ニ依リ處分スヘシ

第九條 遺失物取扱規則第四條第二項ノ場合ニ於テ價額ヲ評價セシメルトキハ其費用ハ物主ヲシテ償ハシム

第一號書式 (●印ハ朱書)

<p>第 號 遺失物領置証</p> <p>一何品(或ハ金何圓)</p>		<p>署長認印</p> <p>割印ハ署印</p>
<p>受領年月日</p>		<p>主任官氏名印</p>
<p>第 號 遺失物受領証</p> <p>一何品(或ハ金何圓)</p>		<p>拾得者</p> <p>住 所 氏 名</p>

第二號書式

第一號裏面

前書ノ物件正ニ領置候條後日處分ノ節此証書持參可致者也  
年 月 日  
何警察(又ハ分)署印

明治 年 月 日

ニ於テ拾得

住 氏 名 印

表面ノ物品御下付(給與)相成正ニ受取候也

明治 年 月 日

拾得者 氏 名 印

表面ノ物品正ニ預リ候也

遺失者 住所氏名印

明治 年 月 日

預リ人 住 氏 名 印

第二號裏面

遺失物拾得者心得

- 第一 表書ノ物品其拾得セン日ヨリ滿一ケ年ヲ過レハ遺失物取扱規則第二條ニ依リ得者ニ給ス因テ得者ハ一ケ年ヲ經過シタル後三十日間ニ先ニ届出タル官署ニ此証書ヲ持參シ物件ヲ受取ルヘシ
- 第二 一ケ年内主アレハ遺失物取扱規則第四條ニ依リ全還スヘシト雖トモ得者ニ報勞ノ爲メ其價額百分ノ五ヨリ少ナカラス二十ヨリ多カラサル金額ヲ給スヘシ
- 第三 遺失物ノ領置ニ不便ナルモノ又ハ破損シ易キモノ若クハ耐久シ難キモノハ公賣シテ其代價ヲ領置スヘシ
- 第四 逸走シタル家畜類ヲ拾得届出タルトハ八日内其主ナケレハ公賣シテ得者ニ費用ヲ償ヒ仍ホ代金ノ剩余アルモノハ官ニ領置シテ處分スヘシ
- 第五 拾得ノ物品盜難ニ係ルモノハ本例ノ限ニアラス
- 第六 拾得者狂所ヲ轉換シ又ハ旅行中ニ係ルモノハ后日處分ノ爲メ代理人ヲ立テ置クヘシ
- 第七 改氏名又ハ水火盜難或ハ遺失紛失等セシトキハ其事由



ヲ申出本証ノ書換若クハ下渡ヲ請フヘシ  
第八 滿期處分ノ際得者失踪又ハ死亡シタトキハ其相續人ニ  
給與スヘシ若シ相續人ナキトキハ官設ス

第三號書式

記

一 金何圓

一 何品何ヶ

一 但何ヶ

一 何ヶ

右何年何月日(夜)何郡何町村ニ於テ何ノ誰拾ヒ得候者届出候條必當リノ者ハ何年何月  
日迄當署へ可申出候事

年 月 月

何 警 察 署  
又 ハ 分 署

○警甲第十七號

明治十八年十月二十三日

警察本署

民事上權利者ヨリ裁判所ノ命令書ヲ以テ該裁判ノ執行ヲ請願スル場合ニ於テ其義務分署  
ノ部内ニアルトキハ當該分署ニテ直チニ執行方取計不苦候條此旨相達候事

○廳第五十二號

明治十九年五月十九日

警察本署

司獄官吏非常心得別紙之通り監獄本署へ相達候條該心得第二條ニ掲ケタル無數ノ報鐘ア  
ルトキハ警部巡查ヲシテ速ニ應援セシムヘシ

右相達ス

●別冊ハ第二類第五監獄部ニ掲載セルヲ以テ茲ニ畧ス

○警甲第三百五十二號 明治十九年八月四日

警察本署

銃炮ニ關スル事務取扱手續別紙之通制定ス

右相達ス

銃砲取締規則取扱手續

第一條 警察署ニ於テハ甲乙兩種ノ銃籍ヲ製シ甲種ハ軍用銃乙種ハ免許銃ヲ登記スヘシ

第二條 銃籍ニハ銃砲ノ種類番號(軍用銃)所有者ノ住所氏名及買賣讓與改造廢毀等ノ事  
項ヲ登錄スル者トス

第三條 軍用銃及免許銃買賣讓與ノ願届アルトキハ銃籍ニ照ラシ不都合ナキモノハ其一  
通ニ認可ノ指令ヲ與フヘシ但警察所管ヲ異ニスルトキハ該警察署へ通知スヘシ

第四條 軍用銃ヲ獵銃ニ改造シ又ハ鑄潰シ廢銃等ノ届出アルトキハ現品ヲ調査シ改刻印  
ヲ削除スヘシ

第五條 新規軍用銃買入願アルトキハ其目的及本人ノ身元ヲ探偵シ願書ト共ニ警察本署  
へ送致シ捺印願アルトキハ添書ヲ付シ本人又ハ代人ヲシテ警察本署へ差出サシムヘシ

第六條 警察本署ニ於テハ軍用銃番號簿ヲ製シ新要買入軍用銃ニ捺印ヲ與ヘタルトキハ  
其種類番號及所有者ノ氏名ヲ該簿ニ登錄シ且ツ所管警察署へ申報スヘシ

第七條 警察署ニ於テ前條ノ申報ヲ受ケタルトキハ之ヲ銃籍ニ登記スヘシ

第八條 警察署ハ毎年未銃確現數表ヲ作り翌年一月二十日限り警署長へ差出スヘシ

第九條 銃籍及現數表ノ様式ハ附銃ニ從フヘシ  
附銃

第一

銃籍書式

乙種ニハ番號ノ欄ヲ設ケズ

銃名 玉目 番號	住所身分 氏名	事			項
		年月日郡町村番地某へ賣讓渡ヲ可認ス	年月日廢銃届書	年月日獵銃改造書ニ付乙種銃籍ニ移ス	
					年月日府縣郡町村へ轉居ス

第二

銃砲現數書式

明治何年十二月卅一日銃砲現數表

何警察署長  
官氏名印

銃		免		軍用銃			種類 何郡 何郡 小計
通計	室內射的銃	火繩四匁八分玉以下	形洋西 風各 種獵銃	通計	卅目玉以上 百目玉以上 四匁九分玉以上	形洋西 各種元込小銃 各種小銃 ヒストル	

第四類

第二

保安及風俗警察

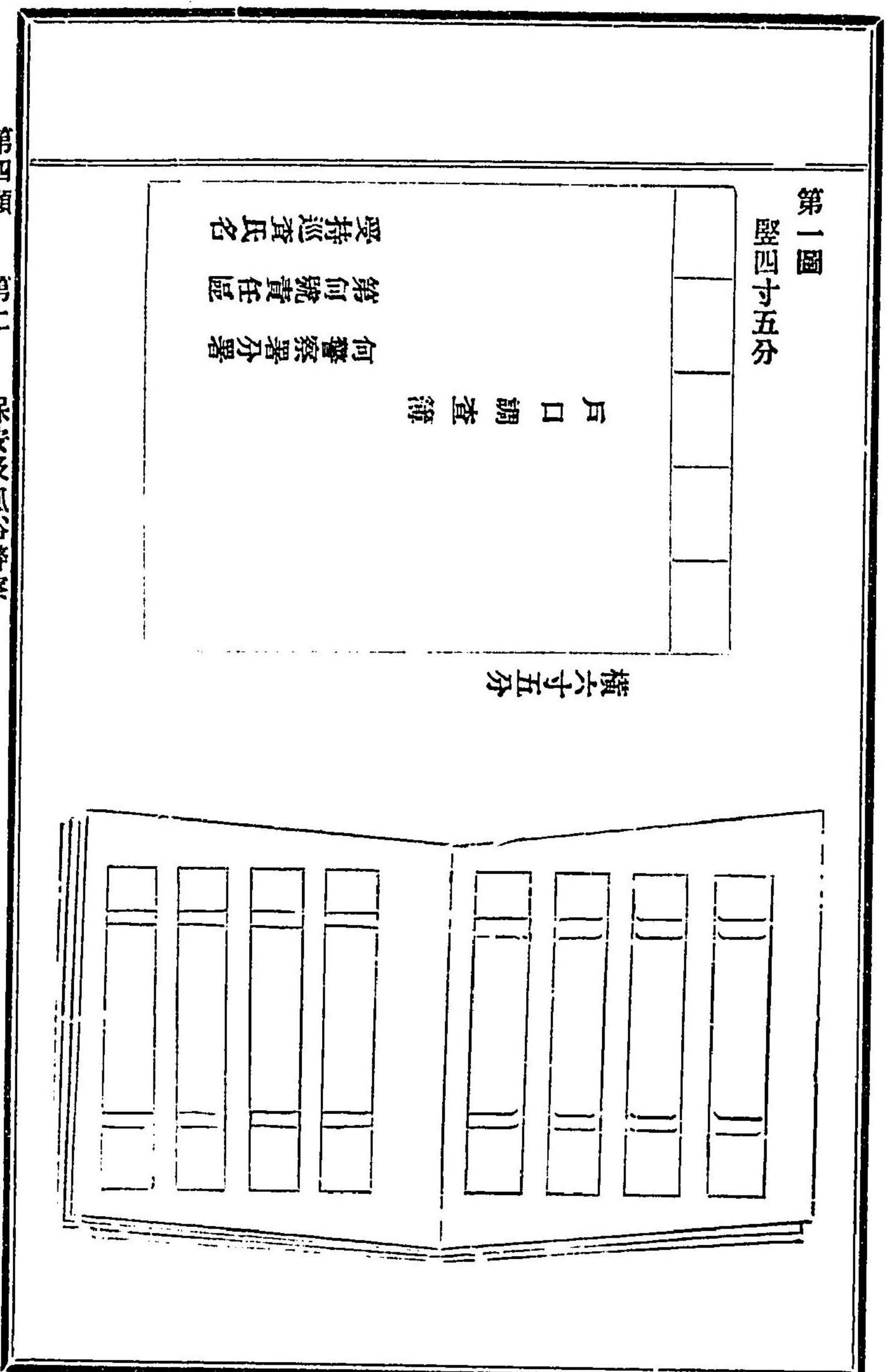
○廳第六十六號 明治二十一年四月十八日  
戸口調査規則左ノ通改定シ來ル五月一日ヨリ施行ス  
右訓令ス

戸口調査規則

- 第一條 戸口調査ハ責任區受持巡查ヲシテ之ヲ執行セシムヘシ
- 第二條 戸口調査ニ付受持巡查ハ區内ノ住民ヲ左ノ三種ニ區別スヘシ但警察署長又ハ分署長隨時其當否ヲ監査スヘシ
  - 一 甲種 資産常職アリテ常ニ注意ヲ加フルニ及ハサルモノ
  - 二 乙種 第十二條ノ各項ニ掲グルルノ類
  - 三 丙種 第十三條ノ各項ニ掲グルルモノ
- 第三條 甲種ハ毎年春季一回乙種ハ三ヶ月一回丙種ハ一ヶ月二回以上調査スルモノトス  
其日時ハ警察署長又ハ分署長之ヲ定ムヘシ
- 第四條 警察署長又ハ分署長ニ於テ必要ト認ムルトキハ定期ニ拘ハラズ臨時調査セシムルヲ得
- 第五條 戸口調査ハ一般ニ施行スト雖トモ警察署分署ノ所在地外ニシテ人家稠密ナラサル(市街ノ形ヲナ)村落ハ丙種ニ限リ之ヲ調査セシメ其度數ハ前條定ムル所ニ據ル但市街トナスト否トハ警察署長又ハ分署長之ヲ査定スヘシ
- 第六條 市街地(警察署所在地及市街)受持巡查ハ第一圖ノ簿冊ヲ製シ其書式ニ據リ甲乙丙ヲ朱書シ村落受持巡查ハ第二圖ノ簿冊ヲ製シ丙種ト認ムル氏名ヲ登錄スヘシ

- 第七條 戸口調査簿ハ毎月一回警察署長又ハ分署長ニ於テ點檢ヲ爲スヘシ但所在地外ニ係ルモノハ監督巡視ノ際之ヲ點檢スルモノトス
- 第八條 丙種ノ他ノ責任區ニ移住シタルトハ居住地ノ受持巡查ヨリ警察署長又ハ分署長ニ報告スヘシ但所在地外責任區ヨリ同所管所在地外ノ責任區ニ移住シタルトキハ該受持巡查ヨリ直ニ居住地ノ受持巡查ニ通知スヘシ
- 第九條 警察署長又ハ分署長前條ノ報告ヲ受ケ他管ノ移住ニ係ルトキハ其所管ノ警察署分署ヘ所在地ヘノ移住ハ受持巡查ヘ告知シ其告知ヲ受ケタル警察署分署ハ更ニ其受持巡查ニ告知スヘシ
- 第十條 巡查一年二回六月第三圖(市街)第四圖(村落)ノ戸口調査表ヲ製シ警察署長又ハ分署長ニ差出スヘシ
- 第十一條 警察署又ハ分署長ハ前條ノ戸口調査表ヲ審查シ統計表ヲ製シ七月十五日限リ警察署長ニ差出スヘシ但統計表ハ市街村落ヲ區別シ前條ノ圖式ニ準スヘシ
- 第十二條 左ニ掲グルルモノヲ以テ乙種トス
  - 一 學舎
  - 二 寺院
  - 三 新ニ開店シタル家(半年間)
  - 四 他ヨリ移住シタル者(全上)
  - 五 諸職人及之ヲ雇役スル家
  - 六 車夫及之ヲ雇役スル家

- 七 細民ノ住居スル場所
- 八 多人數集會スル諸會社(銀行等法律ヲ遵奉シ設立シタルモノハ除ク)
- 九 第十三條第五項第六項ニ掲ケサル警察取締ニ屬スル諸營業者
- 第十三條 左ニ掲クルモノヲ以テ丙種トス
  - 一 被監視者假免懲罰者及刑餘ノモノ
  - 二 賭博ノ處分ヲ受ケタルモノ
  - 三 數次賣淫ノ處分ヲ受ケタル者
  - 四 公事訴訟ニ關係スルモノ
  - 五 條例ニ違背シ處分ヲ受ケタル古物商及質屋
  - 六 彫刻師湯屋旅人宿下宿木賃宿料理店飲食店貸座敷
  - 七 無職無産ノモノ
  - 八 數次轉居シテ住所ヲ定メザルモノ
  - 九 諸種ノ惡評アルモノ
  - 十 第十四條 戶口調査ヲ爲シタル時間及其戶數ハ勤務日誌相當欄内ニ記載シ捺印スヘシ



第四類 第二 保安及風俗警察



第四圖

自明治 至同		年 月		種 別		前 期 比 較		何警察署分署 受持巡查 氏 名 印
表 查 調 口 戶								

例凡 第三圖ノ戸數ハ戸主ノ種別ニ依リ相當欄内ニ記入スヘシ  
第三圖第四圖ノ調査ハ六月十二月盡日ノ現數ニ據ル但入籍移住ハ本期内  
ニ係ル總數ヲ記載スヘシ

第四類

第三 衛生警察

○甲第二十號 明治十五年二月十三日

舶來染粉等ノ儀ニ付テハ明治十年第五百一十一番同十一年第九十一番及ヒ昨十四年甲第  
百十六號ヲ以テ及布達置候處有害無害ノ色質左ノ通相心得飲食物玩弄品ノ着色ハ第一號  
表ノ色料ヲ用ウルヲ禁シ第二號表ノ色料ハ自今相用不苦候條此旨布達候事  
但左ニ列記セサル舶來ノ色料ハ其現品相添出願許可ヲ得ルニ非レハ飲食物玩弄品ニ  
着色スルヲ許サス

○第一號表有害色質

白色ノ色質類

- (一) 鉛白(鹽基性炭酸鉛) 鉛霜 鉛粉 白粉
- (二) 亞鉛白(酸化亞鉛) 爐甘石
- (三) 硫酸バリット
- (四) 右ノ合劑及ヒ之ニ他ノ白色白質ヲ混シタルモノ

赤色ノ色質類

- (一) 朱人工製
- (二) 鉛丹(赤色酸化鉛)
- (三) コローム(赤(鹽基性)コローム酸鉛)

第四類 第三 衛生警察

- 〔四〕砒石含有洋紅（ジヒュウキョウ）
  - 〔五〕紅粉アニリス赤黄色ノ色質類
  - 〔一〕雌黃（硫化砒石）天然并ニ人工製ノ硫化砒石 王黃支那黃ト云フモノ
  - 〔二〕鉛黃（鹽基性コロル鉛） 鑛黃ト云フ
  - 〔三〕酸化鉛 マシコット
  - 〔四〕コロム黄（コロム酸鉛）（パリールセルヘール）一名新黃
  - 〔五〕ナーヘルス黄（アンチモン酸鉛）
  - 〔六〕ウルトラマレール黄（コロム酸バリート）「ケルビーネ」ト云フ
  - 〔七〕カルボユム（劇毒）ナリ
- 橙黄ノ色質類
- 此色質類ハ右ニ記載スル所ノ赤色并ニ黄色々質ヲ合セタルモノナリ
- 青色ノ色質類
- 〔一〕扁青（水鹽基性碳酸銅）（岩紺青。鑛青。ブレイメル。氏青。バンブエルヘル）青
  - 〔二〕スマルト 王青亞酸化「コバルト」ニハ染メタル硝子塊 通常砒石ヲ含ミテ稍々毒トナルモノ
  - 〔三〕砒石含有コバルト鑛ヲ蒸灼シテ製シタル青色質ノ類
- 紫色ノ色質類

- 此色質ハ右ニ記載スル所ノ青色并ニ赤色ノニ味ヲ混合シタルモノナリ
- 綠色ノ色質類
- 〔一〕銅青（鹽基性醋酸化銅） アヲ綠青
  - 〔二〕綠質（フルユンスグエーケル氏綠） 山綠。化水酸化銅ニ白色粘土若クハ他ノ白色物ヲ混シタルモノ
  - 〔三〕ブレイメル氏綠 化水酸化銅ニ「キプス」
  - 〔四〕シテール氏綠（亞砒酸銅） 鑛綠
  - 〔五〕シユワインフニルタル氏綠 （醋酸及亞砒酸。酸化銅集合物）
  - 又「巴里斯綠」英國綠。「ヘレンス」綠。新綠。ミチス綠。「カッセル」綠。「モス綠」。「バムガイン」綠等ノ名アリ
  - 〔六〕コロム綠 （コロム酸鉛ト「ベル」又「ナーメルス」綠。油綠ト云フ）
  - 〔七〕リンマンズ氏綠（亞酸化コバルト酸化亞鉛）「コバルト」綠ト云フ
  - 〔八〕此他有毒ノ青色及ヒ黄色々質ノ混合物ヨリ製シタル綠色々質
- 褐色ノ質類
- 此色質ハ右ニ記載スル所ノ赤色々質ニ黑色質ヲ混シタルモノナリ
- 黑色ノ色質類
- 日常用フル所ノ黑色々質中ニハ有毒ノモノナシ
- 鑛色ノ色質類

(一) 假金粉并假金箔 即チ銅并亞鉛及銅ノ混合物即チ眞鍮  
 (二) 假銀粉并假銀箔 即チ亞鉛并錫  
 (三) 青銅色  
 (四) 青銅  
 (五) 砒石含有ノ「アニリネ」赤質  
 ○ 第二號表無害色質  
 白色ノ色質類  
 (一) 胡粉ノ調理セルモノ(炭酸石灰)  
 (二) キフス末(硫酸石灰)石膏  
 (三) アスベスト末  
 (四) 鹿角象牙若クハ骨ノ白ク燒キタルモノ 磷酸及ヒ炭酸ノ石灰鹽  
 (五) 白石ノ滑石ヲ淘汰セルモノ  
 (六) 滑石ヲ淘汰セルモノ  
 (七) 白色粘土ヲ淘汰セルモノ  
 赤色ノ色質類  
 (一) 鐵丹  
 (二) 赤石脂 酸化鉄粘土 含有ノモノ  
 (三) 代赭石ヲ淘汰セル(血石) 酸化鉄ノ粘土ヲ含ムアリ

(四) 燒製セル酸化鉄  
 (五) カルミン 許チ混スルモノ  
 (六) 麒麟血  
 (七) 赤色ノ漆用色質  
 此色質ハ「コセニルレ」護謨ラツク。茜草若クハ赤蘇木ヲ熱湯ニテ湯出シ其浸出液ニ明礬ヲ混シ之ニ曹達ヲ加ヘテ沈澱ヲ生セシムヘシ然ルトキハ礬土ノ沈澱スルニ當テ色質ヲ伴フモノナリ是レ即チ漆用ノ色質ナリ  
 (イ) コセニルラツク  
 (ロ) 護謨ラツク (是レ大戟科 植物 *Alantides Laccifer Willd.* ヨリ取ル處ノ樹脂ヨリ製ス)  
 (ハ) 茜草ラツク (茜草 *Rubia Tinctorum* ノ根中ニ存スル) 色質ナリ  
 (ニ) 赤蘇木ラツク (木蘇木 *Haematoxylon Campechianum*) ノ色質ナリ  
 (八) 赤蘇木及ヒフラシリノ木ノ浸出液  
 (九) 日本紅 紅藍 *Carthamus Tinctorius* 花ノ浸出劑ナリ  
 (十) カルクミートネ (紅藍ノ花ヨリ採リ) マル色質ヲ云フ  
 酒類并ニ「リキニール」ヲ染ムルニ用ユヘキ赤色液汁



- 〔一〕狗骨南天ノ實汁
- 〔二〕美人草ノ葉汁
- 〔三〕覆盆子ノ實汁  
黄色ノ色質類
- 〔一〕シテート黄許多ノ植物性黄色々質ノ浸出液ニ明礬ヲ混シ陶  
化セル胡椒ト共ニ沈澱セシメタルモノヲ云フ
- 〔二〕黄土 硫酸礬土ノ化水酸  
化鉄ヲ混スルモノ
- 〔三〕黄柏越幾私(是レ黄柏 *Morus Tinctorius* Se. 明礬ト混シ或ハ  
混セスマシテ煎出ミタルモノナリ)
- 〔四〕クエルチトロニ越幾私(是レ北亞米利加産ノ植物 *Quercus Tinctoria*.  
ノ皮ヨリ製ス)
- 〔五〕サフラン(是レ「サフラン」*Crocus Sativus* Se. 雌蕊)
- 〔六〕狗骨南天根越幾私
- 〔七〕鬱金(是レ鬱金 *Crocus Longus* Se. 根ノ煎劑ヲ云フ○鬱金沙  
即チ「ピクリン」酸ト素ヨリ別ナリ)
- 〔八〕カレンシユラ、チフビチナリア「ト稱スル植物花ノ煎劑 (*Calendula Officinalis*  
ノ花)
- 〔九〕山梔子  
橙黄ノ色質類

- 〔一〕「サルレアン」ノ亞爾加里性煎劑(亞米利加ノ熱帶地方及ヒ東印度ニ産スル  
*Biaccaea* ノ科目 *Biaccaea lanata* Se. ノ實ヨリ得ル所  
ノ色質類)
- 〔二〕此ノ他前ニ記載スル無害ノ赤色及ヒ黄色化ノ合劑
- 青色ノ色質類
- 〔一〕純「メルレス」青(銅及ヒ亞鉛ヲ含ム)
- 〔二〕洋藍(濃硫酸四分ニ溶解シ遊離ノ過酸ヲ曹  
達若クハ炭酸石灰ニテ中和セルモノ)
- 〔三〕インシゴカルメン(シニルホインシコ酸曹達)洋藍ノ硫酸溶液ニ「コロルナトリウム」  
ヲ混シテ沈澱セシメタル者ヲ云フ
- 〔四〕郡青 珪酸「ナトリウム」及ヒ「珪酸礬土」  
ヲ混シテ沈澱セシメタル者ヲ云フ
- 〔五〕ラツシムース(海藻ヲ浸出シテ得タル青色々質)
- 〔六〕赤蘇木ノ「アルカリ」性浸出液并越幾私
- 〔七〕「サルサイレ」(海藻ヨリ得タル暗  
青色ノ泥ヲ云フ)
- 〔八〕青黛(藍草ヨリ製シタル者ヲ云フ近來坊間ニ販賣  
セル青黛類似ノ品ニハ毒物アリ注意スヘシ  
紫色ノ色質類)
- 〔一〕ラツシムース
- 〔二〕右ニ記載スル所ノ無害ノ赤色及ヒ青色々質ノ混合物
- 〔三〕翠草類 *Silasperrum officinale* Se. ノ根  
根中ノ色質

綠色ノ色質類

- 〔一〕綠汁 是レ鼠季 (Rattus callicarpus) ノ末熟ナル實ヲ細末トナシ泡醸セシメテ其汁ニ明礬ヲ混シ加里ヲ以テ沈澱セシメタル色質ヲ云フ
- 〔二〕綠土 (砒酸亞酸化鉄ノ加里及麻屈涅) 矢亞及粘土ヲ混スルモノ
- 〔三〕綠色ノ郡 青 (砒酸ナトリウムト) 砒酸礬土トヨリ成ル
- 〔四〕此他右ニ記載スル無害ノ青色及ヒ黄色々質混合物 (例ヘハ純「ベルレーズ」ト鬱金ト鬱金浸出液ノ混合物)
- 褐色ノ色質類
  - 〔一〕ケールセチンベル (土様ノ褐色炭)
  - 〔二〕綠土 (ウンブラ) 積土ニ酸化水酸化鉄及ヒ化水麻屈涅矢亞ヲ混スルモノ
  - 〔三〕鑽綠 (ビーステル) 酸化滿俺ト化水過酸滿俺トヨリ成ル
  - 〔四〕阿仙藥褐色 (阿仙藥越幾私)
  - 〔五〕此他無害ノ赤色及ヒ黑色々質ノ混合物
- 黑色ノ色質類
  - 〔一〕骨炭
  - 〔二〕煤 (槽物性ノ炭)

〔三〕黒石脂 (黒色ノ「バラ」) 鑽色ノ色質類

- 〔一〕硫化錫
  - 〔二〕錫葉
  - 〔三〕バラヒート
- 總テ戲弄物飲食物ノ染色料ハ決シテ左ノ物質ヲ含ムベキ製劑物及ヒ色質ヲ用フヘカラス
- |        |       |       |         |       |
|--------|-------|-------|---------|-------|
| 砒石     | アンチモン | 鉛     | コローム    | 銅     |
| コバルト   | モリブデン | カドミウム | 亞鉛      | ニッケル  |
| ウラニウム  | 蒼鉛    | 水銀    | ゴムギエツター | ビクリン酸 |
| アニリネ色質 | 價金箔   |       |         |       |

○甲第二十二號 明治十五年三月十三日

製氷取締規則左之通相定明治十三年九月甲第二百二十二號布達製氷及販賣取締規則ヲ廢止候條此旨布達候事

製氷取締規則

- 第一條 凍水ヲ製造セントスルモノハ末項書式ノ願書ヘ其製造場所及貯藏場ノ位置ヲ詳記シタル圖面ト地元町村或ハ地主ノ承諾書相添其地郡役所ヲ經テ毎年十月十五日限リ本廳ニ願出ヘシ
- 第二條 製氷ノ場所及ヒ貯藏場ハ實地檢査水性試験ノ上有害ト見認ムルトキハ之ヲ許サス

第三條 製氷貯藏ノ都度其町村戸長ニ届ケ出テ検査ヲ受クヘシ

第四條 製氷貯藏シ畢リタル時ハ其場所毎製氷ノ噸數ヲ詳記シ其地郡役所ヲ經テ本廳ニ願出試験ヲ受クヘシ

第五條 試験之上性質善良ナル者ニ限リ發賣免許証ヲ付與シ不良ノ分ハ沒棄セシムヘシ

第六條 發賣免許ヲ得タル貯藏場ハ所管警察署又ハ分署ノ封印ヲ受ケ發賣ノ際同署へ届出開封ヲ得ヘシ

第七條 製氷ヲ受賣セントスルモノハ其發賣許可ヲ得シ者ノ連署ヲ以テ郡役所ニ願出ヘシ

第八條 製氷發賣許可ノ者卸小賣受賣トモ其門戸ニ左式ノ看板ヲ掲クヘシ

免 許

何地凍水賣捌所

何郡町村

製造人 何 某

免 許

何地凍水賣受所

何郡町村

受賣人 何 某

堅三尺

堅三尺

第九條 發賣許可ノモノ及ヒ受賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲシテ行商ヲナサシムルキハ其行商署ノ住所姓名ヲ詳記シ連署ヲ以テ郡役所ニ願出行商鑑札ヲ受クヘシ

第十條 行商者ハ其容器ニ必ス左ノ鑑札ヲ付スヘシ

堅三寸五分

免許製造人 何 某

凍水行商鑑札 (或ハ直賣)

何郡町村

受賣人 何 某

(或ハ)何郡町村(或ハ直賣)

行商人 何 某

第何號

何 郡 役 所

年號月日

第十一條 製氷ヲ他管ニ輸送スルトキハ其地郡役所ヲ經テ本廳ニ願出輸送免許証ヲ受クヘシ

第十二條 他管ヨリ輸入ノ製氷ヲ發賣セントスルモノハ其管轄廳許可ノ證ヲ添ヘ郡役所ヲ經本廳ニ願出ヘシ検査ノ上不都合ナキトキハ更ニ發賣免許ノ証ヲ付與スルモノトス

第十三條 製氷發賣許可ノ証及ヒ行商鑑札トモ毎年十二月十五日限り返納スヘシ

第十四條 自用ノ爲メ凍氷ヲ製造スル者ト雖モ第一條ヨリ第四條マテノ規則ニヨリ願出試験ヲ受クヘシ

用紙半紙罫紙

製氷製造願

何郡町村字何々何番地

一何池水又ハ溪水

河水等

右ノ場所ニ於テ凍氷製造何郡町村字何官民有地番地へ貯藏致度候條實地御見分水性御  
試驗ノ上御許可被成下度依テ別紙製造場處及貯藏場繪圖面所有地外ニ於テ製造貯藏チ  
所有主承諾書等 相添此段奉願候也 爲スモノハ(地元町村又ハ  
チ記スヘシ)

年 月 日  
長 官 宛  
何郡町村番地或ハ寄留同居  
製氷人 族籍 何 某印  
前書之通り相違無之依テ與印仕候也

何町村戸長 何 某印  
何町村戸長 何 某印

○甲第百十六號 明治十五年七月二十九日  
食用獸屠場規則左之通相定本年九月一日ヨリ施行候條此旨布達候事  
但從前願出許可ノモノト雖トモ此規則ニ依リ更ニ可願出事  
食用獸屠場規則  
第一條 免許屠場ニアラサレハ食用ノ牛羊豚チ屠殺スルチ禁ス  
第二條 屠場チ設ケントスルモノハ衛生上無害ノ地チ撰ミ第一號願書ニ屠場ノ圖面并  
潔物ノ地中ニ滲透セス其惡氣ノ大氣チ不良ナラシメサル適宜ノ方法書及該主ノ承諾書

(所有地外ニ開設)チ添ヘ所管郡役所チ經テ本廳ニ願出ツヘシ  
(スルモノヲ云フ)

第三條 屠場ノ許可チ得タルモノハ所管警察署或ハ分署ニ届ケ出テ且ツ第貳號ノ標札チ  
屠場ニ掲表スヘシ

第四條 屠殺セントスル牛羊豚ハ先ツ獸醫ノ検査チ得第五條ノ検査証チ受クヘシ

第五條 獸醫ハ屠殺スヘキ牛羊豚ノ健否チ検査シ病獸ニアラサルモノト確説シタルモノ  
ハ第三號ノ検査証チ交付スヘシ

但検査証チ得タル後五日チ經過スルトキハ無効ナルヘシ

第六條 屠獸セントスルトキハ所管警察署或ハ分署ニ申出臨場検査チ受クヘシ

第七條 第五條検査済ノ獸畜ト雖トモ派出官ニ於テ若シ疑義アリト認ムルモノハ屠殺チ  
止メシムルコトアルヘシ

第八條 屠殺スヘキ獸畜ノ外ハ屠場内ニ入ル、チ許サス

第九條 屠場ハ常ニ清潔チ主トシ精々掃除スヘシ

第十條 屠場免許人轉居若クハ廢業スルトキハ所管郡役所チ經テ本廳ニ届出ツヘシ

第一號 屠場開設願  
何郡町村字何々番地

宅 何々 地官有地第何種又ハ地主何某  
畑 何々 右之場所ニ於テ屠場開設致度奉存候間御許可被成下度別紙圖面并方法書及地元町村地  
主ノ承諾書(所有地外ニ開設スルモノヲ云フ但シ官有地チ拜)相添此段奉願候也  
(借開設スルモノハ)地主ノ承諾書(五字チ除ク)

年 月 日

何郡町村番地 又ハ寄留 同居

何 某 印

地元衛生委員

何 某 印

地元戸長

何 某 印

長 官 宛

第二號

免許

〇 屠 獸

何郡町村番地

某

堅三尺

第三號 屠獸検査証

何郡町村何某所有

一何獸牝何毛

何歳

右検査候所病獸ニ無之候也

年 月 日

何郡町村番地

獸醫

何

某 印

○甲第五號

明治十七年二月八日

虎列刺有病地方ヨリ來ル船舶検査規則左通之相定候條此旨布達候事

虎列刺有病地方ヨリ來ル船舶検査規則

第一條 本則ハ傳染病豫防規則第十三條ニ據リ規定ス

第二條 虎列刺有病地方ヨリ來ル船舶ハ検査ヲ受クルニアラサレハ他港ニ進航陸地又ハ他船ト交通及乗船人上陸積荷ノ陸揚ケヲ爲スベカラス

第三條 該病患者死者ナキ船舶ハ検査掛ニ於テ直ニ其他港ニ進航陸地又ハ他船ト交通及乗船人上陸積荷ノ陸揚ケヲ許可スヘシ

第四條 該病患者死者アルトキハ検査掛其船舶ヲ陸地及ヒ他船ニ傳染ノ虞ナキ場所ニ碇泊セシメ速ニ消毒法ヲ行フヘシ

患者ハ其居住若クハ検査掛ノ適當ト認ムル場所ニ送致シ死者ハ豫定ノ場所ニ送致シ其故人ノ望ニ任スニ火葬若クハ埋葬スヘシ

第五條 前條ノ手續ヲ終リタルトキハ検査掛乗船人積荷及船舶ニ消毒法ヲ施シ上陸陸揚若クハ陸地及他船ト交通又ハ他港ニ進航スルヲ許可スヘシ

第六條 本規則施行始終ノ期日并ニ場所ハ其都度告示スヘシ

第七條 此規則ニ違背シタルモハ違背罪ヲ以テ處罰セラルヘシ

第四類

第三 衛生警察

○甲第六十九號 明治十七年八月六日  
 食用ニ供スル雪塊ヲ販賣セントスルモノハ本廳ノ検査ヲ受クヘシ検査ヲ經サル食用ノ雪塊ハ自今販賣スルヲ禁ス此旨布達候事  
 ○甲第二十三號 明治十八年四月十三日  
 傳染病患者申報手續別紙ノ通制定ス此旨布達候事  
 但明治十三年八月甲第百十三號同年九月甲第百三十七號及同年十一月甲第百七十四號布達ハ廢止ス

傳染病患者申報手續

第一條 醫師ニ於テ傳染病豫防規則(明治十三年第三十四號布告)第一條ノ六傳染病ヲ診斷シ第二條ニ依リ衛生委員ニ通知スル場合ハ第一號書式ニ準據スヘシ  
 第二條 衛生委員ハ第二號書式ノ通告書ヲ製シ受領後十二時間内所管郡役所及警察署又ハ分署ニ發送スヘシ  
 第三條 衛生委員ニ於テ第一條ノ患者一家内二名以上若クハ一町村内四名以上發顯シタルトキハ其旨ヲ詳記シ前條手續ニ依リ通告スヘシ  
 前項ノ場合ハ隣接町村衛生委員ヘモ其旨通報スヘシ  
 第四條 郡役所ハ第二條及第三條ノ通告ヲ得タルトキハ第三號書式ノ申報書ヲ製シ受領後十二時間内之ヲ縣廳ヘ發送スヘシ  
 患者所在ノ町村隣郡ニ接スルカ若クハ交通頻繁等ノ地ニシテ隣郡ニ傳播スルノ兆アリト認ムルトキハ該郡役所ヘモ通知スヘシ

二十年改令  
三十七號

第四類 第三 衛生警察

第五條 六傳染病ノ外ト雖トモ流行ノ兆アルトキハ第一條第二條及第四條ノ手續ニ據リ申報又ハ通知スヘシ

第六條 患者治癒死亡ノ節ハ第一條第二條及第四條ノ手續ニ據リ此旨速ニ申報スヘシ  
 第一號書式

病名(何月日發病或ハ治癒死亡)  
 年月日時發病 年 月 日 時  
 右ハ何月何日何時頭書之通診斷候ニ付及御通知候也  
 年月日時 年 月 日 時

郡町村番地 郡町村番地  
 醫師 氏 名 印  
 郡町村衛生委員 御中

備考

疾病ノ再發ニ係ルモノハ病名ノ下(再發)ト記載シ種痘濟ニシテ天然痘ニ係ルモノハ(初種若クハ再三種濟)ト記載スヘシ  
 郡町村名ハ患者現在ノ地名ヲ記シ其寄留旅行等ニ係ルモノハ本籍ヲモ記入スヘシ  
 職業ハ各本人現業ヲ明記シ例ヘハ農業主(農ニシテ自ラ勞役セサル者)ト自ラ耕作スル者トチ區別シ又婦女老幼等ニシテ職業ナキ者ハ戶主何職業ト記スヘシ

第二號書式  
傳染病患者通報

病名(再發)月	發病轉診 年月日時	斷診斷醫 町村或ハ	誰父母何男女等 (種痘別)	氏名	年齢	新患者		舊患者	

前記之通醫師ヨリ通知有之候ニ付此段及通報候也

年月日時  
郡長 氏名宛  
戸長 氏名印  
又ハ警察署(分署宛)

第三號書式  
傳染病患者申報

(第二號樣式ニ同シ)  
右及申報候也

年月日時  
知事 宛  
郡長 氏名印

○甲第五十八號 明治十八年七月二十三日  
墓地及埋葬取締細則別冊之通制定九月一日ヨリ施行ス此旨布達候事  
但明治十五年四月甲第五十六號布達同年六月甲第八十八號布達及同年七月甲第一百五號布達ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

墓地及埋葬取締細則

第一條 墓地及火葬場ハ從前許可シタル區域ニ限ルヘシ  
但止ムテ得サル事情アリテ之ヲ取廣メ又ハ新設セントスルトキハ第一號式ニ據リ所管郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出許可ヲ得ヘシ

第二條 墓地ヲ新設スルハ國道縣道大川ニ沿ハス人家ヲ隔ルコト凡ソ六十間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障害ナキ地ヲ撰ムヘシ

第三條 墓地ノ周圍墓地ト非サルニハ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ内ニハ一丈以上ノ樹木塀牆ヲ存スヘカラス  
但從前ヨリ現存スルモノハ此限ニアラス

第四條 火葬場ハ人家及人民輻湊ノ地ヲ隔ル凡ソ百二十間以上ニシテ風上ニ位セサル地ヲ撰ヒ火爐煙筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防クノ裝置ヲナシ且周圍ニ塀牆ヲ設クヘシ

衛生警察  
六百十一

但山野等ニシテ人家遠隔ノ場所ナルトキハ適宜ノ裝置ヲナスモ妨ケナシ  
第五條 墓地及ヒ火葬場ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死  
亡シタルモノハ何人ニテモ之ニ埋葬スルコトヲ得從前別段ノ習慣アルモノハ此限ニア  
ラス

但死刑ニ處セラレタルモノハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋葬スヘシ  
第六條 火葬ハ成ルヘク日没後之ヲ行フヘシ

第七條 墓地ノ壙穴ハ深サ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及火葬  
ノ遺骨ヲ埋葬スルモノハ此限ニアラス

第八條 傳染病ノ死屍埋藏ノ壙穴ハ必ス深サ八尺ヨリ淺カルヘカラス

第九條 墓地及火葬場ニハ第二號式ノ標木ヲ建設スヘシ

第十條 墓地火葬場ハ常ニ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス

第十一條 墓地及火葬場ハ時宜ニ依リ禁止又ハ改良ヲ命スル事アルヘシ

第十二條 墓地及火葬ニハ管理者ヲ置キ其住所氏名ハ所管警察署又ハ分署及戸長役場ニ  
届出ツヘシ

第十三條 誌銘傳贊等ヲ記スル碑表ヲ建設セント欲スル者ハ其草案及ヒ建設ノ場所ヲ詳  
記シ所管警察署ヘ願出許可ヲ得ヘシ  
但死者ノ姓名族籍官位勳爵法號及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止マルモノ  
ハ此限ニアラス

第十四條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スルモノハ第三號式ノ届書ニ左ノ証書ヲ添戸長

役場ニ差出シ其認許証ヲ得埋葬又ハ火葬ノ際之ヲ管理者ニ交付スヘシ

一 病死シタルモノハ主治醫ノ死亡証

一 醫療ヲ受ケテ死シタルモノハ醫師ノ檢案書

一 妊娠四ヶ月以上ノ死胎ナルトキハ醫師又ハ産婆ノ死産証

一 變死ニ係ルモノハ檢視官ノ檢印ヲナシタル醫師ノ檢案書

一 死刑ニ所セラレタル遺体又ハ囚徒ノ死屍ヲ引取タルトキハ監獄署ノ死屍引渡書若  
クハ獄醫ノ証書寫ニ司獄官ノ檢印ヲナシタルモノ

一 二項三項ノ場合ニ於テ醫師ノ檢案書若クハ産婆ノ死産証ヲ得ル能ハサル事情アル  
モノハ親戚又ハ隣保二名以上ノ保証書

第十五條 戸長ハ前條ノ届書ヲ領収スルトキハ第四號式ニ據リ埋火葬ノ認許証ヲ與フヘ  
シ

但死亡人名簿ヲ製シ其死亡月日族籍氏名年齢等ヲ記載シ認許証ト割印スヘシ

第十六條 行斃人又ハ漂着ノ死体等ニテ引取人ナキトキハ戸長ハ其事由ヲ詳記シ檢視官  
ノ檢印ヲ受ケ之ヲ管理者ニ通知シ假葬ノ手續ヲ爲スヘシ

但原籍氏名等詐カナラサルモノハ男女ノ區別年齢ノ推算等ヲ記載スヘシ

第十七條 改葬セント欲スルモノハ其事由ヲ詳記シ所管警察署ニ願出許可ヲ受クヘシ  
但シ本文許可ヲ得タルモノハ其旨管理者ニ通知スヘシ

第十八條 管理者ヲ異ニスル埋火葬場ニシテ火葬ノ遺骨ヲ埋葬スルトキハ火葬場ノ管理  
者ヨリ埋葬場ノ管理者ヘ死者ノ住所姓名及ヒ火葬ノ年月日時ヲ通知スヘシ



第十九條 管理者ハ戸長ヨリ交付セル埋火葬ノ認許証ヲ領收スルニアラサレハ其埋火葬ヲ許スヘカラス

但第十六條第十七條第十八條ノ場合ハ此限ニアラス

第二十條 管理者ハ認許証ノ裏面ニ埋火葬シタル年月日時ヲ記入シ之ニ認印シ三月毎ニ所管警察署又ハ分署ノ檢閲ヲ受ケ之ヲ發シタル戸長役場ニ差出スヘシ

但第十六條第十七條第十八條ニ據リ埋葬シタルモノハ別ニ其埋葬シタル年月日時ヲ記載シ本條ノ手續ヲナスヘシ

第二十一條 管理者ハ第五號及第六號式ニ據リ墓地火葬場ノ繪圖及墓籍并火葬ノ屍籍ヲ調製シ附クヘシ

第二十二條 管理者ハ墓地火葬場ノ取締方法ヲ設ケ之ヲ所管警察署又ハ分署及戸長役場ニ届出ツヘシ

第二十三條 管理者ハ墓地及埋火葬取締ニ係ル違犯者ヲ見認ルトキハ所管警察署又ハ分署ニ申告スヘシ

第二十四條 此規則第一條第四條第五條但書第八條第十三條第十四條第十七條第十九條ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ所罰セラルヘシ

第壹號書式 用紙半紙

對紙  
墓地又ハ火葬場新設願  
何郡町村字何々番 官有地ナレハ第何種ト記載スヘシ  
官民有地

一 秣場又ハ荒蕪地或ハ何々等何町何反何畝歩

私共何町村之儀ハ從來墓地又ハ火葬場無之又ハ從來何方ニ有之候得共衛生上妨害有之共葬差支候ニ付前記ノ地所官有地ナレハ金何程ヲ以テ御チ以テ墓地又ハ火葬場設置仕度候間御免許被成下度別紙繪圖面相添此段奉願候也

何郡町村番地  
何郡町村總代人 氏 名 印  
何郡町村番地  
何郡町村總代人 氏 名 印

年 月 日

縣 令 宛

別紙繪圖面中ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一 國道縣道川河人家ノ距離

一 恒風ノ方位

一 隣接地種及地目

第貳號式

何郡町村(數町村共有ナレハ總テ其町村名ヲ記スヘシ) 共葬墓地

第四類 第三 衛生警察

高サ一丈以上八寸角以下同シ

六百十六

何郡町村何某 (數名共有ナレハ何某 墓地  
外何名ト記スヘシ)

何郡町村 (數町村共有ナレハ總テ  
其町村名ヲ記スヘシ) 共同火葬場

第三號書式

用紙半紙野紙

死亡届

何郡町村番地又ハ寄留

族籍

戸主ノ父母祖父母又ハ妻子兄

弟姉妹或ハ何々

既未婚配偶有無

氏名

生年月

右何月何日何時死去 (或ハ死胎分娩) 致候ニ付何月何日何時何地ニ於テ埋 (火) 葬致度候  
(及ハ變死刑死) 及ハ變死刑死

問認許証御交付相成度別紙醫師証書 (又ハ檢按書醫師若クハ産婆ノ死産証親) 相添此段  
及御届候也 (戒隣保ノ保証書或ハ獄醫ノ死亡証書寫)

年 月 日

何郡町村

戸長氏名宛

第四號式

用紙大包四ツ切

右戸主又ハ親戚

氏名 印

埋葬認許証

何國何郡町村番地或ハ寄留

何府縣族籍何某父母兄弟妻子等

役場印

年月日時病死變死刑死又ハ死胎分娩

氏名

年月日

右ハ何地ニ於テ埋火葬ヲ認許ス

年月日

何郡町村

戸長氏名印

第四類

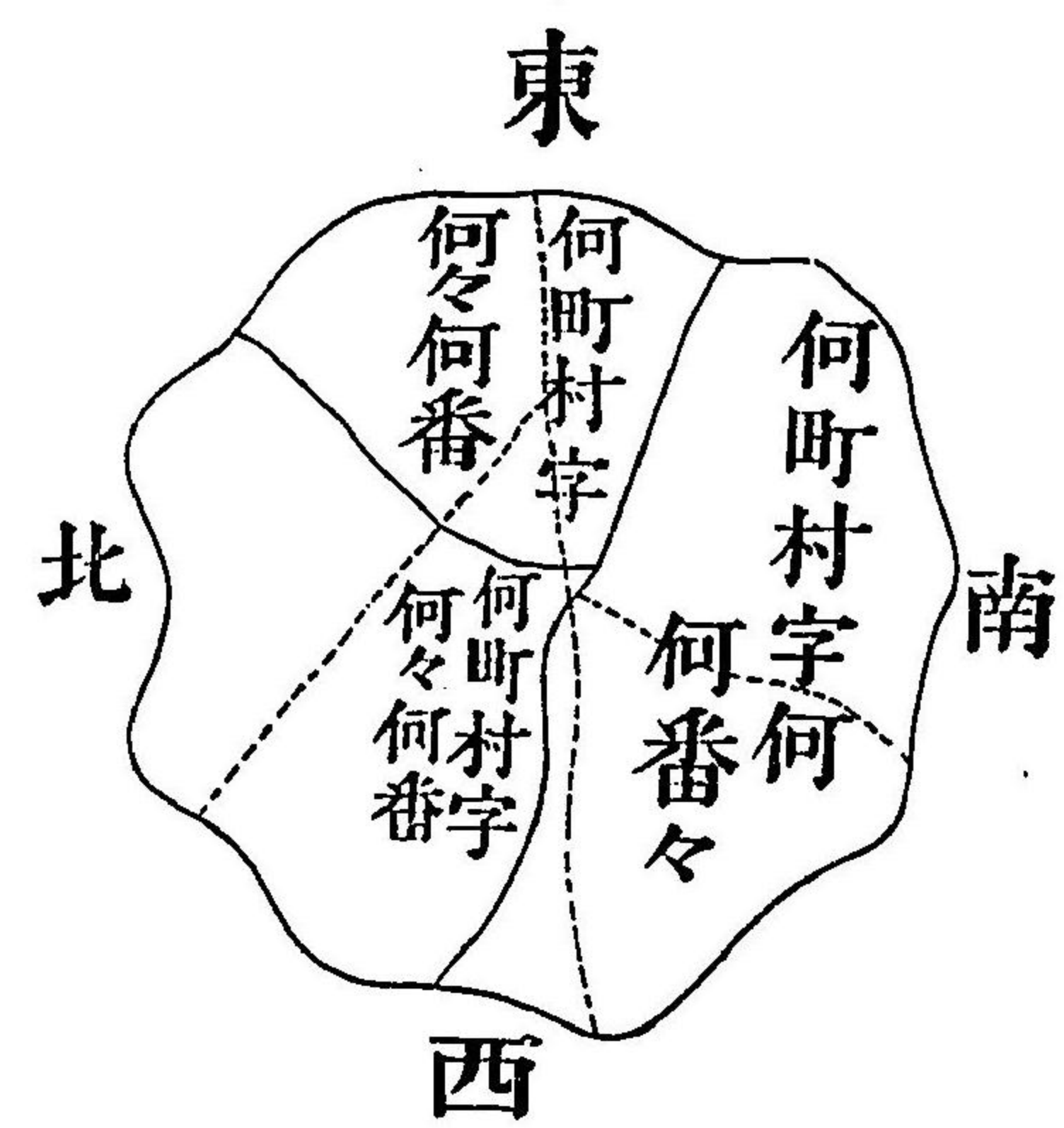
第三

衛生警察

六百十七

第五號式

( ..... ハ朱線 )



六百十八

- 一 墨線ハ番地界
- 一 朱線ハ道路
- 一 惣坪敷及每字ノ坪敷ヲ記入スヘシ
- 一 近傍山林原野河沼居村等ノ概畧ヲ附記スヘシ

第六號式

廿年癸未六  
十一號追加

第四類 第三 衛生警察

六百十九

何郡町村(又ハ外ヶ町村)共葬(或ハ何郡町村何某(又ハ外ヶ)墓籍)		墓地番號	墓	墓主
第 壹 號	何	何	何府縣郡町村番地	氏名
第 貳 號	ナ	シ	不詳	
第 三 號	何	何	何府縣郡町村番地	氏名

墓地ノ番號ハ管理者ニ於テ適宜之ヲ定メ詳細ノ繪圖面ヲ製シ置クヘシ  
此規則施行後ニ係ル埋葬者ハ左ノ書式ニ據リ之ヲ調製スヘシ

墓別番號	碑建年月日	設死亡又ハ死胎分埋年月日	葬年月日	死者ノ原籍	何某父母兄弟妻子等	死者氏名	年	齡
何郡町村(又ハ外ヶ町村)火葬屍籍								
死亡又ハ死胎分埋年月日	火葬年月日	死	原籍	何某父母兄弟妻子等	死者氏名	年	齡	

○甲第十三號 明治十九年二月十九日  
管下南秋田郡旭川筋仙北郡毬子川筋平鹿郡旭川筋ハ午前一時ヨリ同十時マテ飲料水ト相

定候條此旨布達候事

左ノ月日ニ限午前一時ヨリ全八時マテトス

四月一日ヨリ 同十五日マテ 十五日間  
 六月一日ヨリ 同十五日マテ 十五日間  
 八月一日ヨリ 同十五日マテ 十五日間  
 十一月一日ヨリ 同十五日マテ 十五日間

○甲第十八號

明治十九年二月廿三日

明治十八年十一月

第三拾四號布告ニ携リ種痘規則左ノ通相定候條此旨布達候事

但明治十四年二月甲第十八號布達ハ廢止ス

種痘規則

- 第一條 戸長ハ第一號書式ニ據リ種痘原簿ヲ製シ其加除ヲ精密ニシ該町村内ノ種痘ヲ受クヘキモノヲ督責スヘシ
- 第二條 醫師ハ種痘規則第八條ニ據リ第貳號書式ニ準シ證書ニ通テ交附スヘシ
- 第三條 前條證書ヲ受ケタル時ハ五日以内ニ其一通ヲ戸長役場ニ差出シ他ノ一通ハ常ニ保存スヘシ
- 第四條 同則第四條ノ届チナシタル者病氣快癒又ハ事故解ケタルトキハ直チニ種痘ヲ受クベシ
- 第五條 郡長又ハ戸長ハ時宜ニ據リ種痘ノ日時及ヒ場所ヲ指定シテ種痘ヲ受ケシムルコトアルベシ

初種		再種		三種		種痘規則第三條接種		天然痘		戸主名	
年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年	月	日	氏名
年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年	月	日	氏名
年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年	月	日	氏名
年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年	月	日	氏名
年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年	月	日	氏名
年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年	月	日	氏名
年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年	月	日	氏名
年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年	月	日	氏名
年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年月善感	年	月	日	氏名

第四類 第三 衛生警察

六百二十一

年月不  
善感

妹

某

年月生

六百二十二

第二號書式

(印ハ朱書)

印割

秋田縣何郡町番地(寄留ノ者ハ本籍ヲ記入スヘシ) 何某何男女或ハ何 氏 名 何年月

初種

再種

三種

左

何類

種痘濟

年月日

醫師

氏名印

印

証

○不善感ノ者ハ種痘濟ノ文字ニ代フルニ不善感ノ文字ヲ以テスヘシ  
○種痘規則第三條ニ據リ定期外臨時種痘ヲ行ヒタルモノハ再三種ノ印ニ代フルニ臨時ノ印ヲ捺スヘシ

証

秋田縣何郡町番地(上ノ例ニ依ル) 何某何男女或ハ何

印

第三號書式

向郡町種痘明細表

明治何年上半期

右天然痘濟 氏名 何年月 醫師 氏名印

區別	初種			再種			合計
	善感	不善感	疾病事故ニテ種痘セサル者	善感	不善感	疾病事故ニテ種痘セサル者	
滿一年以内							
滿一年以上二年以下							
滿二年以上五年以下							
滿五年以上十年以下							
滿十年以上十五年以下							
滿十五年以上二十年以下							
二十年以上							
合計							

第四卷

第三

衛生警察

六百二十三

合 計	三種不 等 感	
	疾病事故ニテ 種痘セサル者	

○種痘第三條ニ據リ接種セシ者ハ表中ニ算入セス表末ニ於テ其人員及ヒ感否ノ別ヲ 附記スヘシ

○甲第四十六號 明治十九年六月十一日

蠅類ノ飲食物ニ點集スルハ飲食物ヲ不潔ナラシメ且ツ傳染病毒ヲ傳播スルノ懸念不少ニ 付舗店ニ露陳シ又ハ行商スル飲食物ニシテ其儘食用スヘキモノニハ適宜ノ覆ヒ或ハ蓋ヲ ナスヘシ 右布達ス

○甲第四十七號 明治十九年六月十七日

市街掃除規則別紙ノ通相定ム 但本文ノ市街ニハ明治十三年八月甲第七號布達ノ施行ヲ廢止ス 右布達ス

市街掃除規則

第一條 本則ハ傳染病豫防及健康保護ノ爲メ之ヲ設ケ道路下水便所塵芥等ヲ掃除シ市街 ノ清潔ヲ要スルモノトス

第二條 本則ニ於テ市街ト稱スルハ警察規則ニ於テ市街ト稱スル町村ヲ指定ス

第三條 市街掃除ノ負擔ハ左ノ區分ニ依ルヘシ

第一項 道路

一 人家兩側ニ在ルトキハ居住者其地先中央ヨリ折半シ片側ニアルトキハ其全部

一 住居セサル建物アル地及明キ地ノ地先ハ其所有者

一 諸官衙及學校病院等ノ地先ハ其管理者

一 町村費ヲ以テ架設シタル橋梁等ノ掃除ハ其町村

第二項 下水及水溜

一 道路ニ沿ヒタル下水ハ前項ノ區別ニ依ル

一 共同ノ大下水及水溜ハ其町村

一 邸内下水及水溜ハ其居住者又ハ地主

第三項 便所

一 共同ノ便所ハ其町村邸内便所ハ其居住者

第四項 塵芥

一 道路又ハ下水水溜中ニアルモノハ第一項第二項ノ區別ニ依ル

一 邸内ニアルモノハ其居住者又ハ地主

第四條 前條ノ掃除ハ毎年四月ヨリ十一月マテハ毎月一回(其月一日雨天)ナレハ翌日(其他ハ隨時之)ヲ爲スヘシ

第五條 但共同大下水及水溜ニ限り毎年三回(四月六)掃除スヘキモノトス 掃除シタル淤泥塵芥等ハ速ニ一定ノ塵溜場ニ投棄シ路上ニ積置クヘカラス

第四類

第三 衛生警察

第六條 冬季降雪ノ際ハ道路中央九尺以上之ヲ拂除ケ又ハ踏均<sup>ツラシ</sup>キヲ爲スヘシ  
但道幅貳間ニ滿タサルトキハ六尺ニ減スルコトヲ得

第七條 夏季道路ニ水ヲ瀝クトキハ下水其他ノ汚水ヲ以テスヘカラス

第八條 荷造又ハ薪炭積卸等ノ爲メ塵芥ヲ散布シタルトキハ其關係人ニ於テ直チニ掃除  
スヘシ

第九條 道路及邸内ニ不潔物アル歟又ハ下水流滯塵芥推積シタルトキハ定期ニ抱ハラス  
速ニ掃除スヘシ

第十條 定期ノ掃除ハ警察官及郡長戸長ニ以テ之カ検査ヲナスヘシ

第十一條 傳染病流行等ノ際ハ定期ニ抱ハラス本則ニ依リ掃除セシムルコトアルヘシ其  
期日ハ時々ノ告示ヲ以テ定ム

第十二條 本則第四條ヨリ第八條ニ至ル各條ニ違背シタルモノハ違背罪ヲ以テ處罰セラ  
ルヘシ

○甲第七十五號 明治十八年九月二十四日

虎列刺病流行ノ際ニ於テハ其流行地方ヨリ古着及ヒ襪襪ヲ他ノ健康地ニ輸送スルコトヲ  
禁止ス違背シタルトキハ違背罪ヲ以テ處罰セララルヘシ此旨布達候事

○告第六號

明治十五年八月二十三日

傳染病之類ハ頻年夏秋之候ニ至リ各所ニ散發或ハ蔓延シ數多ノ人命ヲ斃シ其殘毒實ニ恐  
ルヘキモノニ付別冊傳染病豫防心得書頒布候條右ニ照準精々豫防方注意可致此旨告示候



事

但明治十三年八月甲第八號布達虎列刺病豫防法并患者取扱心得自今廢止ス  
傳染病豫防法心得書

凡ソ傳染病ハ其種類多シト雖<sub>レ</sub>流行性傳染病ノ一旦萌動シテ其蔓延ノ熾ナルニ至テハ救療ノ法モ治<sub>リ</sub>及ヒ難ク終ニ其猖獗ヲ縱ニシ慘酷ヲ極ムルニ至ル然ルニ豫防法アリテ之ヲ守ル嚴ナルトキハ其病害ヲ未熾ニ防遏スヘシ加之消毒法アリテ之ヲ行フ密ナルトキハ各種ノ病毒ヲ消滅スルヲ得ヘシ消毒法ハ即チ豫防法ノ一種ニシテ殊ニ其効驗確實ナルモノナリ目今本邦流行傳染病中最モ豫防注意ヲ要スヘキハ虎列刺、腸窒扶私、赤痢、實布埤利亞、發疹窒扶私、痘瘡ノ六病トス而テ各種ノ病症ニ從ヒ豫防ノ法モ亦其趣ヲ異ニスト雖<sub>レ</sub>其要領ハ之ヲ約スルニ四項ニ出テス其一ハ病毒ノ萌動及ヒ蔓延ノ因ヲ除却スルニアリ即チ法其二ハ各人體中有スル所ノ感受性ナカラシムルニアリ即チ攝<sub>レ</sub>其三八病毒傳播ノ媒介ヲ隔離スルニアリ即チ隔<sub>レ</sub>其四ハ傳染病毒ヲ消滅スルニアリ即チ消<sub>レ</sub>右ノ四項ニ依リ豫防ノ事ヲ施サ<sub>レ</sub>ルヘカラス故ニ其大意ヲ示ス<sub>レ</sub>左ノ如シ

清潔法大意

流行性傳染病毒ノ眞性ハ確知シ難シト雖トモ病學家ノ論斷ニ據ルニ<sub>レ</sub>蚊ノ有機物アリテ外方ヨリ人體ニ竄入シ以テ其病ヲ發スルモノアルカ如シ蓋シ此毒物ハ多ク地中及ヒ水中ニ在テ萌動シ尋テ氣中ニ混シ然ル後人體ニ入ルヲ得ルモノトス故ニ其病ニ罹ル者ノ排泄物地中若シハ水中ニ滲入スルハ即チ其毒ヲ散漫シ其地方ニ於テ衆人一齊ニ同一ノ病ヲ發スルコト理ニ於テ疑フヘカラサルナリ

此有機性病毒ハ地中或ハ水中氣中ニ生殖チナスニ必ス多少ノ助養物ナカルヘカラス而シテ其助養物タルハ凡百ノ有機物體ノ腐敗ニ向ハントスル者ノカ發生チ助ル者ニ似タリ夫ノ魚市屠場等不潔ノ地及ヒ糞尿塵芥ノ堆積セル地ノ如キハ其腐敗物地中及ヒ水中ニ滲透シ又此ヨリ蒸發スルモノ大氣中ニ混入スルヲ以テ此病毒ノ助養物甚タ多クシテ忽チ蕃殖ノ速ナルヲ致ス故ニ土地ノ不潔ハ傳染病ヲ蔓延セシムルノ媒介タリ是ヲ以テ其病發生スルトキハ必ス家屋ヲ清潔ニシ溝渠、芥溜、厠等ノ汚物ヲ掃除セサルヘカラス是清潔法ヲ要スル所以ナリ

衛生法大意

凡ソ人強健ナルトキハ病毒ノ侵襲ヲ拒クヘキノ機能チ有スト雖モ過度ニ勞働シ及ヒ飲食ノ不良或ハ不足等ヲ以テ身體ノカ爲メニ衰弱スルトキハ病毒ノ侵襲チ受クルコト最モ甚シトス彼ノ發疹瘡扶私ノ飢饉軍役ノ際ニ乘シ猖獗チ逞フシ又平生飲食不節或ハ不良ニシテ腸胃ノカ爲メニ些少ノ害損アルトキハ虎刺列ノ侵襲チ受ルカ如キ等ヲ以テ証スヘシ其餘精神非常ノ感動及ヒ感冒等モ亦能ク病毒ヲ招クノ媒介トナルモノナリ故ニ流行ノ際ニ當テハ殊ニ衛生ノ法ヲ嚴守シ病毒侵入ノ地ナカラシムルヲ專要トス若シ人々普ク此豫防法ノ要訣ヲ守リ得ルニ至ラハ全ク傳染病チシテ流行蔓延ノ甚シキニ至ラシメサルヘシ是衛生法ヲ要スル所以ナリ

隔離法大意

傳染病毒ハ管ニ地中若クハ水中ニ含リテ傳播スルノミナラス患者ノ排泄物呼吸蒸發氣等ヨリ直ニ感染スルコトアリ故ニ病體死體其排泄物等ハ速ニ之ヲ隔離シテ觸接ノ憂ナカラ

何郡町村(又ハ外何ヶ町村)共葬(或ハ何郡町村何某又ハ外)墓籍		墓地番號	墓	數	墓主
第 壹 號	何	何	簡	何府縣郡町村番地	氏 名
第 貳 號	ナ	シ	不詳		
第 參 號	何	何	簡	何府縣郡町村番地	氏 名

墓地ノ番號ハ管理者ニ於テ適宜之ヲ定メ詳細ノ繪圖面ヲ製シ置クヘシ  
此規則施行後ニ係ル埋葬者ハ左ノ書式ニ據リ之ヲ調製スヘシ

墓地番號	碑建設死亡又ハ死胎分埋年	死者ノ原籍	何某父母兄弟妻子等	死者氏名	年 齡
年 月 日	又ハ火葬年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日

何郡町村(又ハ外何ヶ町村)火葬屍籍

死亡又ハ死胎分埋年 月 日	火葬年 月 日	死者ノ原籍	何某父母兄弟妻子等	死者氏名	年 齡
---------------	---------	-------	-----------	------	-----

○甲第十三號 明治十九年二月十九日  
管下南秋田郡旭川筋仙北郡毬子川筋平鹿郡旭川筋ハ午前一時ヨリ同十時マテ飲料水ト相

此有機性病毒ハ地中或ハ水中氣中ニ生殖チナスニ必ス多少ノ助養物ナカルヘカラス而シテ其助養物タルハ凡百ノ有機物體ノ腐敗ニ向ハントスル者之カ發生チ助ル者ニ似タリ夫ノ魚市屠場等不潔ノ地及ヒ糞尿塵芥ノ堆積セル地ノ如キハ其腐敗物地中及ヒ水中ニ滲透シ又此ヨリ蒸發スルモノ大氣中ニ混入スルヲ以テ此病毒ノ助養物甚タ多クシテ忽チ蕃殖ノ速ナルヲ致ス故ニ土地ノ不潔ハ傳染病ヲ蔓延セシムルノ媒介タリ是ヲ以テ其病發生スルトキハ必ス家屋ヲ清潔ニシ溝渠、芥溜、厠園等ノ汚物ヲ掃除セサルヘカラス是清潔法ヲ要スル所以ナリ

攝生法大意

凡ソ人強健ナルトキハ病毒ノ侵襲ヲ拒クヘキノ機能チ有スト雖モ過度ニ勞動シ及ヒ飲食ノ不良或ハ不足等ヲ以テ身體之カ爲メニ衰弱スルトキハ病毒ノ侵襲チ受クルコト最モ甚シトス彼ノ發疹瘰癧ノ飢饉軍役ノ際ニ乘シ猖獗チ逞フシ又平生飲食不節或ハ不良ニシテ腸胃之カ爲メニ些少ノ害損アルトキハ虎刺列ノ侵襲チ受ルカ如キ等ヲ以テ証スヘシ其餘精神非常ノ感動及ヒ感冒等モ亦能ク病毒ヲ招クノ媒介トナルモノナリ故ニ流行ノ際ニ當テハ殊ニ攝生ノ法ヲ嚴守シ病毒侵入ノ地ナカラシムルヲ專要トス若シ人々普ク此豫防法ノ要訣ヲ守リ得ルニ至ラハ全ク傳染病ヲシテ流行蔓延ノ甚シキニ至ラシメサルヘシ是攝生法ヲ要スル所以ナリ

隔離法大意

傳染病毒ハ畜ニ地中若クハ水中ニ含リテ傳播スルノミナラス患者ノ排泄物呼吸蒸發氣等ヨリ直ニ感染スルコトアリ故ニ病體死體其排泄物等ハ速ニ之ヲ隔離シテ觸接ノ憂ナカラ

シムヘシ隔離法トハ患者ヲ別室ニ移シ門戸ニ病名票ヲ貼附シテ外人ニ表示シ或ハ之ヲ避  
病院ニ送致シ要用アル人ノ外務メテ交通ヲ絶ツ等ノ事是レナリ殊ニ其恐ルヘキ傳染病ニ  
於テハ患者ニ接近シタル看護人等モ亦他ノ健康人ト隔離セサルヲ得ヌ苟モ能ク其法ヲ守  
リ病毒ニ遠サカルコトヲ得ハ必ス傳染ノ蔓延ヲ致サ、ルヘシ是隔離法ヲ要スル所以ナリ

消毒法大意

凡ソ傳染病毒ハ其性分極メテ微小ニシテ見ルヘカラスト雖モ傳送物中ニ混入シテ人體ニ  
達シ其病症ヲ發現スルモノトス此傳送物ヲ滅スルトキハ即チ病毒モ亦消盡ス故ニ烈火ヲ  
用ヒ之ヲ燒盡スルハ消毒ノ最良トス然レトモ其燒棄ニ付シ難キモノハ或ハ藥劑ヲ用ヒテ  
蒸蒸若クハ灌注シ或ハ之ヲ洗滌シ以テ其病毒傳染ノ力ヲ撲滅スルヲ得ヘシ然ラサルハ其  
病毒散莖シテ終ニ消滅スルコトナカラシ故ニ病毒萌動ノ後ニアリテハ消毒ヲ以テ預防法  
中ノ最モ緊要ナルモノトス

消毒法ヲ施スニ當テ其病性ト其施スヘキ物トニヨリ其科ヲ同クセス故ニ之ヲ分チ第一患  
者及ヒ看護人等消毒法、第二死體及ヒ排泄物等消毒法、第三衣服臥具等消毒法、第四家屋  
船舶等消毒法、第五什具運搬器等消毒法、第六厠間溝渠等消毒法トス但實布埜利亞、癩疹  
室扶私、瘡癤ノ三病ハ第六ノ消毒法ヲ行フノ限ニアラス

凡ソ病毒ノ最モ含藏シ易キモノ即チ毛布、綿布、綿絮、疊、蓆、敷物ノ如キ氣孔鬆疎ナルモ  
ノト居室及ヒ室内ノ諸器具ノ如ハ其病毒浸染ノ深淺ニヨリ消毒法ヲ行ヘキモノトス  
右ニ載タル蒸蒸及ヒ洗滌ノ外其燒却ヲ憚ル品物ニシテ浸染セル病毒ノ萌生機能ヲ消滅セ  
シメント欲スルトキハ熱氣消毒電ナルモノヲ用ヒテ華氏二百二十度ヨリ二百五十度ニ至

ルノ熱氣ヲ浴ク四方ヨリ通セシメ以テ之ヲ殲滅スル法アリ然レトモ其構造宏大ニシテ各地ニ設ケ難キヲ以テ茲ニ詳記セス且ツ大氣日光ノ如キモ自然消毒ノ功アルモノニシテ善ク微隙ニ達スト雖トモ但タ其力藥品ニ比スレハ甚タ弱キヲ以テ多少時日ヲ經サレハ其効ヲ奏シ難シトス

消毒藥劑ハ其品類頗ル多ク且ツ其性質功能モ亦同一ナラス故ニ其功能ヲ類別シテ第一號ヨリ第十二號ニ至ル以テ各病消毒法ノ條ト相照シテ之ヲ用フルニ便ニス其功用ノ如キハ化學作用ニ涉ルヲ以テ之ヲ畧ス

○消毒藥

(第一)濃厚石炭酸水

結晶石炭酸四分ヲ百分ノ水ニ溶シタルモノ

但石炭酸一分ニ炭利斯林又ハ亞爾爾保兒二分ヲ和シテ能ク溶解シ後チ本量ノ水ヲ加フヘシ

(第二)稀薄石炭酸水

結晶石炭酸二分ヲ百分ノ水ニ溶シタルモノ

但溶解法前ニ同シ

(第三)石炭酸蒸氣

結晶石炭酸或ハ之ニ二倍ノ亞的チ皿ニ入レ微火ニ上セ蒸發セシメ或ハ石炭酸一分一箇水二十分ヲ和シ布片ニ蘸シ室内ニ懸ケ置キ蒸發セシムヘシ

(第四)石炭酸末

粗製石炭酸ヲ以テ砂、灰、木炭末、鋸屑等ヲ濕漚セシメタルモノ

但粗製石炭酸ハ四十分ヨリ六十分ノ「フェニール」酸即チ結晶石炭酸ヲ含ミ稍々色ヲ帯ヒタル流動石炭酸ナリ

以下消毒同功アルモノニシテ通常用ヒサル品

サリシル酸 三百倍ノ水ニ溶解ス

テール油

石炭酸石灰 石灰百分石炭酸三分

(第五)硫酸鐵合劑

綠礬三百匁ヲ常水一斗ニ和シ粗製石炭酸百匁ヲ加ヘタルモノ

但此合劑ハ久ク貯フヘカラス用ニ臨ミテ調製スヘシ

(第六)硫酸硫酸鐵合劑

硫酸五分硫酸鐵六分水分八十九分ヲ和シタルモノ

以下消毒同功アルモノニシテ通常用ヒサル品

熱化亞鉛 八倍ノ水ニ溶解セルモノ

明礬

粗製明礬ノ過量ヲ水中ニ投シ能ク攪拌シテ後其上清ヲ取ル

コロール明礬 四倍ノ水ニ溶解ス

皓礬 百二十倍ノ水ニ溶解ス

(第七)木炭 木炭二分生石灰二十分

(第八)石灰

其他木灰、錫屑、土等ハ又多少収結ノ功アルモノトス

(第九)亞硫酸瓦斯

硫黄ヲ燒テ瓦斯ヲ發生セシム其法ハ疊敷ノ室ニ硫黄大約三百匁(木炭末大約十匁ヲ加フルトキハ更ニ宜シ)ヲ要ス但一時ニ火焰ノ昇騰スル恐アルヲ以テ二三ノ火鉢ニ分配シ熾炭ヲ之ニ點シテ徐々ニ焚燒セシムヘシ  
但多數ノ物品ヲ消毒スルニハ密閉シタル室ノ土藏ニ索ヲ張り消毒スヘキ衣服等ヲ掛ケ或ハ竹架ヲ設ケテ之ヲ排列シ本量ノ硫黄ヲ薰スヘシ又人々各自ノ衣服等ヲ消毒スルニハ一握ノ粗製硫黄ヲ火鉢ニ入レ火ヲ點シ伏籠ノ類ヲ覆ヒ之ニ衣服ヲ被ラセ薰蒸スヘシ

(第十)亞硫酸溶液

(甲)強百分ノ十ヲ含ムモノ

(乙)弱百分ノ五ヲ含ムモノ

但製法ハ畧ス

(第十一)過滿侖酸加里溶液 百倍ノ水ニ溶解ス

(第十二)コロール瓦斯

十分ノ食鹽ヲ五分ノ福石末ニ密和シテ磁皿上ニ置キ十分ノ硫黄ヲ十分ノ水ニ混和シテ一ルモノヲ注キテ之ヲ發生セシム  
以下消毒同功アルモノニシテ通常用ヒサル品

亞硝酸瓦斯

磁皿ニ銅屑ヲ盛リ置キ硝酸ニ少許ノ水ヲ加ヘテ稀釋シ徐々ニ之ヲ注キテ瓦斯ヲ發生セシム

コロール石灰溶液

コロール石灰一分ヲ百分ニ溶解ス

硝酸

磁皿ニ盛り微火ニ上セ蒸發セシム

以下六病各四項ノ區別ニ因リ豫防法實施ノ事ヲ類別開示ス而テ其手續ハ各項自カラ連帶シテ層層相保ツモノトス故ニ一事ニシテ其項ヲ同クセサルモノアリ例ヘハ虎列刺病ヲ豫防スルニ先ツ廁間ノ掃除ヲ要スルハ清潔法ニ屬シ其患者ヲ尋常ノ廁ニ上ラシメス吐瀉物ヲ遠隔ノ地ニ運搬セシムルハ隔離法ニ屬シ其之ヲ運搬セシムル前ニ消毒ヲ行フハ消毒法ニ屬ス其事ハ一途ニシテ前半ハ隔離法中ニ載セ後半ハ消毒法中ニ載スルカ如シ此心得書ニヨリ實施スル者宜ク相對照シテ其順序ヲ誤ルコト勿レ

虎列刺

虎列刺ハ特異ノ流行性傳染病ニシテ其病毒ハ病者ノ吐瀉物中ニアリ然レテ其吐瀉物ノ泡釀ニ向ハントスル時最モ傳播ノ媒介ヲナスト甚シトス故ニ此病毒一回不潔汚穢ノ地中水中ニ入ルキハ更ニ其蕃殖ノ力ヲ加ヘ動モスレハ飲料水ニ混シ遂ニ人體中ニ入りテ發生ス其症タル暴カニ吐瀉ニ生力忽チ沈衰シテ而シテ斃ル傳染病中最モ急劇ナルモノト謂フヘ

シ印度地方ニ於テハ毎歲發動シテ地方病トナルト雖モ人民ノ交通ニヨリ四方ニ蔓延シ到ル所或ハ三四年間流行シ或ハ全ク其痕跡ヲ絶タズシテ散發スルコトアリ總テ此病毒ハ夏月温熱ノ候ニ當リ其發動ヲ見ルモノトス眞症及ヒ類似症ノ二種アリト雖モ俱ニ傳染スルモノナリ故ニ其豫防ニ至テハ同様ノ注意ヲ要スヘシ

第一項 清潔法

- 第一條 虎列刺病ノ吐瀉物ハ一滴ダモ汚穢ノ地ニ滲入セシムヘカラス若シ滲入スルトキハ其泡腫力ヲ助ケ忽チ蕃滋増殖スルモノナリ故ニ土地ヲシテ不潔ナラシムヘキ芥溜、下水、廁圍、魚市、屠場等ハ常ニ之ヲ掃除スヘシ其掃除スル毎ニ防臭藥即チコロール石灰、明礬強溶液、テール油等ヲ適宜ニ撒注スルヲ良トス
- 第二條 虎列刺病毒ハ容易ニ水土ニ滲入シテ傳播スルカ故ニ常ニ飲料水ニ注意ヲ加ヘ井戸側及ヒ敷石若クハ敷板ヲ堅牢緻密ニシテ傍地水道ノ滲透ヲ防クヘシ其他飲料ニ供スル河水及ヒ水道ノ源ハ汚穢物ノ流入ヲ防クヘシ
- 第三條 虎列刺病毒ヲ排泄物ニヨリ傳播スルヲ以テ糞壺若クハ桶ヲ堅牢ニスヘシ且ツ常ニ注意シ糞尿ヲ汲取リテ之ヲ充漏セシムヘカラス殊ニ衆人群集スル所ノ廁圍又井水若クハ水道近傍ノ廁圍ノ如キハ最モ注意ヲ加フヘシ
- 第四條 糞壺若クハ桶等ニ罅隙アルトキハ糞汁之ヨリ滲漏シテ忽チ病毒ヲ地中ニ滋蔓セシム此ノ如キモノハ消毒藥ヲ施スモ其功ヲ奏スル能ハス故ニ豫メ壺桶ヲ點檢シ罅隙アルモノヘ之ヲ改良スベシ
- 第五條 芥溜ハ雨水滲入スルニヨリ其汚穢ヲ廣ク地中ニ浸漫セシムルヲ以テ木箱或ハ鐵

- 葉箱等ヲ以テ其貯器トナシ板蓋等ヲ設ケ雨水ヲ禦キ且ツ塵芥ヲ堆積セシムヘカラス
- 第六條 下水溝渠ハ石若クハ堅質ノ木材ヲ用テ有底ノ放水樋ヲ設ケ遠隔ノ地ニ流注セシメ汚水ノ地底ニ滲入スルヲ防クヘシ其樋上ハ蓋ヲ以テ密閉スヘシ若シ其接合密ナラサルハ却テ其間ニ腐敗氣ヲ停蓄スルカ故ニ此ノ如キモノハ寧ロ上面ヲ開放シテ大氣ニ暴スヲ以テ愈レリトス
- 但塵芥ハ必ス溝渠ニ投棄セシムヘカラス
- 第七條 溝渠ハ注意シテ塵芥ヲ除キ淤泥ヲ浚フヘシ且ツ其泥芥ハ溝側ニ留置カスシテ人家遠隔ノ地ニ搬送スヘシ然トモ炎熱ノ候ニ當テ日中ニ泥芥ヲ攪動スレハ惡臭ヲ發シテ空氣ヲ汚濁スルノ恐アルニヨリ必ス別ノ時候ニ於テ之ヲ浚除スヘシ
- 第八條 魚市屠場ニ於テハ其流出スル所ノ汚水地中ニ滲入スルノ恐アルヲ以テ第六條ニ同シキ放水樋ヲ設ケ流注セシムヘシ且屠屑腥汁ヲ培料ニ供スルカ爲メニ久ク貯積スヘカラス必ス有蓋ノ箱若クハ桶ニ入レ置キ速ニ人家遠隔ノ地ニ搬送スヘシ其他牛馬ノ屎舍及ヒ羊豚雞鷺ノ畜場等モ亦此旨意ヲ以テ掃除スヘシ
- 第九條 人家稠密ノ場所ニ於テハ培料ノ置場ヲ設クヘカラス若シ止ムヲ得スシテ設クルトキハ久シク堆積セシムヘカラス前條ノ旨意ヲ以テ人家遠隔ノ地ニ搬送スヘシ其汚汁滲入スルモノハ更ニ新土ヲ以テ之ヲ覆フヘシ
- 但村落廣潤ノ地ニ於テハ必スシモ之ヲ要セス
- 第十條 學校、囚獄、製造所、旅店、劇場等ハ流行ノ際更ニ清潔法ニ注意シ又避病院ニハ掃除專務ノ人夫ヲ設ケ殊ニ注意ヲ加フヘシ

第二項 攝生法

第十一條 虎列刺病ハ各人皆之ニ感スルノ素因アルニ似タリト雖モ就中不攝生ノ人之ニ感スル最多トス故ニ流行ノ際ハ殊ニ飲食ヲ慎ミ其他不攝生ノ事ヲ戒ムルヲ以テ至要トス

第十二條 飲料水ハ必ス無色無味無臭ノモノヲ撰ヒテ之ヲ用フヘシ若シ止ムヲ得ス其稍不良ノ疑アルモノヲ用フルトキハ之ヲ濾過スヘシ然レトモ煮沸ノ後之ヲ用フルノ最良ナルニ如カス蓋シ病毒ハ之ニ微ニシテ濾過力ヲ以テ盡ク之ヲ除キ去ルヘカラスト雖トモ之ヲ煮沸スルトキハ其毒分ヲ全ク滅滅スルノ効アリトス

第十三條 氷及ヒ冷水ハ縱令其實不良ナラサルモ之ヲ過度ニ飲用スルトキハ之カ爲メニ下痢ヲ發スルモノナリ故ニ流行ノ際ハ過量ノ飲用ヲ戒ムヘシ但不良ナリト認ムルモノハ決シテ之ヲ用フヘナラス

第十四條 酒ノ清醇ナルモノハ之ヲ適度ニ用フレハ害ナシト雖トモ暴飲或ハ酸敗セルモノヲ用フレハ腸胃ヲ害シ或ハ下痢ヲ發スルモノナレハ流行ノ際ハ必ス其品種ヲ擇ヒ務テ飲量ヲ節減スルヲ良トス

第十五條 食物ハ新鮮ノ肉類消化シ易キ蔬菜ヲ用ヒ平生ノ慣用ヲ改メサルヲ良トス但良好ノ食物ト雖モ之ヲ過食スレハ亦腸胃ヲ害シ此病ニ感シ易キカ故ニ流行ノ際ハ務テ適度ニ食シ不消化物ヲ避ケ殊ニ下熟ノ果實ヲ食フヘカラス

第十六條 雨漏或ハ夜氣ニ胃胸シ或ハ過度勞役等此病ニ感シ易キヲ以テ流行ノ際ニハ殊ニ之ヲ慎ムヘシ

第四類 第三 衛生觀察

第十七條 流行ノ際ニ當テハ感冒下痢ヲ豫防センカ爲メ絨羽木綿等ニテ小腹ヲ巻キ務テ適度ノ溫暖ニ其身ヲ保持スルヲ良トス

第十八條 流行ノ際能ク此攝生法ヲ守リ腸胃健全ナルトキハ些少ノ病毒ヲ受クルモ猶ホ其病害ヲ免ル、コトナシトセ看護人及ヒ汚穢物死體等ニ直接スルモノ、如キハ尤モ之ニ注意セサルヘカラス

第十九條 凡ソ豫防ハ平日攝生ノ謹嚴ナルヲ至要トス世間往々豫防藥ト稱スル方劑アリト雖モ多クハ無稽ノ考案ニ出テ之ヲ服用スルノ功ナキモノ多シトス

第三項 隔離法

第二十條 虎列刺病ハ患者ニ直接スルモ必スシモ感染スルノ理ナシト雖モ其吐瀉物ニ汚レタル患者ニ接シ又ハ其汚染セル物品等ニ觸ル、トキハ其媒介ニ因リ病毒ヲ傳フ故ニ患者ト健者トヲ隔離スルヲ以テ豫防ノ要法トス

第二十一條 虎列刺病ハ眞症ト類似トシ論セズ醫師診斷シタルトキハ直チニ其家ノ門戸ニ病名票ヲ貼附スヘシ

但患者治癒又ハ死亡若クハ避病院ニ送致シ其病室ニ消毒法ヲ行ヒタル後ハ即チ其病名票ヲ去ルヘシ

第二十二條 患者ノ吐瀉物ハ之ヲ金屬製或ハ陶製ノ漱盤便器等ニ承ケ木製ノ器ハ其毒滲每回消毒法ヲ施シ壺或ハ桶ニ入レ戶外ニ置キ之ニ密蓋ヲナシ運搬夫ニ付シ人家遠隔ノ地ニ搬送セシメ溝渠、芥溜、田圃等ニ投棄スヘカラス且ツ患者ノ入りタル厠間ハ決シテ他人ヲシテ入ラシムヘカラス又初發嘔吐セシ地面等ノ處置ハ第八十一條消毒法ニ依ル



但吐瀉物等ヲ運搬スルトキ日中ハ虎列刺吐瀉物ト表記アル號旗ヲ夜中ハ之ニ換ルニ提燈ヲ以テスヘシ

第二十三條 患者ハ其室ヲ異ニシ看護人ノ外ハ成ダケ接近スヘカラス又止ムヲ得サル事故アルノ外他人ト交通ヲ絶ツヘシ

但家人ニ要用アリテ來訪スル人アルトキハ成ダケ戶外ニ於テ之ト應接シ屋內ニ入ラシムヘカラス此時ニ於テハ家人及ヒ來訪人ニ消毒法ヲ行フヲ要セス

第二十四條 家族中ニ於テモ看護人ヲ定メ其他要用アル者ノ外老幼ハ成ダケ早ク他家ニ避退セシムヘシ

但看護人ハ成ダケ其人ヲ更換セサルヲ良トス

第二十五條 病室內ニハ不用ノ器具ヲ置クヘカラス

第二十六條 患者若シ死亡スルトキハ成ダケ其屍傍ニ接近シ又ハ死體ニ沐浴セシムル等ノコトヲセサルヲ良トス

第二十七條 患者治癒若クハ死亡シ病室ニ消毒法ヲ行ヒシ後ハ家人其室內ニ起臥スルモ妨ケナシト雖トモ若シ之ヲ用ヒサルモ日用ニ差支ナキ家ニ於テハ數日間空室ノマ、窓戶ヲ開放シ大氣ヲ流通セシムヘシ

第二十八條 西洋形船舶航海中ニテ發病者アルトキハ其室ヲ異ニスヘシ或ハ之ヲ囑ノ方ニ移スモ可ナリ其看護人ノ外交通ヲ絶ツコト猶ホ人家ニ於ルカ如クスヘシ

第二十九條 船舶內ノ病室ニハ看護人ヲ定メテ吐瀉物ヲ承クルコト第二十二條ノ如クシ

航海中ハ每回海中ニ投棄スヘシ尤モ港灣河湖等ニ於テハ之ヲ投棄スヘカラス必ス最寄ノ地方ニ著シ其地警察官吏或ハ衛生委員ノ指圖ヲ受クヘシ

第三十條 船舶ヨリ患者若クハ死者ノ届ケアルトキハ警察官吏衛生委員ニ於テ検査ノ上患者ハ之ヲ隔離シ死者及ヒ汚穢物ハ消毒法ヲ行ヒ第五十四條ヨリ第五十八條マテニ依リ處置スヘシ

第三十一條 製造所、會社、學校、旅店等ニ在テ發病ヲ引取人ナキ者並ニ狹隘不潔ノ地ニ遷居スル者等ニシテ看護消毒法行届カス病毒ノ傳播ヲ防キ難キトキハ之ヲ避病院ニ送ルヘシ若シ避病院アラサルトキハ適當ノ空氣ニ移シテ之ヲ隔離スヘシ

第三十二條 避病院ノ置位ハ人家ニ接近セス且ツ運搬ニ便ナル地ヲ撰フヘシ然レトモ井泉河流ノ近傍或ハ往來多キ路傍等ニ設クヘカラス又監獄、墓地、火葬場等ノ跡ハ用ヒサルヲ良トス

第三十三條 避病院ヲ新ニ構造スルトキハ空氣ノ流通ヲ主トシ善美ヲ要セス其狀ヲ高クシ窓戶ヲ潤大ニシ且ツ板壁ヲ用ヒテ洗淨ニ便スヘシ但板葺苔草等ハ其一時ノ便ニ任シテ可ナリ

第三十四條 避病院ノ廣狹ハ大約人口千人ニ患者一人ノ割合ヲ以テシ例ヘハ人口六千人ノ町村ナレハ患者六人分ニシテ每人二坪ト見積リ十二坪ノ病室ヲ要スルノ類ナリ尤モ流行ノ勢ニ因リテハ建坪ヲ増加スルヲ得ルノ餘地ヲ豫メ計畫シ置クヘシ

第三十五條 避病院ノ病室ハ重症輕症及ヒ快復期ノ患者ヲ區別シテ之ヲ分隔シ二坪ニ患者一人ヲ置クヲ常トシ縱令ヒ患者輻湊ストモ一坪ニ一人ノ割合ヨリ狭クスヘカラス

但此他醫師詰所、事務所、看護人休息所等便宜ニ之ヲ設クヘシ

第三十六條 避病院ニハ簡易ノ葦葦室ヲ設クヘシ其構造ハ凡ソ一二坪許ノ小室ニシテ蒸氣ノ散漏セサル様密閉シ得ヘカラシメ其内ニ竿ヲ架シ或ハ繩ニ張り衣服等ヲ掛ルニ便ニシ其小ナルモノハ尋常ノ戸棚等ヲ以テ之ニ當ツヘシ

第三十七條 避病院ノ門側ニハ輕易ナル風呂ヲ設ケ見舞人、看護人等外出ノ時入浴ノ用ニ供スヘシ

第三十八條 避病院ニハ別ニ滑淨ナル屍室ヲ設ケ患者若シ死亡シタルトキハ直チニ此ニ移スヘシ

但屍室ハ親族ノ弔者ヲ容ル、カ爲メ其餘地ヲ設クヘシ

第三十九條 人家稀疎ノ村落ニ於テハ必スシモ避病院ヲ設クルヲ要セス若シ相當ノ空屋等アラハ假リニ之ヲ用フヘシ

第四十條 普通病院ニハ決シテ虎列刺患者ヲ入ルヘアラス

但別ニ傳染病室ノ設アルモノハ此限ニアラス

第四十一條 避病院ニ用フル看護人ノ員數ハ重症ノ患者二人ニ一人ヲ附シ輕症ノ者ニハ四人ニ一人ヲ附シ其快復ニ趣ク者ニハ六人ニ一人ヲ附スル割合ヲ以テ便宜斟酌シ晝夜交代セシムヘシ

但看護人ニハ其表記アル衣服ヲ着セシメ且ツ成ダケ其人ヲ交換セシメサルヲ良トス

第四十二條 避病院ニ在ル患者ノ親族又ハ別段ノ交誼アル者看護ヲ爲サンコトヲ望ムトキハ之ヲ許スヘシ

但其看護人ハ多人數ナラサルヲ要シ且ツ屢々更替スルヲ許サ、ルヘシ

第四十三條 避病院ニ在ル患者ノ親族又ハ別段ノ交誼アル者ハ其見舞ヲ許スヘシト雖モ室内ニ於テ飲食ヲ嚴禁シ且ツ吐瀉物ニ接觸セサル様切ニ注意スヘシ

第四十四條 避病院ニ在ル患者ノ病況危篤ニ至ルトキハ速ニ其家ニ通知シ若シ死亡スルトキハ入棺セサル前ニ其死體ヲ家族ニ示スヘシ

第四十五條 流行ノ勢猛烈ニ及ヒ其地ノ群衆畢業ヲ差止ムルトキハ先ツ祭禮、劇場、寄席等ヲ差止メ止ムヲ得サル場合ニ至ラサレハ學校製造所等ヲ差止ムベカラズ又社寺參拜等ノ爲メ多人數旅行スルコトヲ差止ムルコトアルヘシ

第四項 消毒法

第四十六條 虎列刺ノ病毒ハ其吐瀉物ニ舍レリ故ニ吐瀉物及ヒ之ニ汚染スルモノハ嚴ニ消毒法ヲ行フヘシ就中之ヲ燒滅スルヲ以テ最良法トス患者及ヒ其死體ハ直チニ病室ヲ傳フル者ニ非スト雖トモ吐瀉物ニ汚染スルヲ以テ亦消毒汚染物ト同視スヘシ

第四十七條 消毒法ハ其物ニ從テ區別スルコト左ノ如シ

第一 患者及ヒ看護人等消毒法

第四十八條 患者治療ノ後始テ他人ト交通シ又ハ避病院ヨリ退出ノ節ハ必ス沐浴シ石鹼水ヲ用テ全身ヲ洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒法ヲ施シタル衣服ヲ着スヘシ吐瀉物運搬人及ヒ避病院ノ醫師、看護人、死體取扱人等ノ他人ニ接スルトキモ亦此法ニ從フヘシ

第四十九條 看護人及ヒ患者死體運搬人又ハ船中ニテ患者ト同席シタル者ノ他人ト交通スルトキニハ必ス沐浴更衣スヘシ

第五十條 病家ニ於テ止ムヲ得サル事故アリテ看護ハ其他患者ニ親接セル者ノ他出スルトキハ必ス其身體ヲ洗淨シテ更衣スヘシ

第五十一條 自宅患者ヲ往診セル醫師及ヒ患者ノ家人ニシテ直接セサル者親戚朋友ノ一時見舞タル者等ハ消毒法ヲ行フヲ要セサレトモ其家ヲ出ルニ臨テ鹽漱スルヲ良トス但シ誤テ吐瀉物ノ爲メニ其衣服等ヲ汚シタルトキハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ噴注シ或ハ沸湯ヲ以テ之ヲ洗ヒ然ル後第六十二條第六十三條ニ依リ消毒法ヲ行フヘシ

第二 死體及ヒ排泄物等消毒法

第五十二條 死體ハ充分ニ稀薄石炭酸水(第二)ニ浸シタル單衣若クハ綿衣等ヲ以テ之ヲ包ミ成ダケ速ニ棺内ニ斂ムヘシ若シ濃厚石炭酸水(第一)ヲ用テ灌腸シ然ル後綿ヲ以テ肛門ヲ塞クコトヲ得ハ最良トス

第五十三條 西洋形船航海中ニ死者アルトキハ速ニ濃厚石炭酸水(第一)ニ浸シタル單衣若クハ綿布ヲ以テ之ヲ包ミ成ダケ前條ノ灌腸ヲ行ヒ假ニ棺内ニ斂メ通常屍室或ハ船中適宜ノ場所ヲ見計ヒ此ニ入レ置キ時々濃厚石炭酸水(第一)ヲ灌注スヘシ

但陸地ニ著スル上ハ其地方ノ警察官吏衛生委員ニ届出處分スヘシ

第五十四條 死體ハ醫師確認ノ後速ニ火葬セシムヘシ火葬場ナキ地方ハ人家ニ離レタル所ニシテ地質鬆疎ナラサルノ地ヲ擇ヒ簡易ノ火葬場ヲ設ケテ之ヲ燒クヘシ

第五十五條 吐瀉物ハ之ヲ便器漱盪ニ承ケ之ト同量ノ濃厚石炭酸水(第二)石炭酸若シテハ硫酸鐵合劑、硫酸鐵合劑、亞硫酸液ヲ灌クヘシ其屋外ニ持出ス手續ハ第二十二條ニ依ルヘシ

第五十六條 避病院及ヒ各病家ヨリ運搬シタル吐瀉物汚穢物ヲ燒却スルニハ其地方ニテ定メ置キタル地質鬆疎ナラサル所ニ適宜ノ穴ヲ掘リ厚ク灰或ハ石灰ヲ穴底ニ敷キ乾キタル藁、飽屑、落葉、枯草ノ類ニ石炭油ヲ澆キテ其上ニ置キ之ニ吐瀉物ヲ投シ再ヒ同前ノ燃料ヲ覆ヒテ火ヲ點スヘシ火勢滅スルトキハ更ニ油ニ注キテ屢々攪拌シ全ク燒盡スルヲ期スヘシ且ツ其汚汁ノ地中ニ滲透セサル様注意スルヲ要ス

但燃料及ヒ裝置等ハ其地ノ便宜ニ隨フヘシ

第五十七條 患者ノ入りタル厠間ノ糞汁ハ法ノ如ク燒却スヘキモ若シ大量ニシテ燒却シ難キモノハ亞硫酸溶液(第十)糞汁ノ石炭酸末(第四)糞汁ノ若シ其缺乏ニ際シテハ生石灰糞汁ニ投シテ汲取り一定ノ所ニ埋却シ其厠間ニハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ注入スヘシ

第五十八條 吐瀉物ノ水分多クシテ燒却シ得サルトキ之ヲ埋却スルニハ多量ノ濃厚石炭酸水(第二)若クハ亞硫酸溶液(第十)ヲ灌キ一定ノ場所ニ於テ深ク埋却スヘシ

但吐瀉物ノ埋却場ハ豫メ井泉河流及ヒ人家道路等ニ接近セサル地ヲ撰定スヘシ

第五十九條 吐瀉物汚穢物ヲ運搬スルニハ其地方ニ於テ豫メ取扱人夫ノ手續ヲ定メ流行ノ間ハ毎日二三回病家ノ吐瀉物汚穢物ヲ取集メ燒却若クハ埋却セシムヘシ尤モ其運器ハ極テ注意シ臭氣ノ洩レサル様只臭氣ヲ恐ル、ニアラス其毒蒸發相當ノ器ヲ用ヒ且ツ其汚汁多量ニシテ溢溢ノ恐アルトキハ錫屑、落葉、枯草等ヲ入レテ之ヲ防クヘシ

但運器ノ木製ナルモノハ流行終熄ノ後盡ク燒却シ其金屬製及ヒ陶製ノ者ハ稀薄石炭酸水(第二)若クハ亞硫酸溶液(第十)ヲ以テ洗淨スヘシ

第六十條

食料ニ供スヘキ物品ノ現ニ病毒ニ汚染シタルモノハ勿論病毒傳染ノ嫌アル

モノハ都テ之ヲ焼却スヘシ  
但現ニ病毒ニ汚染セサルモ其汚染ノ疑ヒアルモノハ「サリシル」酸溶液（三百倍ノ水  
モ）ヲ以テ之ヲ洗淨スヘシ

第三 衣服臥具等消毒法

第六十一條 衣服、臥具、蚊帳、疊、蓆等ノ甚シク吐瀉物ニ汚染シタルモノハ之ヲ焼却スヘシ

但船中積荷ノ吐瀉物ニ汚レタルモノ亦之ニ倣フヘシ

第六十二條 衣服、臥具、蚊帳等吐瀉物ニ汚穢スル少ナクシテ洗濯ニ堪フヘキモノハ之ヲ桶ニ入レ稀薄石炭酸水（第二）ヲ澆キ浸シ置クコト二十四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ四五分時ヲ經ルノ後水ヲ以テ洗淨シ日光ニ曝スヘシ石炭酸等ノ缺乏スルトキハ熱湯中ニ入レ一時以上之ヲ煮沸スヘシ

第六十三條 衣服、臥具、蚊帳等ノ少シク吐瀉物ニ汚染シ洗濯ニ堪ヘサルモノハ其品種ニヨリテ亞硫酸瓦斯（第九）若クハ石炭酸蒸氣（第三）ヲ以テ薰蒸シ或ハ熱氣消毒法ヲ行ヒシ後日光及ヒ大氣ニ曝スヘシ

第六十四條 死體ニ著セシ衣服ハ其消毒法ヲ行フコト第六十一條第六十二條及ヒ第六十三條ニ同シ

第六十五條 避病室ニ用ヒタル蚊帳ハ其病室ニ在ルコト久キヲ以テ吐瀉物ニ汚染セサルモノト雖モ都テ之ヲ煮沸シ或ハ熱氣消毒法ヲ施スヘシ

第六十六條 吐瀉物運搬人及ヒ避病院ノ醫師、看護人、死體取扱人、等ハ患者及ヒ汚穢物ニ接触スルコト久ク若クハ屢次ナルヲ以テ其衣服等ニ消毒法ヲ施スコト第六十二條第六十三條ニ同シ

但本文ニ掲グル所ノ者日々衣服ヲ更換セハ沸湯中ニ入レ一時以上之ヲ煮沸スルヲ可トス

第六十七條 看護人及ヒ患者死體運搬人又ハ船中ニテ患者ト同席シタル者ノ衣服手道具ハ直チニ病毒ニ汚染セサルモ稍々病毒浸染ノ疑ヒアルヲ以テ第六十三條ニ依リ消毒法ヲ行フヘシ

第四 家屋船舶等消毒法

第六十八條 患者及ヒ死體ヲ置キタル室ノ疊蓆類ハ之ヲ柱若クハ壁ニ倚セ懸ケ戸棚等ヲ開放シ室内ニアリシ諸器具ハ之ヲ排列シ窓戶ヲ密閉シテ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯（第九）ヲ薰シ然ル後窓ヲ開キ吐瀉物ニ汚染ノ嫌ヒアル松敷等ハ稀薄石炭酸水（第二）ヲ以テ之ヲ拭淨シ其他器具ハ石鹼水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨シ充分大氣及ヒ日光ニ曝スヘシ  
避病院ノ病室及ヒ屍室モ亦之ニ倣フヘシ

但金銀器書齋其他彩色ヲ施セル物及ヒ絹帛等亞硫酸ノ爲メニ其色質ヲ變化スルノ恐アルモノハ初メニ之ヲ取除ケ別ニ石炭酸蒸氣（第三）或ハ熱氣消毒法等ヲ適宜採用スヘシ

第六十九條 患者アリタル西洋形船舶ハ其處置尋常ノ家屋ニ大異ナシト雖モ下等客室ニ至テハ衆多ノ乘客皆積荷ノ間ニ枕藉シ幾ント彼我ノ別ナキカ故ニ若シ其中ニ發病者ア

ルトキハ満室ノ乗客積荷手荷物等モ皆病毒ニ汚染シタル者ト看做シ乗客手荷物ハ上陸ノ時充分ニ消毒法ヲ行ヒ積荷ハ其儘其室ニ於テ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)或ハ品物ニヨリ石炭酸蒸氣(第一)ヲ蒸スルノ後ニアラサレハ陸揚スルヲ許サス

第七十條 日本形小船ハ前條ノ方法ヲ斟酌シテ消毒法ヲ行ヒ海水ヲ以テ遍ク船身ヲ洗淨スヘシ

但海水モ亦消毒ノ効アルモノトス

第七十一條 避病院其他便宜ニヨリ他ノ家屋ヲ假用セシモノハ其室内ニ供セシ部分并ニ厨房ニ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ蒸シ後稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ注キ石鹼水ヲ用ヒテ洗淨スヘシ尤モ亞硫酸蒸氣法ノ充分ナルトキハ石炭酸水ヲ用フルヲ必要トセス

第七十二條 病室ハ不斷換氣法ニ注意スヘシ是亦多少消毒ノ効アルモノトス

第七十三條 臨時假設ノ避病院ニシテ其保存スヘカラサルモノハ流行終ル後之ヲ取毀ツヘシ尤モ其前汚穢シタル板敷、板壁及ヒ柱等ハ濃厚石炭酸水(第一)又ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ以テ充分ニ洗淨シ數日間開放シテ大氣ニ曝スヘシ

第五 汁具運搬器等消毒法

第七十四條 吐瀉物ヲ承ケタル漱盤便器等ハ之ヲ用フル毎ニ稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ以テ洗淨スヘシ其吐瀉物ニ液染シタル紙屑手拭其他之ニ類スルモノハ悉皆取集メ第二十二條ニ載セタル壺或ハ桶ニ投シ濃厚石炭酸水(第一)或ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ注キ吐瀉物ト共ニ之ヲ運搬セシムベシ

第七十五條 患者必要ノ手道具ヲ携ヘ避病院ニ入ル者ハ出院ノ時必ス亞硫酸瓦斯(第九)蒸氣法ヲ行ヒ之ヲ交付スヘシ

第七十六條 患者及ヒ死體若クハ病毒ニ觸レタル物品ヲ運ヒタル舁舟車駕及ヒ運搬器等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ注シ更ニ石鹼水若クハ沸湯ヲ以テ洗淨スヘシ其舁舟ノ如キハ海水ヲ以テ洗フモ可ナリ

第七十七條 病室ニ用ヒタル什具ハ總テ稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ灌キ然ル後石鹼水又ハ沸湯ニテ洗淨シ乾カスヘシ其洗フヘカラサルモノハ病室ニ消毒法ヲ行フノ際其内ニ排列シ濕潤ニ堪フヘキモノノ病室ニ消毒法ヲ以テ一時間蒸氣スヘシ

第七十八條 書籍新聞紙ノ類病室ニアリタルモノハ之ヲ緋展シ石炭酸蒸氣(第三)若クハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ蒸氣スヘシ或ハ熱氣消毒法ヲ行フモ可ナリ

第七十九條 醫術器械及ヒ木製、金屬製、陶製、漆製等ノ諸器ハ總テ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ洗フヘシ

第六 厠園溝渠等消毒法

第八十條 患者ノ入リタル厠園及ヒ嘔吐シタル地ニハ充分亞硫酸溶液(第十)或ハ硫酸鉄合劑(第五)ヲ注キ其厠園ノ汁ハ速ニ悉皆之ヲ汲取リ相當ノ消毒ヲ行ヒ終ルノ間ハ他人ノ入ルヲ禁シ其嘔吐シタル地ハ速ニ之ヲ掃除シ其土ヲ更換スヘシ且シ其糞尿及ヒ嘔吐ノ穢土ハ人家遠隔ノ地ニ於テ燒却若クハ埋却スヘシ

第八十一條 糞壺及ヒ桶ノ破壞シテ病毒滲漏ノ疑ヒアルモノハ速ニ之ヲ掘除ケ其周圍并

ニ底面ノ土モ亦深ク掘取リ濃厚石炭酸水(第一)或ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ十分ニ灌注シテ人家遠隔ノ地ニ埋却シ其跡ニモ同様ノ消毒藥ヲ注キ更ニ新土ヲ填ムヘシ  
但共消毒藥ノ量ハ其壺中糞汁ノ多少ニ因リ斟酌スヘシ大抵糞汁五分ノ一乃至三分ノ一ナルヘシ嘔吐物モ亦之ニ準ス

第八十二條 若シ誤テ吐瀉物ヲ溝渠下水等ニ投棄スルコトアルトキハ十分ニ亞硫酸溶液(第十)或ハ硫酸硫酸鐵合劑(第六)ヲ注キ其淤泥ノ撈ヒ得ヘキモノハ之ヲ撈ヒテ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ埋却スヘシ或ハ多量ノ水ヲ灌キテ疏通セシムヘシ  
但本條ノ如キ場所ニ於テ既ニ病毒ヲ混入スルトキハ消毒法モ其功ヲ奏シ難ク終ニ増殖ヲ致サシムヘシ故ニ預メ戒諭シテ誤テ之ニ投棄シ或ハ陰ニ投棄スル等ノ事ナカラシムルヲ要ス

腸室扶私

腸室扶私(英名泰)ハ從來神經熱、稽留熱、腸熱、傷寒、溫疫等ト稱スルモノ多ク之ニ屬ス而シテ此病ハ時ヲ撰ハス不斷散在性トナリ或ハ地方性トナリ或ハ流行性トナリテ發スト雖モ夏月早魃後秋涼ノ候ニ於テ最モ多ク流行スルモノナリ  
此病ノ流行ハ空氣ノ不潔、飲料水ノ汚濁、食物ノ不潔等之カ因トナルモノニシテ其病毒ハ特ニ患者ノ糞尿ニ由リテ傳播スル者ナリ然レトモ其毒發疹室扶私、天然痘等ノ如ク揮發性ノモノニ非サルヲ以テ預防ノ方法モ亦其趣ヲ異ニシ專テ其糞尿ニ注意スルヲ以テ緊要ノ目的ト爲スヘシ

第一項

清潔法

第一條 腸室扶私ノ病毒ハ汚穢ノ地ニ萌動シテ飲料水ニ混シ其毒ヲ傳播セシムルノ例少カラス蓋シ是等ノ害ハ清潔法ヲ怠リ或ハ排泄物ヲ浸リニ放棄シ或ハ糞壺若クハ桶ニ破隙アル等ノ疎漏ヨリ生スルモノニシテ廁園ト飲料水トノ注意ハ最モ肝要ナリ故ニ廁園、芥溜、溝渠、下水等ノ掃除ヲ忽ニスヘカラス  
但一處ノ水ヲ飲ム者一時ニ此病ニ罹ルコト多人數ナルトキハ直チニ其水ヲ試驗シ不良ナレハ其飲用ヲ禁スヘシ

第二項 攝生法

第二條 此病ハ不潔ノ飲料水若クハ食物等ヨリ來ルモノナルカ故ニ消化シ易キ物ヲ食シ清淨ナル水ヲ飲ムヘシ若シ善良ノ水ヲ得難キトキハ必ス之ヲ濾過煮沸シテ用フヘシ其他冒寒疲勞等ヲ戒ムヘシ

第三項 隔離法

第三條 醫師ノ條室扶私ト診斷シタルトキハ直チニ其家ノ門戸ニ病名票ヲ貼附スベシ但患者治癒又ハ死亡若クハ避病院ニ送致シ其病室ニ消毒法ヲ行ヒタル後ハ即チ其病名票ヲ去ルヘシ

第四條 患者ハ成ダケ其室ヲ異ニシ他人ニ交通ヲ絶テ看護人ハ年齡四十歲以上ノ號若クハ一回此病ニ罹リシ者ヲ撰フヘシ少壯ノ者ヲ用フヘカラス  
但航海船中ニ於テ發病者アルトキモ本條ニ從ヒ處置スヘシ

第五條 一家ニ數人此病ニ罹ル者アルトキハ相當ノ看護人ヲ留メ其他ノモノハ他家ニ避

退セシムベシ

第六條 流行盛ナルニ際シ既ニ避病院ヲ設クルニ至ラハ狹隘不潔ノ地ニ雜居シ隔離行届キ難キモノハ入院セシムヘシ

但避病院ノ位置廣狹及ヒ區別法等ハ虎列刺ノ部第三十二條以下第三十八條迄ニ照依シテ之ヲ斟酌スベシ

第四項 消毒法

第七條 腸窒扶私患者ノ濁下物及ヒ之ニ汚染シタル衣服、器具等並ニ其病室、廁間、便器等ハ盡ク病毒傳播ノ恐アルヲ以テ左ノ區別ニ從ヒ消毒スヘシ

第一 患者及ヒ看護人等消毒法

第八條 患者治療ノ後始テ他人ト交通シ又久シク此患者ニ親接セル看護人ノ他人ト交通スルトキハ沐浴換衣スヘシ

第二 死體及ヒ排泄物等消毒法

第九條 死體ハ速ニ棺内ニ歛メシムヘシ若シ濃厚石炭酸水(第一)ニ浸セル綿ヲ以テ肛門ヲ塞クコトヲ得ハ最良トス

第十條 糞尿ハ之ヲ便器ニ承テ稀薄石炭酸水(第二)ヲ注キ速ニ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ之ヲ埋却スヘシ

但埋却ノ地ハ井泉河流ノ近傍ヲ避クヘシ

第三 衣服臥具等消毒法

第十一條 衣服、臥具ノ糞尿ニ汚染シタルモノハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ洗淨シ或ハ

之ヲ煮沸シテ後石鹼水ヲ以テ洗淨スヘシ

第四 家屋船舶等消毒法

第十二條 患者及ヒ死體ヲ置キタル家屋船舶及ヒ避病院ノ病室屍室ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薫シ或ハ石炭酸水(第二)ヲ以テ拭淨スヘシ

但室内ハ常ニ注意シテ空氣ヲ流通スヘシ

第五 什具運搬器等消毒法

第十三條 什具運搬器ハ直チニ糞尿ニ汚穢スルニ非サレハ消毒ヲ要セサレトモ其汚穢セルモノハ亞硫酸溶液(第十)ヲ以テ洗滌スヘシ或ハ其品種ニヨリ熱湯ヲ注キテ後石鹼水ヲ以テ洗フヘシ

但木製ノ便器ハ其用ヲ終ルノ後之ヲ焼却スヘシ

第六 廁間溝渠等消毒法

第十四條 若シ誤テ患者ノ糞尿ヲ廁間、溝渠ニ混入セシトキハ硫酸鉄合劑ヲ(第五)注キテ之ヲ汲取り人家遠隔ノ地ニ搬送シテ埋却スヘシ溝渠ハ「コローン」石灰ヲ撒布シ水ヲ以テ疏通セシムヘシ

赤痢

赤痢ハ一種ノ傳染病ニシテ其病毒中ニ萌動シ人體ヲ侵ストキハ必ス大腸ニ若キテ下痢ヲ發スルモノナリ然シテ此患者ノ汚下スル所ノ糞尿ハ其病毒ヲ含有シテ水中地中或ハ氣中ニ散漫シ因テ廣ク他人ニ侵染スルニ至ルモノトス

此病毒ノ發生ヲ助クルハ温熱ト濕滯トニ因ルモノナレハ熱帶地方ニ於テハ殆ント周歲絶

ルコトナク且ツ多クハ悪性ナリ又暖帯地方ニ於テハ季夏初秋ノ候ニ行ハル、チ以テ常ト  
ス又土地ノ景況ニ從テ一地方ニ限リ流行スルコトアリ或ハ悪性ニシテ廣ク流行スルコト  
アリ此ノ如キ時ニ臨テハ務テ豫防法ニ注意シ其宜キヲ得ハ良性ノモノハ之ヲ撲滅スヘク  
悪性ノモノハ之ヲシテ良性ニ至ラシムルヲ得ヘシ故ニ流行ニ際シテ豫防ノ法ヲ忽ニスヘ  
カラス

第一項 清潔法

第一條 此病毒ハ汚濕ノ土地ニ萌動シテ氣中或ハ水中ニ人體ヲ侵襲スルモノナルカ故ニ  
厠園、溝渠、芥溜下水及ヒ魚市、屠場等ノ不潔ナル場所ハ勿論殊ニ監獄、製造所等ハ最モ  
掃除ヲ嚴ニスヘシ

但一處ノ水ヲ飲ム者一時ニ此病ニ罹ルコト多人數ナルトキハ直チニ其水ヲ試類シ不  
良ナレハ其飲用ヲ禁スヘシ且ツ清潔法ノ細目ハ能ク虎列刺ノ部ヲ參考シテ之ヲ斟酌  
スヘシ

第二項 攝生法

第二條 此病ハ老少ノ別ナク皆之ニ意スルノ素因アルカ如シト雖トモ就中一回之チ患ヘ  
シ者及ヒ不潔ノ地處ニ住居スル者不良ノ水ヲ飲用スル者及ヒ露臥、夜行、過度ノ勞力等  
都テ不攝生ノ者ハ之ニ感シ易シトス又流行ノ際ニ當テハ下痢秘結モ亦此病ノ誘因トナ  
ル故ニ能ク之ニ注意シテ攝生ノ法ヲ守ルヘシ殊ニ此病ニ罹リシ者快復ニ向ハンハント  
スルトキハ更ニ飲食ノ攝生ヲ嚴ニスヘシ些少ノ不消化物ヲ食フモ亦此病ノ再發ヲ促ス  
ノ恐アレハナリ

第三項 隔離法

第三條 此病毒ハ專ラ其下瀉ニ在ルチ以テ之ニ汚染セル衣服便器、醫術器械等ハ勿論其  
他ノモノモ亦皆傳播ノ媒介トナル故ニ患者ヲ隔離スルチ以テ豫防ノ第一要法トス其惡  
性ノモノハ最モ此注意ヲ忽ニスヘカラス

第四條 醫師ノ赤痢ト診斷シタル時ハ直チニ其家ノ門戸ニ病名票ヲ貼附スヘシ  
但患者治癒又ハ死亡若クハ避病院ニ送致シ其病室ニ消毒法ヲ行ヒタル後ハ即チ其病  
名票ヲ去ルヘシ

第五條 患者ハ其室ヲ異ニシ看護人ノ外ハ成ダケ之ニ接近スヘカラス又老幼等ハ速ニ他  
家ニ避退セシムヘシ

第六條 若シ一家ニ數人此病ニ罹ルトキハ看護人ヲ留メ其他ノモノハ他家ニ避退セシム  
ヘシ

第七條 患者ハ必ス他人ト厠園、便器等ヲ共用セシムヘカラス其瀉下スル所ノ糞尿ハ成  
ダケ之ヲ便器ニ承ケ速ニ消毒法ヲ行ヒ之チ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ燒却スヘシ

但便器ハ成ダケ金屬製或ハ陶製等ニシテ蓋アルモノヲ良トス

第八條 患者治癒若クハ死亡ノ後ト雖トモ病室ニ消毒法ヲ行フニアラサレハ其中ニ起臥  
スヘカラス

第九條 航海船中ニ患者アルトキハ看護人ヲ定メ便器ヲ以テ其瀉下物ヲ承ケ每回必ス海  
中ニ投棄スヘシ

但港灣及ヒ河湖等ニ於テハ瀉下物ヲ投棄スヘカラス最寄陸地ニ於テ之ヲ燒却スヘシ



第十條 避病院ノ位置廣狹及ヒ區別法等ハ虎列刺ノ部第三十二條以下第三十八條迄ニ照依シテ之ヲ斟酌スベシ

第十一條 狹隘不潔ノ住居若クハ製造所、會社、學校、旅店等ニ於テ發病スル者ハ成ヌテ避病院ニ送致スヘシ

第十二條 避病院看護人ノ分配、來訪人ノ處置等ハ虎列刺ノ部第四十一條ヨリ第四十四條迄ニ照依シテ之ヲ斟酌スヘシ

第十三條 普通病院アル地方ニ於テハ院内ヲ區別シ避病室トナシ患者ヲ入ルヘシ又人家稀疎ノ村落ニ於テハ相當ノ空屋ヲ用フルモ可ナリ

第四項 消毒法

第十四條 患者ノ瀉下物及ヒ之ニ汚染セル衣服、臥具等并ニ病室、廁園、便器等ハ盡ク病毒傳播ノ恐アルヲ以テ左ノ區別ニ從ヒ消毒スベシ

第一 患者及ヒ看護人等消毒法

第十五條 患者治療ノ後始テ他人ト交通シ又ハ避病院ヨリ退出ノ節ハ必ス沐浴シ石鹼水ヲ用テ全身ヲ洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒法ヲ施セシ衣服ヲ着スヘシ瀉下物運搬人及ヒ避病院ノ醫師、看護人、死體取扱人等ノ他人ニ接スルトキモ亦此法ニ從フヘシ

第十六條 看護人及ヒ患者死體運搬人ノ他人ト交通スルトキニハ必ス沐浴更衣スヘシ

第二 死體及ヒ排泄物等消毒法

第十七條 死體ハ充分ニ稀薄石炭酸水(第二)ニ浸シタル單衣若クハ綿布等ヲ以テ之ヲ包ミ成ヌケ速ニ棺内ニ歛ムヘシ若シ濃厚石炭酸(第一)ヲ用テ灌腸シ然ル後綿ヲ以テ肛

門ヲ塞グコトヲ得ハ最良トス

但此患者ノ死體ハ最モ腐敗シ易キヲ以テ速ニ棺内ニ歛メ且ツ成ヌケ速ニ之ヲ火葬若クハ埋葬セシムヘシ

第十八條 便器ニ承ケタル瀉下物ハ濃厚石炭酸水(第一)或ハ硫酸鉄合劑(第五)硫酸硫酸鉄合劑(第六)亞硫酸溶液(第十)等ヲ混和シ屋外ニ持出シ壺或ハ桶ニ入レテ密蓋シ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ燒却スヘシ其燒却法ハ虎列刺ノ部第五十六條ヲ參照スベシ

第十九條 甚シク瀉下物ニ汚染シタル紙及ヒ綿布等ハ悉皆取集メ之ヲ燒却スヘシ

第三 衣服臥具等消毒法

第二十條 衣服、臥具、蚊帳、疊、席等ノ甚シク瀉下物ニ汚染シタルモノハ之ヲ燒却スベシ其汚穢スル少ナクシテ洗濯シ得ベキモノハ之ヲ桶ニ入レ稀薄石炭酸水(第二)ヲ灌キ浸シ置クコト二十四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ四五分時ヲ經ルノ後水ヲ以テ洗淨シ日光ニ曝スヘシ若シ石炭酸等ノ缺乏スルトキハ熱湯中ニ入レ一時以上之ヲ煮沸スヘシ

第二十一條 其少ク瀉下物ニ汚染シ洗濯スベカラサルモノハ其品種ニヨリ亞硫酸瓦斯(第九)若クハ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ蒸蒸シ或ハ熱氣消毒法ヲ行ヒシ後日光及ヒ大氣ニ曝スベシ

第二十二條 死體ニ着セシ衣服ノ消毒法ハ前二條ニヨリ之ヲ施スヘシ

第二十三條 瀉下物運搬人及ヒ避病院ノ醫師看護人、取扱人等ハ患者及ヒ汚穢物ニ久シク觸接セルヲ以テ其衣服等ニ消毒法ヲ施スコト第二十條第二十一條ニ依ルヘシ但日々衣服ヲ更換スル者ハ沸湯ニ入レ一時以上之ヲ煮沸スルヲ以テ足レリトス

第二十四條 看護人及ヒ患者死体運搬人ノ衣服、手道具等直チニ病毒ニ汚染セサルモ稍々浸染ノ疑アルモノハ石炭酸蒸氣(第二)或ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ以テ薰蒸シ日光及ヒ大氣ニ曝スヘシ

第四 家屋船舶等消毒法

第二十五條 患者及ヒ死体ヲ置キタル室ノ疊、蓆類ハ之ヲ柱若クハ壁ニ倚セ掛テ戸棚ヲ開放シ室内ニアリシ諸器具ハ之ヲ排列シ窓戸ヲ密閉シテ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰シ然ル後窓戸ヲ開キ病毒附着ノ恐アル板敷等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ撒布シ更ニ之ヲ拭淨シ其他器具ハ石礮水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨シ充分大氣及ヒ日光ニ曝スヘシ避病院ノ病室及ヒ屍室モ亦之ニ倣フヘシ

但亞硫酸ノ爲メ其色質ヲ變化スルノ恐アル者ハ石炭酸蒸氣(第二)或ハ熱氣消毒法等ヲ採用スヘシ輕症痲病ノ如キハ必スシモ本條ノ處置ヲ要セス醋水若クハ「コロール」水ニテ室内ヲ拭淨スルヲ以テ足レリトス

第二十六條 患者アリタル船室ノ消毒法モ亦前條ニ同シ

第二十七條 普通病院ニシテ區隔セシ病室及ヒ一時假用セシ家屋等ノ消毒法モ亦前條ニ同シ

但病室ハ數多ノ患者交々此内ニ入ルヲ以テ惡性ノ痲病ナラサルモ尙ホ前條ノ消毒法ヲ用フヘシ

第五 什具運搬器等消毒法

第二十八條 便器ハ之ヲ用アル毎ニ稀薄石炭酸水(第二)亞硫酸溶液(第十)ヲ以テ洗滌ス

ヘシ

第二十九條 患者及ヒ死体若クハ瀉下物ニ汚染シタル物品ヲ運ヒタル諸器ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ灌注シ更ニ石礮水若クハ沸湯ヲ以テ洗滌スヘシ

第三十條 病室ニ用ヒタル什具及ヒ醫用器械等ハ稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ注キ然ル後沸湯ニテ洗淨スヘシ

第六 廁園溝渠等消毒法  
第三十一條 患者ノ入りタル廁園ハ他人ノ入ルヲ禁シ亞硫酸溶液(第十)或ハ硫酸鉄合劑(第五)ヲ注キ其瀉下物ハ速ニ之ヲ汲取り人家遠隔ノ地ニ搬送スヘシ而シテ其糞壺ニハ復タ同様ノ消毒法ヲ行フヘシ

第三十二條 糞桶及ヒ桶ノ破損シテ病毒滲漏ノ疑アルモノハ之ヲ掘除ケ其周圍ノ地ヲ掘取リ濃厚石炭酸水(第一)或ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ充分ニ灌注シ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ埋却スヘシ

但消毒藥ノ量ハ其壺中糞量五分一乃至三分一ニナルヘシ

第三十三條 若シ誤テ吐瀉物ヲ溝渠下水等ニ投棄スルコトアルトキハ充分ニ亞硫酸溶液(第十)或ハ硫酸硫合劑(第六)ヲ注キ其淤泥ノ撈ヘキモノハ之ヲ撈ヘテ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ埋却スヘシ或ハ多量ノ水ヲ灌キテ疏通セシムヘシ

但本條ノ如キ場處ニ於テ既ニ病毒ヲ混入スルトキハ消毒法モ其功ヲ奏シ難ク終ニ増殖ヲ致サシムヘシ故ニ豫メ戒諭シテ誤テ之ニ投棄シ或ハ陰ニ投棄スル等ノ事ナカラシムルヲ要ス

實布埤利亞

實布埤利亞ハ一種ノ猛烈ナル傳染病ニシテ其毒ハ患者ノ痰唾、涕汗等ニ含メリ又呼出スル所ノ空氣モ其毒ヲ包含スルヲ以テ之ニ觸ル、時ハ老少ニ論ナク皆之ニ感スルモノナリ而シテ幼稚ノ者ハ之ニ罹ルコト最多クシテ且ツ危險ナリトス抑々此病毒ハ其發生時季ヲ擇ハス又風土ニ關涉スルコトナク不斷散在スルコトアリ一時ニ廣ク流行スルコトアリ此症ハ必ス咽喉ニ發スルモノニシテ之カ爲メニ其部ノ壞爛ヲ致シ甚シキモノハ須臾ニシテ斃ル故ニ從來喉風、喉痺、馬癩風、纏喉風、咽氣ト唱フルモノ、中亦往々之レ有リ此病ハ患者ニ觸接セサルモ尙ホ感染ノ恐アルモノニシテ且ツ其毒久ク消滅セサルカ故ニ隔離消毒ノ方法ヲ忽ニスヘカラス

第一項 清潔法

第一條 此病流行ノ際ハ務テ一般清潔法ニ注意シ既ニ發病スルトキハ其室内ノ掃除ヲ怠ルヘカラズ家屋、衣服等清潔ニシテ且ツ隔離法充分ナルトキハ廣ク流行ニ至ラスシテ消滅スルヲ得ヘシ

第二項 攝生法

第二條 此病ハ殊ニ咽喉ヲ侵スモノニシテ既ニ些少ノ咽吭炎アルモノハ自カラ侵襲ヲ被リ易ク故ニ專ラ口内、喉頭、氣管等ノ炎症ヲ誘發スベキ事件ヲ戒メ常ニ含漱スルヲ良トス

但其誘發スヘキ事件トハ頸圍ヲ温保セシモノ驟カニ寒冷ニ冒觸シ或ハ苛烈ノ飲食料ヲ用ヒ或ハ高談放歌シ或ハ幼稚ヲシテ頻ニ號泣セシメ及ヒ小學校ニ於テ妄ニ高聲ヲ

發シ讀書唱歌セシムル等ニシテ皆宜ク之ヲ戒シムベシ

第三項 隔離法

第三條 醫師ノ實布埤利亞ト診斷スルトキハ其家ノ門戸ニ病名票ヲ貼附スヘシ但患者治癒或ハ死亡若クハ避病院ニ送致シ其病室ニ消毒法ヲ行ヒタル後ハ即チ其病名票ヲ去ルヘシ

第四條 此病ハ患者ニ探觸シ或ハ患者ノ痰唾ニ汚染セル物品若クハ室内ノ空氣ヨリ傳染スルヲ以テ患者ハ速ニ之ヲ隔離シ看護人ノ外ハ漫ニ接近セシム可ラス殊ニ小兒ヲ遠サシクヘシ

但室内ノ空氣ハ常ニ清鮮ナラシムルヲ要ス

第五條 病兒ハ健兒ト共ニ遊戯セシムヘカラス又學校等ニ行カシムヘカラス

第六條 病室内ニハ不用ノ衣服及ヒ器具ヲ置クヘカラス

第七條 患者ノ用フル所ノ飲食器及ヒ玩具等ハ他人ト共用スヘカラス

第八條 若シ其流行ノ勢盛ニシテ避病院ヲ要スルコトアルトキハ普通病院ヲ區隔シ或ハ相當ノ空屋ヲ以テ之ニ充ル等其便宜ニ任スヘシ

第九條 避病院ヲ設ルトキハ別ニ清淨ナル屍室ヲ設ケ患者死亡シタルトキ之ニ移スヘシ

但屍室ハ親屬ノ形者ヲ入ルカ爲メ豫メ其餘地ヲ設クベシ

第十條 避病院ニ在ル患者ノ親戚又ハ別段ノ交誼アル者看護ヲ爲サンコトヲ望ムトキハ之ヲ許スヘシ但屢々交替スルハ許スヘカラス

第四項 消毒法



第二十一條 患者ノ玩弄セシ圖書書籍ノ類ハ之ヲ播展シ石炭ハ蒸氣(第三)或ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ蒸スヘシ

第二十二條 患者及ヒ死體ヲ運搬セシ器具等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ灌注シ更ニ石鹼水若クハ沸湯ヲ以テ洗浄スヘシ其舢舨ノ如キハ海水ヲ以テ洗フモ可ナリ

第二十三條 醫術器械等ノ木製及ヒ金屬製ニシテ病毒ニ接觸シタル者例ヘハ壓舌鏡ノ如キハ總テ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ洗フヘシ

發疹室扶私

發疹室扶私 英名泰 ハ特異ノ揮發性傳染病ニシテ飢饉、軍陣疫、囚獄熱等ノ稱アリ從來腐敗、神經熱、斑熱、温疫、傷寒ト唱ヘシモノ、中ニモ亦此病アルコト多シ其病タルヤ地方ヲ撰ハス氣候ニ關セス流行スルト雖トモ多クハ衆人群集大氣流通ノ不佳ナル所ニ萌動シ衣服身体ノ不潔或ハ飯食ノ不足及ヒ過度ノ勞力、露臥、夜行其他身体ヲ衰弱セシムル事項ヲ誘因トシ傳染蔓延スルモノナリ其流行スルニ及テハ貴賤老幼ノ別ナク其誘因アルカ或ハ隔離法ノ行届サルヨリ倍々傳染ノ勢ヲ盛ニシ動モスレハ年ヲ亘リ消滅セサルコトアリ故ニ此病ノ豫防法ハ最モ忽ニスベカラサルモノトス

第一項

清潔法

第一條 發疹室扶私ノ病毒ハ不潔、狹隘、空氣ノ汚濁ヨリ生スル者ナレハ其發現スルニ當テ囚獄、兵營及ヒ製造所、貧院、棄兒院其他群集雜居稠密ノ場所ハ勿論一般ノ家屋タリトモ掃除ニ怠ラス務テ清潔ニシテ且ツ空氣ヲ疏通セシムヘシ最モ其身体ニ切ナル清潔

第二項

攝生法

法ヲ至要トシ日々沐浴シ衣服ノ洗濯ヲ怠ルヘカラス殊ニ病毒ノ發生ヲ助クヘキ一切ノ汚穢物即チ廁固、芥溜、溝渠等ノ掃除ニ注意ヲ加フヘシ  
第二條 避病院病室ニ於テ用フル所ノ臥具ハ無色若クハ淡色ノモノヲ要スヘシ其汚染ノ行易キカ爲ナリ自宅療養ノ者モ亦同様ノ注意ヲ要スヘシ

第三項

攝生法

第三條 此病ニ感スルノ素因ハ各人多クハ之ヲ有スト雖モ就中飢饉ノ窮民、軍陣ノ兵卒、監獄ノ囚徒等ノ如キハ其居處及ヒ攝生ノ人良ナルヨリ此病ニ罹ルモノ多シトス夫レ飢饉ノ時ニ當テハ攝生ノ事皆其宜キヲ得スト雖モ其最モ甚シキハ食物ノ不足ト不良トニアリ故ニ衛生官吏ハ務テ其食品中成ヌテ滋養分多キモノヲ撰ヒ有害ノ物ヲ指示シテ之ヲ避ケシムヘシ

第四條 兵卒ノ軍陣ニ在ルトキハ固ヨリ攝生ノ方ヲ講スルニ遑ナカルヘシト雖モ若シ一人發病スルトキハ直チニ全軍ニ波及スルノ虞アルヲ以テ成ルヌケテ無用ノ露臥過勞ヲ慎ミ且ツ飲料ノ良否ニ注意ヲ加フヘシ囚獄、懲役場ノ如キハ流行ノ際殊ニ空氣ノ流通及ヒ其食物ニ注意ヲ加ヘ工役等モ過度ナラシメサルヲ要ス一旦病毒ノ蔓延スルニ至テハ高貴豪富ノ人ト雖モ猶モ其傳染ヲ免ル、能ハス其素因アルヲ證スルニ足ル故ニ此時ニ當テハ務テ身体ノ溫度ヲ適宜ニ保持シ飲食ヲ節シテ過度ノ勞力ヲ爲スヘカラス且ツ夜氣風雨等ノ寒冒及ヒ身体ヲ衰弱セシムルノ諸件ヲ戒ムベシ

第三項

隔離法

第五條 醫師發疹室扶私ト診斷シタルトキハ直チニ其家ノ門戸ニ管名票ヲ貼附スベシ

但患者治癒又ハ死亡若クハ避病院ニ送致シ其室ニ消毒法ヲ行ヒタル後ハ即チ其病名票ヲ去ルベシ

第六條 癩疹瘰癧私ハ其毒揮發性ニシテ患者ノ皮膚蒸發氣、呼吸ヨリ發スルモノナレハ直チニ患者ニ接觸セサルモ尙ホ之ヲ感受スルコトアリ故ニ患者ノ身體ヲ以テ皆病毒ナリト看做スベシ又患者數名ヲ狹隘ノ病室ニ入ルトキハ病毒稠厚トナリ感染ノ勢益々烈ク此室内ニ入ルモノ忽チ其病害ヲ受ルノ恐アリ故ニ患者ハ速ニ之ヲ隔離シ且ツ相當ノ廣室ニ移サ、ルヘカラス

第七條 病室ハ適宜ニ窓戶ヲ開キ換氣法ニ注意シ常ニ其内ノ空氣ヲ清鮮ナラシメ看護人ノ外必ス接近セシムヘカラス

第八條 家族中ニ於テモ看護人ヲ定メ止ムヲ得サル事故アルノ外他人ト交通ヲ絶チ又老幼等ハ成タケ速ニ他家ヘ避退セシムヘシ否ラサレハ管ニ其害ヲ受ルノミナラス之カ媒介トナリ大ニ傳播スルノ恐アレハナリ

但家人ト雖トモ要用アルノ外其室内ニ入ルヘカラス若シ外人ノ要用アリテ來ルトキハ戶外ニ於テ之ヲ辨スヘシ且ツ看護人ハ成タケ更換スヘカラス是レ其揮發毒ノ衣服等ニ附着シテ廣ク他人ニ傳染スレハナリ

第九條 病室内ニハ不用ノ器具ヲ置クヘカラス殊ニ毛布ノ類ハ其病毒ヲ包含シ易キカ故ニ必要ノ外決シテ之ヲ置クヘカラス

第十條 此病ハ死體ヨリモ尙ホ其病毒ヲ發出シ以テ感染セシムルノ例少ナカラス故ニ死體ニハ速ニ消毒法ヲ行フヘシ死體ニ沐浴セシメ或ハ屍傍ニ接近スル等ノコトハ決シテ爲

スヘカラス

第十一條 患者治癒死亡ノ後ハ病室ニ消毒法ヲ行ヒ數週間窓戶ヲ開放シ風氣ヲ流通スヘシ蓋シ消毒ノ後ト雖トモ即チ室内ニ起臥スルトキハ傳染ノ恐ナキニアラサルガ故ナリ

第十二條 船舶中ニ此病ヲ發スル者アルトキハ速ニ其室ヲ異ニシ看護人ノ外交通ヲ絶ツコト尙ホ人家ニ於ルカ如クスヘシ

但此病ハ動モスレハ衆人群集セル船舶ニ發シ又船中飲食ノ不潔不足等其素因トナルカ故ニ若シ患者アテハ速ニ之ヲ隔離シ船内ノ清潔法ニ注意スヘシ

第十三條 製造所、會社、學校、旅店等其他衆人群集ノ處ニ於テ發病セシ者アラハ成タケ速ニ之ヲ避病院ニ送ルチ長トス若シ避病院ナク他ニ相當ノ空屋アラハ直チニ此ニ送致スヘシ然レトモ其發病セシ所ノ室廣潤ニシテ且ツ他人ト充分ニ隔離スルヲ得ハ必シモ他ニ送ルチ要セサルヘシ

第十四條 避病院ノ位置ハ人家ニ接近セス且ツ恒風ノ上ニアラサル地ヲ撰ヒ必ス往來繁多ノ路傍等ニ置クヘカラス

第十五條 避病院ノ建築ハ簡易ヲ旨トシ善美ヲ要セス是レ流行終熄ノ後燒却スルチ長トスレハナリ

第十六條 避病院ノ病室ハ最モ潤大ナルヲ要スル故ニ患者一人ニ二坪半ト見積リ其人數ノ概計ハ虎列刺第三十四條ニ載セタル割合ニ從ヒ之ヲ設クヘシ其他醫師詰所、事務所、看護人休息所并ニ簡易ノ蒸氣室等ヲ設クヘシ虎列刺第三十六條參照

第十七條 避病院ノ門側ニ輕易ナル風呂ヲ置キ看護人見舞人等退出ノ時必ス之ニ浴セシムルヲ良トス又病室ハ空氣ヲ流通セシメンカ爲ニ窓戸ヲ開キ冬時ハ暖爐ヲ置キ其溫度ヲ適宜ニシテ空氣ノ代謝ヲ助クヘシ

但患者退院若クハ死亡スルノ後ハ毎回其病室内ニ消毒法ヲ行フベシ

第十八條 避病院ニハ清淨ナル屍室ヲ設ケ患者若シ死亡シタルトキハ直チニ之ニ遷シ病室ニ留置クベカラス

但其屍室ニハ親族ノ吊者ヲ入ルカ爲メ其餘地ヲ設クヘシ其吊者ハ成ダテ速ニ來ルヘキ手續ヲ爲スヲ要ス此病ハ死體モ亦發毒ヲ逞フスルモノナレハ必ス久ク留置クベカラス

第十九條 人家稀疎ノ村落ニ於テハ必シモ避病院ヲ要セス若シ相當ノ空屋アラハ之ヲ假用シ或ハ苦野等ノ屋舎ヲ假設スルモ可ナリ

第二十條 尋常ノ病院ニハ決シテ此患者ヲ入ルヘカラス若シ室内ニ從來傳染病室ノ設アリテ充分ニ隔離消毒法ヲ行ヒ得ヘキノ目的アルモノハ入院ヲ許スヘシト雖トモ尋常ノ病室ヲ區隔シテ之ヲ用フヘカラス

第二十一條 避病院看護人ノ員數ハ重症ノ患者ニハ二人一人ヲ附シ輕症ノ者ニハ四人一人ヲ附シ其快復ニ赴ク者ニハ六人一人ヲ附スル割合ヲ以テ便宜斟酌シ且ツ晝夜交代セシムヘシ

但看護人ニハ其表記アル衣服ヲ着セシメ且ツ成ダテ其人ヲ更換セシムヘカラス

第二十二條 避病院ニ在ル患者ノ親族又ハ別段ノ交誼アル者看護ヲ爲サンコトヲ望ムル

ハ之ヲ許スヘシ且其看護人ハ多人數ヲ要スルヲ要シ且ツ屢々更替スルヲ許スヘカラス

第二十三條 避病院ニ携ヘ來リシ衣服、手道具等ハ別室ニ置クヲ良トス

第二十四條 患者ノ親族又ハ別段ノ交誼アル者來訪スルモ成ダテ室内ニ入ル、ヲ許サルヲ良トス

第二十五條 此病ハ揮發性ニシテ一時ニ衆人ヲ侵シ若シ一人發病スルトキハ其衣服等ニ附若セル病毒忽チ傳播シ大ニ流行ノ媒介トナルヲ以テ流行ノ際ニハ成ダテ衆人群集スルノ事業ヲ差止メ且ツ社寺參拜等ノ爲メ多人數旅行スルヲ差止ルコトアルヘシ

第四項 消毒法

第二十六條 此病毒ハ患者及ヒ死者ノ身体ヨリ發シテ衣服、臥具、器具ハ勿論居室ノ壁、簾、屏障等ニ至ルマテ盡ク附着シテ其病毒久ク潛匿スルモノナレハ病體及ヒ死體ニ接近セルモノハ都テ病毒ト同視シ消毒法ヲ行フヲ要ス

第二十七條 消毒法ハ其物ニ從テ區別スルコト左ノ如シ

第一 患者及ヒ看護人等消毒法

第二十八條 患者治癒ノ後始メテ他人ト交通シ又ハ避病院ヨリ退出ノ節等ハ必ス沐浴シ石鹼水ヲ用テ全身ヲ洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒法ヲ施シタル衣服ヲ着スヘシ看護人及ヒ患者死體運搬人並ニ避病院ノ醫師死體取扱人及ヒ船中ニテ患者ト同席セシ者等他人ト交通スル時モ亦此法ニ從フヘシ

第二十九條 自宅患者ヲ往診セシ醫師及ヒ患者ノ家人ニシテ直接セサル者親戚朋友ノ一時見舞タル者ハ成ダテ石鹼水或ハ醋水ニテ顔面及ヒ手ヲ洗拭スヘシ

第二

死体及ヒ排泄物等消毒法

第二十條 死体ハ充分ニ稀薄石炭酸水(第二)ニ浸シタル單衣若クハ綿布ヲ以テ之ヲ包ミ速ニ棺内ニ斂ムヘシ

但死体ハ成ダケ之ヲ火葬スルヲ良トス

第三十一條 西洋形船舶航海中ニ死者アルトキハ速ニ濃厚石炭酸水(第一)ニ浸シタル單衣若クハ綿布ヲ以テ之ヲ包ミ假ニ棺内ニ斂メ通常屍室或ハ船中適宜ノ場所ヲ見計ヒ此ニ入レ置キ時々濃厚石炭酸水(第一)ヲ灌注スヘシ

但陸地ニ若スルトキハ速ニ其地方ノ警察官吏衛生委員ニ届出處分スヘシ

第三十二條 此病ハ必シモ排泄物ヨリ傳染セスト雖モ空氣ヲ汚スノ恐アルヲ以テ成ダケ速ニ之ヲ取除ケ病室内ニ留置ヘカラス

第三

衣服臥具等消毒法

第三十三條 患者ノ久ク着シタル衣服、臥具ノ污垢ニ染ミタル者又ハ死体ニ直接シタル臥具蚊帳ニテ用ヒタル臥具、蚊帳等ハ成ダケ燒却スルヲ良トス其燒却ヲ憚ルヘキモノニシテ洗濯スヘキハ之ヲ桶ニ入レ稀薄石炭酸水(第二)ヲ灌キ浸シ置クヲ二十四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ四五分時ヲ經ルノ後水ヲ以テ洗淨シ日光ニ曝スヘシ石炭酸等若シ缺乏スルトキハ熱湯中ニ入レ一時以上煮沸スヘシ

第三十四條 同前ノ品種ニシテ洗濯スヘカラスナルモノハ亞硫酸瓦斯(第九)石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ蒸蒸シ或ハ熱氣消毒法ヲ行ヒシ後日光及ヒ大氣ニ曝スヘシ

第四

家屋船舶等消毒法

第三十五條 患者及ヒ二体ヲ置キタル室ノ疊席類ハ之ヲ柱若クハ壁ニ倚セ掛ケ戸棚等ヲ開放シ室内ニアリテ諸器具ハ之ヲ排列シ窓戶ヲ密閉シテ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)ヲ蒸ス然レ後窓戶ヲ開キ洗淨附若ノ恐アル柱、板敷等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ撒布シ更ニ之ヲ拭淨シ其他器具ハ石炭酸水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨シ充分大氣及ヒ日光ニ曝スヘシ避病院ノ病室及ヒ屍室モ亦之ニ倣フヘシ

但金銀器、書畫其他彩色ヲ施セル物及ヒ絹帛等亞硫酸ノ爲メニ其色質ヲ變化スルノ恐アル者ハ初ニ之ヲ取除ケ別ニ石炭酸蒸氣(第三)或ハ熱氣消毒法等ヲ適宜擇用スヘシ

第三十六條 患者アリタル西洋形船舶ハ其處置尋常ノ家屋ニ大異ナシト雖トモ下等客室ニ至テハ衆多ノ乘客者積荷ノ間ニ沈藉シ幾ント彼我ノ別ナキカ故ニ若シ其中ニ發病者アルトキハ滿室ノ乘客、積荷、手荷物ハ皆病毒ニ浸染シタル者ト看做シ乘客手荷物ハ上陸ノ時充分ニ消毒法ヲ行ヒ積荷ハ其儘其室ニ於テ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)或ハ品種ニヨリ石炭酸蒸氣(第三)ヲ蒸スルノ後ニ非サレハ陸揚スルヲ許サス

第三十七條 日本形小船ハ前條ヲ斟酌シテ消毒法ヲ行ヒ海水ヲ以テ普ク船身ヲ洗フヘシ

第三十八條 尋常家屋ヲ避病院ニ假用セシモノハ其病室トナセシ部分ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ蒸セシ後稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ洒キ石炭酸ヲ以テ洗淨スヘシ

第三十九條 病室ハ不斷換氣法ニ注意スヘシ是亦多少消毒ノ効アルモノトス

第四十條 避病院ハ流行ノ後成ダケ燒却スルヲ良トス否ラサレハ先ツ汚穢シタル板敷

灰壁及ヒ柱等ハ濃厚石炭酸水(第一)又ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ以テ充分ニ洗淨シ數日間



開放シテ大氣ニ曝シ然ル後之ヲ取毀ツヘシ

第五 什具運搬器等消毒法

第四十一條 病室ニ用ヒタル什具ハ總テ稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ注キ然ル後石礮水又ハ沸湯ニテ洗淨スヘシ其洗フヘカテサルモノハ病室ニ消毒法ヲ行フノ際其内ニ排列シ濕潤ニ堪フヘキモノ亞硫酸瓦斯(第九)或ハ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ一時間蒸氣スヘシ

第四十二條 書籍新聞紙ノ類病室ニアリタルトキハ之ヲ緋展シ石炭酸蒸氣(第三)若クハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ蒸スベシ或ハ熱氣消毒法ヲ行フモ可ナリ

第四十三條 醫術器械及ヒ職人手道具其他木製、金屬製、陶製、漆製ノ諸器類ハ總テ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ洗フヘシ

痘瘡

痘瘡ノ病毒ハ揮發性及ヒ固性傳染毒ニシテ全ク患者ノ身体ヨリ發出シ又ハ死体及ヒ痘漿痘痂ニ直接シテ感染スルノミナラス其患者ニ接觸セシ衣服、臥具其他一切ノ物品ヨリモ傳染シ又其病室内ノ空氣、塵埃モ之カ媒介トナリテ其病毒ヲ傳送スルモノトス痘瘡ハ古來ヨリ全世界ニ發現シ殊ニ惡性流行スルトキハ其猖獗ニシテ無數ノ人衆ヲ害シ良醫モ亦手ヲ束テ其術ヲ施スヘカテサルアリ但人生一回此病ニ憚ルキハ感受性ヲ脱盡シ得ルヲ以テ英國ノ醫博士シエンネル氏牛痘接種ノ法ヲ發明セシ以テ其善感スル者ハ復タ天然痘ニ感スルナシ故ニ此流行ハレテヨリ大ニ患者ノ數ヲ減シ偶々流行スルモ其病性劇惡ニ至ラス殆ント其性ヲ變スルニ至ルヲ証スルニ足ル是故ニ種痘ヲ普及スルハ全ク此病

ヲ防盡スル所以ニシテ即チ豫防ノ第一トス

第一項 清潔法

第一條 此病ハ各人感受性ヲ具フル故ニ一般清潔法ヲ要スルモ他病ニ於テ緊要トスルカ如クナラテ但患者ノ居室ヲ清潔ニシ痘漿等ニ汚染セル衣服ヲ屢々更換シ周圍ノ塵埃ヲ掃除シ專ラ他人ニ傳染スルヲ防クヲ要スルニアルノミ

第二項 攝生法

第二條 前條ニ載スルガ如ク牛痘ヲ接種シテ其素因ヲ脱盡スルトキハ復タ天然痘ニ感スルコトナシ然レモ一回種ヲ以テ足レリトスヘキニ非ス再三接種シ其善感ノ確徴ヲ取ラサルヘカラス唯衣服、飲食等ノ攝生ヲ以テ此病ノ侵襲ヲ豫防スヘキニアラス

第三項 隔離法

第三條 醫師痘瘡ト診斷シタルトキハ直チニ其家ノ門戸ニ病名票ヲ貼附スヘシ但患者治療又ハ死亡若クハ避病院ニ送致シ其室内ニ消毒法ヲ行ヒタル後ハ即チ其病名票ヲ去ルヘシ

第四條 痘瘡ノ毒ハ患者ノ身体又ハ衣服、臥具等ヨリ傳染シ又患者ニ接近シタル者ノ衣服等ヨリモ傳染スルヲ以テ成メテ患者ニ接近シ又ハ患者ノ用ヒタル衣服、器具等ニ觸ルヘカラス

第五條 自宅療養ノ患者ハ其室ヲ異ニシ看護人ノ外ハ或ダ接近スヘカラス已ムヲ得サル事故アルノ外ハ他人ト交通ヲ絶テ殊ニ未痘者ヲ近クヘカラス

第六條 家族中ニ於テモ看護人ヲ定メ其他要用アル者ノ外成メテ之ヲ室内ニ入シムベカ

但看護人ハ既痘者ニ限ルヘシ

第七條 病室内不用ノ器具ハ勿論殊ニ不用ノ毛布等ヲ置クヘカラス

第八條 患者死亡ノ後其屍傍ニ接近シ并ニ死体ニ沐浴セシムル等ハ爲サ、ルヲ良トス

第九條 縱令輕症ナル患者ト雖トモ落痂後一週日ヲ經ルニアラサレハ學校其他衆人群集ノ場所ニ行カシムベカラス

第十條 蚊蠅ハ好テ患者ノ皮膚ニ聚リ頗ル病毒傳播ノ媒介ヲナス者ナレハ病床ニハ常ニ蚊帳ヲ張り蚊蠅及ヒ其他ノ小蟲ヲモ防クヘシ

第十一條 病室ハ消毒ノ後ト雖モ數週間未痘者ヲ入ルヘカラス

第十二條 西洋形船舶航海中若シ發病者アルトキハ此病室ヲ用フルモ妨ナシ

第十三條 製造所、會社、學校、旅店等ニ在テ發病シ引取人ナキ者并ニ狹隘不潔ノ地ニ雜居スル等ニシテ看護消毒法行届カス病毒ノ傳播ヲ防キ難キ者ハ之ヲ避病院ニ送ルヘシ

第十四條 避病院ノ位置ハ人家ニ接近セス且ツ恒風ノ上ニアラサル地ヲ撰ヒ必ス往來繁多ノ路傍等ニ設クヘカラス

第十五條 避病院ヲ新ニ構造スルトキハ空氣ノ流通ヲ主トシ善美ヲ要セス其牀ヲ高クシ

但其門前ニ高ク病名標旗ヲ掲クヘシ

窓戸ヲ潤大ニシ且ツ板壁ヲ用ヒテ洗淨ニ便ニシ其屋根ハ板葺、苔葺等一時ノ便ニ任シテ可ナリ且ツ其病室ハ潤大ナルヲ要スルヲ以テ凡患者一人ニ二坪半ト見積リ之ヲ建設スヘシ

第十六條 避病院ノ病室ハ重症輕症ノ患者ヲ區別シテ之ヲ分隔シ二坪半ニ患者一人ヲ置クヲ常トシ縱令幅濶スルトモ一坪若クハ一坪半ニ一人ノ割合ヨリ狭クスヘカラス

但此他醫師詰所、事務所、看護人休息所等便宜ニ之ヲ設ク且ツ簡易ノ蒸氣室ヲ設クヘシ

第十七條 避病院ノ門側ニハ輕易ナル風呂ヲ設ケ看護人見舞人等外出ノ時入浴ノ用ニ供スヘシ

第十八條 避病院ハ窓戸ヲ潤大ニシ空氣ヲ流通セシメ冬時ハ暖爐ヲ置キ室内ノ溫度ヲ適宜ニシ空氣ノ代謝ヲ助クヘシ

第十九條 避病院ニハ別ニ清淨ナル屍室ヲ設ケ患者若シ死亡シタルトキハ直チニ此ニ移スヘシ

但屍室ハ親族ノ用者ヲ入ル、カ爲メ其餘地ヲ設クヘシ且ツ其用者ハ成ダテ速ニ來ルノ手續ヲナスヲ要ス

第二十條 尋常病院ニハ決シテ此患者ヲ入ルベカラス若シ室内ニ從來傳染病室ノ設アリテ充分ニ隔離法消毒法ヲ行ヒ得ベキノ目的アルモノハ入院ヲ許スヘシト雖トモ尋常ノ病院ヲ區隔シテ之ヲ用フベカラス

第二十一條 人家稀疎ノ村落ニ於テハ必シモ避病院ヲ設ルヲ要セス若シ相當ノ空屋アラハ假ニ之ヲ用フベシ

第二十二條 避病院看護人ノ員數ハ重症ノ患者ニハ一人ニ一人ヲ附シ輕症ノ者ニハ三人ニ一人ヲ附スル割合ヲ以テ便宜斟酌シ且ツ晝夜交代セシムヘシ  
但看護人ハ既痘者ニ限ルベシ且ツ其表記アル衣服ヲ著セシメ成ダケ其人ヲ更換セシムベカラス

第二十三條 避病院ニ在ル患者ノ親族又ハ別段ノ交誼アル者看護ヲ爲ンコト望ムトキハ既痘者ニ限リ之ヲ許スベシ但屢々更替スルヲ許スベカラス

第二十四條 患者ノ親族等一時見舞ヲ爲サント請フトキハ之ヲ許スト雖トモ成ダケ屢々スヘカラス其出ル時ニハ必ス充分ノ消毒法ヲ施スベシ

第二十五條 流行ノ勢猛烈ナルトキハ祭禮、劇場等衆人群集ノ事業ヲ差止メ學校モ成ダケ之ヲ閉ツルヲ良トス

第四項 消毒法

第二十六條 此病毒ハ膿漿、呼氣、津唾及ヒ死体ヨリ傳染シ又患者ノ衣服、臥具、其他患者ニ接觸セシ器具及ヒ居室等ヨリモ傳染スルカ故ニ甚シク汚染セシモノハ成ダケ燒却スベシ

第二十七條 消毒法ハ其物ニ從テ區別スルコト左ノ如シ

第一 患者及ヒ看護人等消毒法

第二十八條 患者治癒落茄ノ後一週日ヲ經テ初テ他人ト交通シ又ハ避病院ヨリ退出ノ節ハ

必ス沐浴シ石炭水ヲ用テ全身ヲ洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒法ヲ施シタル衣服ヲ著スヘシ看護人及ヒ患者屍体運搬人並ニ避病院ノ醫師死体取扱人等ノ他人ニ交接スルトキモ亦此法ニ從フヘシ

第二十九條 自宅患者ヲ往診セル醫師及ヒ患者ノ家人ニシテ直接セサル者親戚朋友ノ一時見舞タル者等ハ石礮等或ハ醋水ニテ顔面及ヒ手ヲ洗フヘシ

第二 死体及ヒ排泄物等消毒法

第三十條 死体ハ充分ニ稀薄石炭酸水(第二)ヲ浸シタル單衣若クハ綿布ヲ以テ之ヲ包ミ速ニ棺内ニ斂ムヘシ

第三十一條 死体ハ成ダケ火葬セシムルヲ良トス埋葬シタルモノハ其病毒數十年ヲ經ルモ消滅セサルモノトス

第三十二條 西洋形船舶航海中ニ死者アルトキハ速ニ濃厚石炭酸水(第一)ニ浸シタル單衣若クハ綿布ヲ以テ之ヲ包ミ假ニ棺内ニ斂メ通常屍體或ハ船中適宜ノ場所ヲ見計ヒ此ニ入レ置キ時々濃厚石炭酸水(第一)ヲ灑注スヘシ

第三十三條 落茄及ヒ病室ノ塵埃又ハ患者ニ觸レタル綿、布、紙等ノ斷片ニ至ル迄時々收拾シテ之ヲ燒却スヘシ

第三 衣服臥具等消毒法

第三十四條 患者ノ久ク用ヒタル衣服、臥具及ヒ避病院ニ用ヒタル蚊帳ノ甚シク病毒ニ浸染シタル者并ニ避病院ノ臥具、疊、蓆等ハ之ヲ燒却スヘシ

第三十五條 患者ノ着シタル衣服、臥具及ヒ手中、蚊帳等又ハ死体ニ若シ衣服等ノ洗濯ニ堪フヘキモノハ之ヲ桶ニ入レ稀薄石炭酸水(第二)ヲ灌キ浸シ置クコト二十四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ四分時ヲ経ルノ後水ヲ以テ洗浄シ日光ニ曝スヘシ石炭酸等若シ缺乏スルトキハ熱湯中ニ入レ一時以上之ヲ煮沸スヘシ其洗濯ニ堪ヘサル者ハ品種ニヨリ亞硫酸瓦斯(第九)若クハ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ蒸蒸シ或ハ熱氣消毒法ヲ行ヒシ後日光及ヒ大氣ニ曝スヘシ

第三十六條 避病院ノ醫師、看護人及ヒ死体運搬人等ノ衣服ニ施スヘキ消毒法ハ前條ニ同シ

第四 家屋船舶等消毒法

第三十七條 患者及ヒ死体ヲ置キタル室ノ疊蓆類ハ之ヲ柱若クハ壁ニ倚セ掛ケ戸棚等ヲ開放シ室内ニアリシ諸器具ハ之ヲ排列シ窓戸ヲ密閉シテ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)ヲ蒸シ然ル後窓戸ヲ開キ病毒附着ノ恐アル柱板敷等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ撤布シ更ニ之ヲ拭淨シ其他ノ器具ハ石礮水又ハ沸湯ヲ洗浄シ以テ充分大氣及ヒ日光ニ曝スヘシ避病院ノ病室及ヒ屍室モ亦之ニ做フヘシ

但金銀器書畫其他彩色質ヲ施セル物及ヒ絹帛等亞硫酸ノ爲メニ其色質ヲ變化スルノ恐アル者ハ初ニ之ヲ取除ケ別ニ石炭酸蒸氣(第三)或ハ熱氣消毒等ヲ適宜擇用スヘシ第三十八條 患者アリタル西洋形船舶ハ其處置尋常ノ家屋ニ大異ナシト雖トモ下等客室ニ至テハ衆多ノ乘客皆積荷ノ間ニ枕籍シ幾ント彼我ノ別ナキカ故ニ若シ其中ニ發病者アルトキハ滿室ノ乘客、積荷、手荷物ハ皆積荷ニ浸染シタル者ト看做シ乘客、積荷、手荷物

物ハ上陸ノ時充分ニ消毒法ヲ行ヒ積荷ハ其儘其室ニ於テ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)或ハ品種ニヨリ石炭酸蒸氣(第三)ヲ蒸スルノ後ニ非レハ陸揚スルヲ許サス

第三十九條 日本形小船ハ前條ヲ斟酌シテ消毒法ヲ行ヒ海水ヲ以テ普ク船身ヲ洗浄スヘシ

第四十條 避病院或ハ便宜ニヨリ他ノ空屋ヲ假用セシモノハ其病室ニ供セシ部分ニ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ蒸セシ後稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ注キ石炭酸ヲ以テ洗浄スヘシ

但消毒ノ後モ數週間ニ内ニ入ルベカラズ且ツ空氣ヲ流通セシムベシ

第四十一條 病室ハ不斷換氣法ニ注意スヘシ是亦多少消毒ノ効アルモノトス

第四十二條 臨時假設ノ避病院ニシテ其保存スヘカラサルモノハ流行熄ムノ後之ヲ取毀ツヘシ最モ其前汚穢シタル板敷、板壁及ヒ柱等ハ濃厚石炭酸水(第一)又ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ以テ充分ニ洗浄シ數日間開放シテ大氣ニ曝スヘシ

(甲) 第五 什具運搬器等消毒法

第四十三條 避病院ニ携ヘ來リシ手道具、玩具等ハ治療若クハ死亡ノ後亞硫酸瓦斯(第九)蒸氣法ヲ行ハサレハ之ヲ出スヘカラス

第四十四條 患者及ヒ死體ヲ運搬セシ器具等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ灌注シ更ニ石炭酸若クハ沸湯ヲ以テ洗浄スヘシ其解舟ノ如キハ海水ヲ以テ洗フモ可ナリ

第四十五條 病室ニ用ヒタル什具、玩具ハ總テ稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ灌キ然ル後石炭酸又ハ沸湯ニテ洗浄スヘシ其洗フヘカラサルモノハ病室ニ消毒

法ヲ行フノ際其内ニ排列シ濕潤ニ堪フヘキモノ  
 三)ヲ以テ一時間之ヲ蒸スヘシ  
 第四十六條 患者ノ玩弄シタル圖書、書籍、新聞紙ノ類ハ之ヲ緋展シ石炭酸蒸溜(第三)若クハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ蒸スヘシ或ハ熱氣消毒法ヲ行フモ可ナリ  
 第四十七條 醫術器械及ヒ木製、金屬製、陶製、漆製等ノ諸器ニシテ病毒ニ觸レタルモノハ總テ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ洗フヘシ  
 ○乾第五十五號 明治十八年四月二日  
 公私立學校生徒麻疹病ニ罹ルカ若クハ其家内ニ該病者アルトキハ其全愈ニ至ルマテ登校スヘカラス此旨告示候事  
 ○乾第六十三號 明治十八年四月十一日  
 明治十五年八月第六號告示傳染病豫防心得書附録トシテ種痘施術心得書別紙之通追加候條此旨告示候事

種痘施術心得書

種痘術ヲ施ス者ハ種痘ノ適否接種ノ方法痘苗採取及貯蓄ノ法善感不善感ノ鑑別種痘ノ注意等ヲ詳知セサル可カラス其要左ノ如シ

第一 種痘ノ適否

第一條 種痘ハ左ニ掲クル者ニハ施サ、ルヲ可トス  
 一 生後七十日ヲ經サル者  
 二 種痘ノ爲ニ一時増進スヘキ病患アル者

三 丹毒流毒ノ土地ニ居住スル者  
 四 蔓延性ノ皮膚病アル者  
 五 熱性病ニ罹リ居ル者

第二條 種痘ニ適スル時期ハ(三月四月五月)秋(九月十月十一月)二季ヲ以テ最良トス然レトモ四季共ニ之ヲ施シテ妨ナシ

第二 接種ノ方法

第三條 種痘ヲ施スハ上膊三稜筋抵ニ於テ各三針乃至五針受痘者ノ年齢體質等ニ隨フトシ各針ノ距離曲尺五分以上ニシテ痘疔ノ最輪互ニ密接セサル様注意スヘシ

第四條 施術ニ先チ針尖ヲ拭淨シ一時ニ數人エ接種スルトキハ一人毎エ之ヲ拭淨スヘシ

第五條 良性ナル痘漿ヲ採リテ移種スルヲ確實ノ良法トスレトモ此法ヲ行フコト能ハサルトキハ貯蓄ノ痘苗ニシテ成ルヘク新鮮ナル者ヲ撰ヒ用フヘシ但痂皮ハ用ヒサルヲ可トス

第三 痘苗採取及貯蓄ノ法

第六條 痘苗ハ左ニ掲クル者ヨリ採取スヘカラス

一 痘疔ノ成形過度及過大ノ者 發暈非常ニ大ナル者 疱緣又ハ暈部ニ水泡ヲ生スル者 痘疔非常ニ隆起シテ澄明ノ漿液ヲ漏出スル者 一種ノ疑フヘキ色例ヘハ紅藍色ヲ呈セルカ如キ者

但此等ノ異常痘疔ノ近傍ニ在ル正痘モ亦同シ

二 痘漿ノ血液ヲ混セル者 痘ノ中央ニ在ル痘漿ノ腐敗ニ向ントスル者 痘疔ノ已ニ

化膿ニ傾キシ者 爬搔又ハ摩擦ノ爲ニ痘疱破潰セシ者  
 三 梅毒瘰癧病及ヒ皮膚病ニ罹リ居ル者 營養不良ノ者  
 四 丹毒ヲ併發セル者 經過不整ニシテ不適應ノ疑アル者 第十四條ヲ參觀スヘシ  
 五 天然痘ヲ經タル者 再三種ノ者  
 第七條 痘漿ヲ採ルハ通帳接種後第八日 二十四時間ヲ以テ一チ以テ佳トスト雖トモ時候ノ寒暖及各人ノ性質ニ隨ヒ第七日又ハ第九日ヲ以テ其度トスルコトアリ痘疱ハ善感良性ノ者ニシテ如含包セル所ノ漿液ハ渾濁セス粘稠露滴ノ適クナルヘシ  
 第八條 痘漿ヲ採ルニハ痘疱ノ中心ヲ避テ痘面ヨリ斜ニ淺刺シ深ク刺シテ出血セシムヘカラス  
 第九條 發痘一顆ナル者ノ痘疱ハ其漿液ヲ採ルヘカラス又數顆アルモ其一顆ハ傷クヘカラス  
 第十條 痘苗ヲ貯蓄シテ接種ノ用ニ供セントスルニハ硝子板間ニ貯ヘテ密封シ又ハ硝子製毛細管ニ吸入セシメテ其兩端ヲ固封シ日光及寒熱ノ劇度ヲ避ケ貯フヘシ(痘苗ノ貯蓄法甚宜シキヲ得ルトキハ五箇月間充分ノ効力アリ)  
 第四 善感不善感ノ鑑別  
 第十一條 種痘ノ善感不善感ヲ鑑別スルニハ左ノ各項ヲ以テ要點ト爲ス  
 一 接種後第二日以内ニ成形ヲ始メシヤ否  
 二 痘疱常形ニシテ其大及硬サハ皮下皮上共ニ同一ナルヤ否  
 三 紅暈ハ常形ナルヤ否

四 經過整然トシテ其時期ヲ誤ラサルヤ否  
 五 第八日ニ至リ微熱ヲ發スルヤ或ハ然ラサルモ其他ノ徵候ヲ呈スルヤ否  
 六 痂皮ハ黧褐色又ハ黒色ニシテ其厚サ及硬サハ常度ナルヤ否  
 第十二條 種痘善感ノ徵候ハ左ノ經過ニ就キテ知ルヘシ  
 接種後一日第二日ノ間ハ他ノ刺傷ニ異ナルコト無シ施術後針痕ノ周圍ニ淡紅色ノ小暈ヲ發スレトモ暫時ニ消失ス(或ハ此暈ヲ見サルコトアリ)  
 第三日ニハ針痕ノ部ニ小ナル紅點ヲ生シ試ニ指頭ヲ以テ之ニ觸ルレハ稍々隆起セルヲ覺ユ(經過緩慢ナル者ハ第四日第五日ニ至リ始テ此紅點ヲ生スルコト有リ)  
 第四日ニハ紅色ニシテ硬ク且ツ隆起セル圓形若クハ楕圓形ノ小結節ヲ生ス  
 第五日ニハ結節細小ノ水泡ト爲リ其周圍ニ狭キ紅暈ヲ見ル  
 第六日ニハ水泡稍々増大シ其邊緣隆起シテ疱ノ中央ニハ陷凹ヲ呈シ疱中ニハ稀薄透明ニシテ稍々帶藍色ナル液ヲ充實シ周圍ノ紅暈稍々増大ス  
 第七日ニハ諸症益増進ス  
 第八日ニハ痘疱全ク成形ス其大サハ豆大ニシテ周圍ハ痂腫シ微シク疼痛アリ疱中ノ液ハ倍々充實シ紅暈亦著シク増大ス此期ニ當リ(或ハ此期以前)微熱ヲ發シ或ハ全ク熱候ナク顔面ハ蒼白色ヲ呈スルコトアリ又腋下ニ疼痛ヲ覺ユ水脈腺腫起スルコト有リ  
 第九日ニハ紅暈更ニ増大シ其色澤モ亦加ル  
 第十日ニハ疱液化膿シテ白濁或ハ黃色ノ膿稠液ト爲リ疱ノ稍々凹隆ス然レトモ其形必ス扁圓ナリ

第十二日ニ至ルマテ痘疱其形狀ヲ變スルコト無ク此日ヨリ收斂ヲ始メ痘ノ中央ヨリ邊線ニ向ヘテ次第ニ乾固シ漸ク褐色ニ變シ周圍ノ紅暈モ亦概ク消退ス  
爾後黯褐色又ハ黑色ニシテ堅實ナル厚痂ヲ結ヒ初ハ皮膚ニ緊著シテ容易ニ剝離セス結痂後八日乃至十日ニ至リ始メテ剝脫ス其剝脫ノ後ニ遺セル癩痕ハ圓形又ハ楕圓形ニシテ淺キ凹窩ヲ爲シ其窩内ニハ更ニ數多ノ少凹點ヲ呈ス  
但一回種痘セシモノニ再三種シテ感染スルコトアルモ其痘痂小ニシテ七八日間ニ全ク經過スルヲ常トス

第十三條 種痘不善感ノ諸徴ハ左ノ如シ

- 一 接種後第二日以内ニ成形ヲ始メ常形ニ達セスシテ直ニ廣ク蔓延セル炎症ヲ發シ皮下ニ硬キヲ絶ヘスシテ紅腫ハ不整形ナリ痘疱ハ速ニ化膿シ其隆起ノ狀或ハ半球形或ハ圓錐形ト爲リ乾固スレハ黃色ニシテ鬆疎ナル痂皮ヲ結フ(時トシテ第二日後ニ成形ヲ始ムル者アレトモ其經過總テ不整形ナルヲ以テ自ラ不善感ノ者ト區別スルヲ得ヘシ又不善感ノ者ト雖モ腋下ニ疼痛ヲ覺エ微熱ヲ發スルヲ無キニ非ス)
- 二 接種後第一日ニ大ナル赤色ノ痘ヲ生シ速ニ漿液ヲ充實シ上皮破レテ膿面ヲ呈シ或ハ濕潤セル淡色ノ痂皮ト爲ルヲ見ル
- 三 紅腫速ニ増大シテ腫起シ或ハ遂ニ潰瘍ニ陥ル
- 四 第八日ニ至リ數痘相合シテ一大潰瘍ト爲リ或ハ一面ノ痂皮ヲ結ヒ其潰瘍ハ痂皮ノ周圍ニハ廣ク赤色ヲ呈ス
- 五 痂皮剝脫ノ後ニ遺セル癩痕ハ深クシテ整形ヲ呈シ其底面平滑ナリ

第五 種痘ノ注意

- 第十四條 初種ノ不善感ハ痘苗ノ不良ナルカ或ハ其人一時ノ不感性ヲ有セルニ因ル者ナルカ故更ニ三四週ノ後善長ナル痘苗ヲ撰ヒテ再ヒ接種スヘシ
  - 第十五條 種痘ヲ施スニ當リテハ併病症ヲ防キ殊ニ天然痘流行ノ際ニハ接種後第八日ニ至ルマテハ嚴ニ其感染ヲ防禦スヘシ然レトモ受痘者已ニ暗ニ天然痘ニ感染シ其潛伏期ニ於テ接種スルコト間々之アリ
  - 第十六條 天然痘流行シ種痘ヲ猶豫ス可カラサル際ニハ第一條各項ニ掲グル者ト雖トモ熱性病ヲ除クノ外ハ總テ接種スヘシ
  - 第十七條 種痘中ハ寒冷ヲ避ケシメ成ルヘク清潔ノ空氣中ニ居ラシムヘシ平常慣習セル物等ハ總テ禁忌スルニ及ハス又別ニ醫藥ヲ要セス
  - 乾第八十號 明治十八年五月六日
- 麻疹病之義ハ春來東京橫濱地方ニ流行シ遂々蔓延ノ勢ニ候所既ニ本縣内ニ於テ該病症ニ罹ルモノ有之ニ付豫防及注意法別紙ノ通頒示ス此旨告示候事
- 麻疹病豫防及注意法
- 麻疹ハ其毒勢素ト苛酷ナル者ニ非スト雖トモ往々恐ル可キ症ヲ誘起シ不治症ニ陥リ又ハ死ニ歸セシムルコト屢々是レアリ專ラ攝生ノ如何ニ關係ス故ニ其流行ニ際シテハ攝生ニ怠ル可ラス元來麻疹ニ前後シテ流行スル疾患アリテ麻疹ヲ變惡セシムルコトアリ例之ハ百日咳感冒氣管支加答兒格魯布質扶的里亞腦充血下痢等ノ如キ即チ之レナリ然シテ右等ノ合併症アルトキハ其危險言ヲ待タサルナリ

此故ニ麻疹流行ニ際シ前記ノ疾患アルトキハ麻疹患者ニ近接セシメ速ニ適切ノ處置ヲ施シ治療セシメ又々麻疹ニ感染セルトキハ適應ノ方ヲ施シ前述ノ傍發症ヲ豫防シ良好ノ經過ヲ取ラシム可シ即チ醫治ヲ請ルニ怠ルコト勿レ

總シテ麻疹流行ノ際ハ專ラ攝生ヲ感冒ノ如キヲ豫防シ食物ハ消化シ易キ良好ノ滋養物ヲ給シ勤テ健全無缺ニ保マシメサル可ラス

麻疹感染中ハ勿論落屑后ト雖モ尙ホ注意ヲ怠ル可ラス如何トナレハ肺炎肋膜炎肺勞耳漏眼炎等ノ如キ峻惡症ヲ誘起スルコト往々之レアレハナリ故ニ少クモ病后一ヶ月間ハ特ニ温暖ニ保護シ猥ニ外出スル等ノコトナク深ク攝生ニ注意シ暴食ノ如キヲ戒ム可シ

以上記載ノ如クナルニヨリ麻疹流行ノ節未患者ニ於テハ自身ハ勿論小兒ナレハ其父兄又ハ小學校教員ノ如キハ前條ヲ服膺シ注意ヲ忽ニス可ラス必ス細大トナク病アレハ速ニ療治ヲ求メントト要ス

○乾第十五號

明治十九年一月二十五日

種痘術ヲ行ハントスル醫師ニ於テ痘苗拂下ヲ得ントスル者ハ毎年一月十五日ヲ限リ郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出ヘシ此旨告示候事

但本年春期ニ限リ二月十五日迄ニ願出苦カラス

○乙第十號

明治十六年二月二日

今般甲第七號ヲ以テ墓地火葬場取締規則第壹條更正候ニ付テハ將來墓地差支之儀モ候ハバ衛生上障害ナキ土地ヲ撰ミ圖面ヲ添ヘ願出候様可取計此旨相達候事

郡役所 町村役場 衛生委員

但敷町村一部落ヲ爲シタル地ハ可成聯合願出サスヘシ

○乙第九十五號

明治十七年七月十二日

傳染病ニ罹リタルモノ身元赤貧ナルトキハ藥價其他ノ費用補助之義ニ付昨十六年三月乙第二十六號ヲ以テ相達候所右赤貧者トハ左ノ三項ニ該當スルモノヲ指定候儀ニ付本人ヨリ出願之節ハ戸長ニ於テ其身元ヲ取調添申スヘシ此旨相達候事

但傳染病流行其勢猛烈ナルトキハ左ノ三項ヲ適宜斟酌スル儀モ有之候條其場合ニ於テハ戸長ニ於テ該景況ヲ詳細取調添申スヘシ

一 戸數割及町村費ノ賦課ヲ免除シタル者并其家族  
 一 恤救規則ニ據リ救育米ノ給與ヲ仰ク者并其家族  
 一 一己ノ勞力工作ヲ以テ僅々日計ヲ營ム者

○乙第七十八號

明治十八年六月廿六日

在監人傳染病ニ罹リ治療中出監ノ際監獄本支署ヨリ其住所ノ戸長ヘ通知シタルトキハ總テ本年甲第二十三號布達傳染病患者申報手續ニ依リ取計フヘシ此旨相達候事

○丙第五十九號

明治十九年六月廿二日

市街掃除規則施行手續左ノ通相定ム

郡役所 戸長役場

市街掃除規則施行手續

第一條 郡長及ヒ戸長ハ部内人民ニ衛生上清潔法ノ必要ナルヲ解示シ定期掃除ハ將來其慣習ヲラシムルヲ要ス



第二條 住居セサル建物アル地及明キ地ノ所有者部外ニ在ルトキハ戸長ニ於テ豫メ其部内ニ掃除負擔代理人ヲ設ケシムヘシ

第三條 町村費ヲ以テ架設シタル橋梁及共同便所ハ戸長ニ於テ豫メ掃除受負人ヲ定メ所管郡役所及警察本署ヘ申報スヘシ

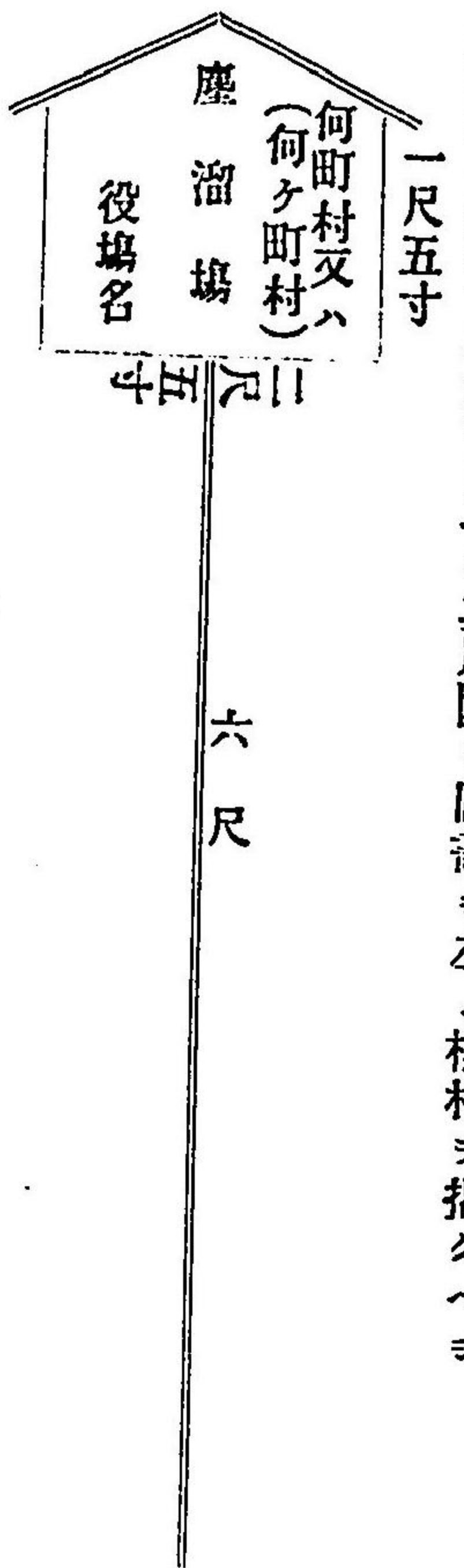
第四條 共同下水及水溜ノ定期掃除ヲナストキハ郡長又ハ戸長ヨリ二日以前ニ所管警察署又ハ分署ヘ通報スヘシ

第五條 戸長ハ一町村若クハ數町村組合ニテ一定ノ塵溜場ヲ設置シ其場所及坪數等所管郡役所及警察本分署ヘ申報スヘシ

第六條 但塵溜場ハ人家稠密ナラサル場所ニ設ケヘシ

第七條 塵溜場ニ塵芥堆積シタルトキハ隨時燒燬セシムヘシ

第八條 定期掃除ハ戸長ニ於テ戸毎ニ之ヲ檢査シ其狀況ヲ具シ所管郡役所ヘ申報スヘシ



但共同下水及水溜ノ掃除ハ郡長之ヲ檢査シ本文ニ準シ縣廳ヘ開申スヘシ

第九條 郡長ハ隨時戸長ノ檢査ニ立會掃除ノ普及スルヤ否ヤヲ監査スヘシ

第十條 傳染病流行等ノ兆アルニ際シ臨時本則ノ施行ヲ必要ト認ムルトキハ郡長又ハ戸長ヨリ縣廳ヘ具申スルコトヲ得

第十一條 郡村吏本則ニ違背シタルモノヲ認メタルト租キハ所管警察署又ハ分署ヘ告發スヘシ

○郡第七十六號 明治二十一年三月十五日 郡役所 戸長役場

傳染病ニ罹リタル者赤貧ニシテ藥價其他ノ費用補助ノ儀ニ付明治十七年乙第九十五號ヲ以テ補助ヲ得ヘキ赤貧者調査ノ程度違背候處右ハ其親戚縁者ハ勿論隣保若クハ衛生組合ノ情誼ヲ以テ相互救濟ノ道アルカ又ハ家族ノ病ニ罹ルモ自己ノ勞力工作等ヲナシ其費用ノ全部若クハ幾分ヲ辨償シ得ルモノハ只管官ノ補助ノミヲ請願スルカ如キ弊習無之樣精々取調ノ上願書進達方取計フヘシ

右訓令ス

○郡第七十七號 明治二十一年三月十五日 郡役所

明治十九年甲第十八號ヲ以テ種痘細則布達候ニ付テハ同則第一號書式ノ如ク種痘原簿ヲ整備致シ候ハ勿論ニ之アリ候所中ニハ未ダ製簿ヲ爲サ、ルアリ或ハ之ヲ製置シアルモ其時時加除ヲ怠ルカ故ニ甚ク錯雜ニ涉リ殆ント効用ナキモノ、如シ右ハ畢竟種痘普及上必用ノ簿冊ナルノミナラス毎歲天然痘流行ノ憂害アルニモ拘ハラヌ如此不整備ニ屬シ候テ

ハ不都合ニ候條規則ノ通り此際速カニ調整セシメ其郡役所ニ於テ點檢候様取計フヘシ  
但點檢濟ノ上ハ其旨届出ツヘシ  
右訓令ス

○警甲第三百三十九號 明治十九年三月十五日

驅微院設置ナキ貸座敷免許地ニ檢微醫ヲ置キ其職務條項及給與法左之通相定ム  
右相達ス

一 檢微醫ハ所管警察署長ノ監督ニ屬シ娼妓ノ微毒檢査ヲ執行ス

一 檢微醫ハ微毒ニカ、リタル娼妓ノ治療ヲ主管ス

一 檢微醫ハ事宜ニ依リ所屬署長ノ命ヲ受ケ治療ニカ、ル娼妓取締ノ責ニ任スルコトアルヘシ

一 檢微醫ハ歷年半期(六月)毎ニ株毒患者半年報ヲ製シ翌月五日限り所屬署長ヘ差出スヘシ

一 檢微醫ハ二圓ヨリ少カラス八圓ヨリ多カラサル月俸ヲ給ス

一 檢微醫ノ月俸ハ檢微費ヨリ支出ス

○警甲第四百十號 明治十九年三月十五日 警察本署  
警察署(秋田警察署ヲ除ク)所在地ニ警察醫ヲ置キ其事務條項及給與法左ノ通相定ム  
右相達ス

一 警察醫ハ所管警察署長ノ監督ニ屬シ其命ヲ受ケ左ノ事項ヲ擔當スルモノトス

一 行政司法警察ニ關スル診斷ノ事

一 巡查志願人ノ体格ヲ檢査スル事

一 巡查ノ疾病ヲ檢按シ其診按書ヲ作ル事

一 警察醫ハ所屬署長ノ命アルトキハ其務ニ服シ其他ハ自己ノ業ヲ營ムコトヲ得

一 警察醫ハ年手當ヲ支給ス但毎月末ニ於テ月割ヲ以テ下付ス

一 警察醫ハ其務ニ服スト雖トモ日當ヲ給セス含密解剖ヲ行ヒタルトキハ其實費ヲ給ス

一 警察醫三里以外ノ地ニ出張シタルトキハ左ノ旅費及ヒ止宿料ヲ給ス  
但三里未滿ト雖トモ宿泊シタルトキハ止宿料ヲ給ス

旅費 一里金八錢

止宿料 一泊金貳拾五錢

第四類

第四 營業警察

○甲第二十三號 明治十五年二月十三日

牛乳營業取締規則左之通相定候條此旨布達候事

但是迄願出許可ノモノト雖モ此規則ニ依リ更ニ可願候事

牛乳營業規則

第一條 乳牛ヲ畜養シ乳汁搾取營業セント欲スルモノハ衛生上障害ナキ地ヲ撰ミ第一號書式ノ願書ニ家養場ノ圖面ヲ添ヘ郡役所ヲ經テ本廳ニ願出ツヘシ

秋田

第二條 乳牛ハ人家稠密ノ場所ニ養テ許サス尤モ放畜場ヲ付屬セス五頭以下ノ乳牛ヲ養テスルモノハ實地檢査ノ上之ヲ許スコトアルヘシ

第三條 許可ヲ得タル養場ハ所管警察署又ハ分署ヘ届出且門戸ニ左式ノ標札ヲ掲表ス

堅三尺  
免  
乳牛養場  
何郡何町村番地  
誰

第四條 養場ハ日々掃除シ常ニ清潔ナラシムルヲ要ス

第五條 乳牛ヲ名トシ牧畜ニ類似ノ所業ヲナスヘカラス

第六條 乳牛頭數ノ増減アルトキハ其時々都役所ヲ經テ本廳ニ届出ツヘシ

第七條 牛乳ハ八身健康ヲ助クル里要ノ飲料タルハ他ノ品種ヲ混和スヘカラサルハ勿論塵埃散入セサル様注意スヘシ

第八條 牛乳ハ新鮮純良ノモノニアラサレハ之ヲ販賣スルヲ許サス

第九條 乳汁容器及漏斗柄酌等ハ銅或ハ亞鉛製ノ如キ凡テ有毒性ノモノヲ用ルヲ禁ス

第十條 前條使用ノ器具ハ毎回必ス細砂灰汁等ヲ以テ精々之ヲ洗淨スヘシ

第十一條 傳染病者アル家ニ乳汁ヲ配達スルトキハ容器ハ總テ該家ニ留置クヘカラス

第十二條 乳牛若シ病ニ罹ル時ハ速カニ健牛ト引分テ乳汁搾取スルヲ禁ス

但獸醫ニ於テ全癒ヲ表シ乳汁ノ無害ヲ證明スル場合ニ於テハ此限ニアラス

第十三條 牛疫流行ノ際ニ方リテハ其病勢ノ景況ニ依リ一切乳汁販賣ヲ禁止スルコトアルヘシ

第十四條 牛乳并ニ養地等ハ時々掛員ヲシテ檢査セシムルコトアルヘシ

第十五條 牛乳ヲ受賣セント欲シ搾取營業者ト結約シタルモノハ第二號書式ニ據リ郡役所ヲ經テ本廳ニ届出ツヘシ

第十六條 牛乳營業者及請賣者ハ店頭又ハ門戸ニ左式ノ看板ヲ掲クヘシ

堅三尺  
免  
牛乳賣捌所  
何ノ誰

法寸  
上同  
免  
牛乳請賣所  
何ノ誰

第十七條 牛乳營業者ニ於テ自ラ配達シ若クハ他人ヲシテ配達セシムルモ總テ乳汁容器

ハ左式ノ木札ヲ付スヘシ

免  
牛乳配達證  
何ノ誰搾取

裏面  
何郡何町村番地  
營業人  
何ノ誰  
又ハ  
何郡何町村番地  
配達人  
何ノ誰

堅三寸五分

第十八條 牛乳營業者廢業又ハ轉居スル時ハ郡役所ヲ經テ本廳ニ届出ツヘシ  
第一號書式 牛乳搾取營業願  
何郡町村番地

宅 地官有地第何種又ハ地主何ノ誰  
何々 何坪

乳牛養場

右地所ニ於テ乳牛幾頭ヲ養シ乳汁搾取營業仕度奉存候間御免許被成下度別紙養場  
圖面相添此段奉願候也

年 月 日

何郡町村番地又ハ寄留

願人 何 ノ 誰 印

衛生委員

何 ノ 誰 印

戸長

何 ノ 誰 印

長 官 宛

第二號書式 牛乳請賣届

私儀何郡町村番地何誰搾取ノ牛乳受賣營業可致示談相整候ニ付御規則ヲ遵守シ販賣致  
候條搾取營業人連署ヲ以テ此段御届申上候也

何郡町村番地又ハ寄留

同居

年 月 日

牛乳受賣人 何 ノ 誰 印

何郡町村番地又ハ寄留

同居 何 ノ 誰 印

長 官 宛

前書之通り相達無之依テ奥印仕候也

何町村戸長

何 ノ 誰 印

○甲第二百二十二號

明治十五年八月廿一日

料理屋飲食店營業取締規則別紙之通り相定メ來ル九月一日ヨリ施行候條此旨布達候事  
但從來營業致シ來ルモノト雖トモ該規則第一條ノ趣旨ニ從ヒ速ニ所管警察署又ハ分  
署へ届出ツヘシ

料理屋飲食店取締規則

第一條 料理屋飲食店營業ヲ爲サント欲スル者ハ本年二月本縣甲第三十號布達ノ手續ヲ經  
別紙雛形ニ據リ開業前所管警察署又ハ分署へ届出ツヘシ

但開業當日ヨリ必ス各營業看板ヲ店頭ニ掲出スヘシ尙其廢業又ハ移住若クハ家族雇  
人出入等ノ都度本條ノ手續ヲ經テ速ニ届出ツヘシ

第二條 來客ノ需ニ應シ酌女ヲ出シ又ハ藝妓ヲ招寄スト雖トモ來客ハ勿論都テ宿泊セシ  
ムルヲ許サス

第三條 客ノ需ニ應シ歌舞音曲等ナスハ午後六時ヨリ午後十二時ヲ過クヘカラス

第四條 來客ノ中不良ノ徒ト認ムルカ又ハ金錢遺ヒ方不審ノ廉有之節ハ不取遺様注意致シ置キ速ニ最寄警察署又ハ分署若クハ巡行巡查ニ密告スヘシ

第五條 來客人若シ飲食代價ヲ所持セサルト雖モ衣類物品等強テ差押フヘカラス尤モ相對示談ヲ以テスハ此限ニアラス

但衣服等ヲ受取リタルトキハ其旨最寄警察署或ハ分署ヘ届出ツヘシ

第六條 料理屋及ヒ飲食店ニ於テ猥褻ノ所業アリト見認ムルトキハ何時ニテモ警察官吏ニ於テ直チニ臨檢スルコトアルヘシ

第七條 此規則ニ違犯スルモノハ違警罪ヲ以テ處斷セラレ又ハ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ停止スルコトアルヘシ

雜形  
料理屋(或ハ飲食店)營業御届

今般料理屋(或ハ飲食店) 鮎屋 鮮屋 蕎麥屋 餅屋 營業何月何日ヨリ開業仕候間家  
族及ヒ雇人取調書和添此段御届申上候也 温飩屋 煮賣屋 煮賣屋 餅屋 營業何月何日ヨリ開業仕候間家  
年 月 日

何警察署又ハ何分署  
御中  
何郡何町何番地身分  
何ノ 某印

前書届出ノ通相違無之依ヲ與印仕候也

右町戸長	何ノ	某印
家族及雇人取調書	何ノ	某印
母若クハ妻或ハ長男長女又ハ何々	何ノ	某年 某年 某年
同	何ノ	某年 某年 某年
何縣何郡何町何番地 士族 平民	雇人何人 男何人 女何人	何ノ
何ノ誰何女或ハ何男又ハ何々	何ノ	某年 某年 某年
同	何ノ	同

○第八十二號 明治十六年十一月廿一日  
藝妓營業取締規則別紙之通り改定候條此旨布達候事  
藝妓營業取締規則  
第一條 藝妓營業ヲ爲サントスル者ハ本籍寄留ヲ論セヌ一戸主ノ身元引受人ヲ立テ戸長

第四條 來客ノ中不良ノ徒ト認ムルカ又ハ金錢遣ヒ方不審ノ廉有之節ハ不取違樣注意致

シ置キ速ニ最寄警察署又ハ分署若クハ巡行巡查ニ密告スヘシ

第五條 來客人若シ飲食代價ヲ所持セサルト雖モ衣類物品等強テ差押フヘカラス尤モ相

對示談ヲ以テスハ此限ニアラス

但衣服等ヲ受取リタルトキハ其旨最寄警察署或ハ分署ヘ届出ツヘシ

第六條 料理屋及ヒ飲食店ニ於テ猥褻ノ所業アリト見認ムルトキハ何時ニテモ警察官吏

ニ於テ直チニ臨檢スルコトアルヘシ

第七條 此規則ニ違犯スルモノハ違警罪ヲ以テ處斷セラレ又ハ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ停

止スルコトアルヘシ

雛形

料理屋(或ハ飲食店)營業御届

今般料理屋(或ハ飲食店) 鯛屋 鮓屋 餅屋 (營業何月何日ヨリ開業仕候間家

族及ヒ雇人取調書相添此段御届申上候也 煮賣屋 煎賣屋 餅屋) 何郡何村何番地身分

年 月 日 何 某 印

何警察署又ハ何分署 御中

何郡何村何番地身分 何 某 印

何警察署又ハ何分署 御中

何郡何村何番地身分 何 某 印

前書届出ノ通相違無之依テ與印仕候也

右町戸長

家族及雇人取調書

何 某 印

母若クハ妻或ハ長

家族何人 男何人 女何人

男長女又ハ何々

何 某 年 齡

同

何 某 年 齡

雇人何人 男何人 女何人

何縣何郡何村何番地 士族 平民

何 某 年 齡

何ノ誰何女或ハ何男又ハ何々

何 某 年 齡

同

何 某 年 齡

○第八十二號 明治十六年十一月廿一日

藝妓營業取締規則別紙之通り改定候條此旨布達候事

藝妓營業取締規則

第一條 藝妓營業ヲ爲サントスル者ハ本籍寄留ヲ論セヌ一戸主ノ身元引受人ヲ立テ戸長

十八年甲第  
八十七號改  
正

ノ奥印ヲ受ケ且ツ之ニ等級ヲ付シ所管郡役所へ願出テ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條 廢業スルトキハ戶長ノ奥印ヲ受ケ所管郡役所ニ届出鑑札ヲ返納スヘシ  
鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ轉居改名シタルトキハ其事由ヲ具シ書換ヲ請フヘシ

第三條 藝妓ハ貸坐敷免許地ニ住居シ又ハ寄留スルコトヲ得ス  
但藝妓娼妓ヲ兼業シ二様ノ鑑札ヲ受クル者ハ此限ニ非ス尤營業ニ關スル諸願届ハ家  
主或ハ寄留主ノ連署ヲ受クヘシ

第四條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第五條 營業時限ハ日出ヨリ午後十二時ヲ限ルヘシ旅行ノ外一切他ニ宿泊スヘカラス

第六條 營業時限ヲ過キ客ノ座敷又ハ旅宿ニ緩留スルコトヲ得ス

第七條 疾病治療其他ノ事故アリテ一泊以上ノ旅行ヲ爲サントスル者ハ所管警察署又ハ  
分署へ届出ツシ

第八條 遊客中不良ノ徒ト認ムル歟又ハ金錢遣方不審ノ者アルトキハ速カニ寄留主ニ申  
告スヘシ

第九條 本則第一條ヨリ第七條ニ各條ニ違背シタル者ハ一日以上五日以下ノ拘留ニ處  
シ又ハ二拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

○甲第一號 明治十七年一月廿五日

古物商取締條例施行規則之通相定候條此旨布達候事

古物商取締條例施行規則

第一條 此規則ハ古物商取締條例施行ノ方法ヲ規定スルモノトス

廿一年秋田  
縣令第二十  
七號改正

十八年甲第  
六十四號改  
正

第二條 營業ヲ爲サントスル者ハ附錄第一號書式ニ依リ組合取締連署ノ上處管警察署へ  
出願免許鑑札ヲ受クヘシ

支店ヲ開設セントスル者ハ代理人ヲ定メ開業三日前處管警察署へ届出ツヘシ

第三條 廢業スル者ハ前條ノ手續ニ從ヒ處管警察署へ届出鑑札ヲ返納スヘシ  
鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ移住改名及代換ノトキハ其事由ヲ具シ書換ヲ請フヘシ

第四條 營業者ハ本支店ヲ分ヌス附錄第二號雛形ニ依リ看板ヲ製シ處管警察署ノ記號檢  
印ヲ受ケ店頭へ掲示スヘシ

第五條 營業者ハ同業協議ノ上便宜組合ヲ設ケ同業取締人一名又ハ二名ヲ撰定シ所管警  
察署又ハ分署へ届出ツヘシ其改撰シタルトキ亦同シ

同業者少數ナルトキハ各種營業者組合ヲナスモ妨ナシ

第六條 取締人ハ警察署又ハ分署ヨリ駐物ノ品觸若クハ達示等アルトキハ速ニ組合中ニ  
回達シ認印セシムヘシ

第七條 前條ノ回達書ハ一ケ年間保存スヘキモノトス

第八條 營業者ハ左ニ掲クル帳簿ヲ製シ品觸帳ノ外ハ所管警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受ケ  
附錄第三號第四號第五號ノ書式ニ依リ物品及讓主預リ主并証人ノ住所氏名等ヲ記載ス  
ヘシ

第一 物品買入讓受帳  
第二 物品賣渡帳  
第三 物品預リ帳

全  
上

全  
上

第四類 第四 營業警察

第四 品觸帳

第九條 條例第四條ニ依リ警察署若クハ巡査ノ認可ヲ受ケントスルトキハ賣主讓主ノ住所職業氏名及ヒ其物品ヲ記載シタル書面ニ現品ヲ添ヘ所管警察署又ハ分署ヘ願出ツヘシ

條例第六條ニ依リ許可ヲ受クルトキ亦同シ

第十條 條例第五條ニ掲グル印章記號アル物品ヲ買取り又ハ交換シタルトキハ五日以内ニ所管警察署又ハ分署ヘ届出ツヘシ

第十一條 商品ヲ他府縣ニ運送セントスルトキハ三日以前又他府縣ヨリ受取りタルトキハ一日以内ニ附録第六號書式ニ從ヒ處管警察署若クハ分署ヘ届出ツヘシ其特別取締限内運送スル者ハ三日内前ニ於テスヘシ

第十二條 他府縣ヘ運送スル荷物ニハ差出人及請取人ノ住處氏名并其物品ノ類名ヲ標記スヘシ

第十三條 條例第十六條第三項ニ掲グル物品ヲ買取り又ハ交換シタルトキハ三日以内ニ所管警察署又ハ分署ヘ届出ツヘシ

第十四條 床店又ハ露店(刀劍商)ニ於テ物品ヲ販賣シ若クハ行商セントスル者ハ附録第七號雛形ニ依リ其鑑札ヲ自製シ處管警察署又ハ分署ノ記號捺印ヲ受クヘシ

前項ノ鑑札ハ床店又ハ露店ハ之ヲ店頭ニ掲出シ行商者ハ顯ハニ携帯スヘシ

第十五條 總テノ鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十六條 條例第九條第十一條第十二條第十六條ニ所轄警察署トアルハ分署ノ部内ハ該

十八年甲第  
六十四號改

全  
上

第四 營業警察

全  
上

分署ノ管理ナルヘシ

第十七條 此規則ニ違背シタル者ハ古物商取締條例ニ明文アルノ外違警罪ヲ以テ處罰セラルヘシ

第十八條 條例第十九條ニ依リ營業ヲ停止スルハ一ヶ月以上一年以下トス

附録

第一號

何々古物商又ハ何々商營業願

私儀

何々古物商又ハ(何々商)營業又ハ(及何々商兼業)致度尤モ古物商取締條例及本縣施行規則ハ厚ク遵守可仕候條免許鑑札御下付被成下度此段奉願候也

住所身分職業

年 月 日

氏 名 印

取締 氏 名 印

某 警 察 署

御中

右ノ通相違無之依テ與印候也

戸長

何

某 印



第二號 看板雛形 警察署記號檢印	
何第何號 〇 專業 〇 何商營業 住所屋號 又ハ氏名 氏名支店	寸七 兼業 〇 何々 何々 商營業 住所屋號 又ハ氏名 氏名支店
二尺三寸 第三號物品買入帳書式 讓受帳書式 何年月日(特別取締限内ハ) (時刻ヲ記入ス)	同上 何郡何町番地 賣主又ハ讓主 氏 名 (特別取締限内ハ年齢ヲ記入シ捺印 セシムヘシ 証人ヲ要スル場合ハ其住所氏名ヲ 列記シ共ニ捺印セシムヘシ)
何年第何號(番號ハ一ケ年 毎ニ改ムヘシ) 價金何圓也 一何色羽二重紋付男小袖	何枚 何組

但紋何何ケ所 裏何色袖口何 何年第何號 價金何十圓也 一何色縮緬女小袖 但胸裏何何袖口何 何年第何號 價金十圓也 一朱塗何寸重箱 但蓋金箔ニテ何々ノ蒔繪アリ 何年第何號 一何々 〇幾品 第四號物品讓渡帳書式 何年月日(特別取締限内ハ) (時刻ヲ記入ス)	何郡何町番地 買主又受主 氏 名 (買主讓受主ヲ知り得タル片ハ之ヲ記載スヘシ 但特別取締限内ハ年齢モ記載スルモノトス)
---	--

何年何月何日 (買入讓受帳ノ番號)  
 一何色羽二重紋付男小袖  
 何年何月何日ノ内  
 一朱塗何寸重箱  
 幾品  
 第五號 物品預帳書式  
 何年月日  
 何郡何町番地  
 何區何村番地  
 預主 氏 名  
 一何色羽二重紋付小袖 但盗火難保險  
 一何々 但何々  
 幾品  
 右何年月日返付ス (後日返付ノトキ記  
 入スルモノトス)  
 第六號 他府縣下運送  
 受取品届書式  
 記  
 一古着荷物 何個  
 一古道具荷物 何個  
 但何縣下何國何郡何町氏名ヘ送り荷  
 ヨリ着

右荷物何便チ以テ何月何日 (差立) 候間 (特別取締ニ付セラレタルモノ他府縣下ニ物品ヲ  
 此段御届申上候也) (到着) 運送セントスルトキハ其品目明細書ヲ添ユヘシ  
 年 月 日 住處身分  
 何警察署又ハ分署 何商 氏 名 印  
 御中  
 第七號 行商鑑札ノ雛形 木製  
 警察署又ハ分署ノ記號檢印  
 何第何號 □  
 何々 行商免許 行商 鑒七寸  
 住處屋號 氏 名 床店及露店 鑒一尺二寸  
 巾四寸  
 一 厩人又ハ家族ノ携帶スル鑑札ハ營業者ノ氏名ヲ書スヘシ  
 ○甲第十八號 明治十七年四月十四日  
 質屋取締條例施行規則別冊之通リ制定シ來ル五月十五日ヨリ施行候條此旨布達候事  
 質屋取締條例施行規則  
 第一條 此規則ハ質屋取締條例施行ノ方法ヲ規定ス

第四類 第四 營業警察

第二條 質屋營業ヲ爲サントスル者ハ組合取締連署ノ上戸長ノ奥印ヲ受テ所管警察署ヘ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

營業免許ヲ受ケタル者ハ總テ地方稅取締規則ニ從フヘシ

第三條 廢業スル者ハ前條ノ手續ニ依リ所管警察署ヘ届出鑑札ヲ返納スヘシ

第四條 鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ改名代換轉居ノトキハ其事由ヲ具シ書換ヲ請フヘシ

第五條 營業者ハ警察署又ハ分署管内ニ於テ便宜組合ヲ設ケ取締一名或ハ二名ヲ擇定シ所管警察署又ハ分署ヘ届出ツヘシ其改撰シタル時亦同シ

第六條 取締ハ組合名簿ヲ製シ住處氏名ヲ記載シ實印ヲ取置クヘシ

警察署又ハ分署ヨリ賍物ノ品觸若クハ取締ニ關スル達示アルトキハ速ニ組合中ニ回達シ証印セシムヘシ

第七條 營業者ハ附録ノ雛形ニ依リ看板ヲ製シ處管警察署ノ記號檢印ヲ受ケ之ヲ戶外ニ掲示スヘシ但廢業シタルトキハ第三條ノ手續ニ依リ消印ヲ請フヘシ

第八條 質物臺帳及流質物賣拂帳ヲ記載スルニハ文字ヲ改竄ス可カラス之ヲ消除シタルトキハ讀得ヘキ様字体ヲ存シ置キ書損等アリト雖トモ其紙數ヲ拔取ルヘカラス

第九條 寄藏品ト雖トモ質物ト同シク質物臺帳ニ記載スヘシ

第十條 流質物賣拂帳ハ其紙數ヲ記シ處管警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受クヘシ

第十一條 自店外ニ於テ流質物ヲ賣拂フ者ハ附録ノ雛形ニ依リ鑑札ヲ製シ所管警察署又ハ分署ノ記號檢印ヲ受ケ之ヲ携帶スヘシ其臨時出店スル者ハ店頭ニ携示スヘシ但廢業シタルトキハ第三條ノ手續ニ依リ消印ヲ請フヘシ

第十二條 賍物ノ品觸到達シタルトキハ二十四時間内ニ之ヲ賸寫シ速ニ回付スヘシ

第十三條 總テノ鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十四條 此規則ニ違背シタル者ハ質屋取締條例ニ明文アルノ外ハ違警罪ヲ以テ處罰セラルヘシ

第十五條 質屋取締條例ニ依リ營業ヲ停止スルハ一月以上一年以下トス

質屋取締條例施行規則附録

第一號 看板雛形 木製

警察署記號檢印

何第何號口 住處

質屋營業氏名

長二尺三寸

第二號 質物臺帳書式ノ一

何郡何町何番地 區何村何番地

質入主氏 名 印

年 齡

(証人ヲ要セサルトキハ押印及年齡ノ記載ニ及ハス寄藏品ハ寄藏主ト記スヘシ)

証人 氏 名 印

年 齡

(証人ヲ要スル場合ニ限ル)

何年月日

一貨金何拾圓也

(寄藏品ハ金額ヲ記セス  
月日ノ元ニ預ト記スヘシ)

一何色羽二重紋附男小袖

何枚

但裏何々袖口何

一何色縮緬女小袖

何枚

但裏何々袖口何

一金兩側懷中時計

何箇

但器懷中時計

但番號何號附屬品何々

幾品

右年月日悉皆受戻ス

第三號 質屋莖帳書式ノ二

(寄藏品ハ返附ト記ス)

(書式中朱書ハ質入後ノ記入タルヲ示ス  
モノニシテ實際朱書ヲ要スルニアラス)

何年月日

一貨金何拾圓也

一何々

何枚

但何々

第四類 第四 營業警察

一何々

箇但

但何々

●右何年月日入換ニ付受戻ス

一何々

何箇

但何々

●右何年月日入換ニ付受戻ス

何年月日

●幾品 ●内幾品前記受戻ス

一何々

何枚

但何々

一何々

何箇

但何々

右入換

現在幾品

第四號

流質物質拂届書式

記

一何色羽二重紋付男小袖

何枚

一金兩側懷中時計

何箇

以上何某ヨリ流質

一何々  
一何々  
以上全上

右何年月日ヨリ自宅又ハ何處ニ於テ若クハ何地方ヘ出行賣拂候間此段御届申上候也

年 月 日

住所身分職業

取締 氏 名 印

何警察署又ハ分署 御中

第五號 流質物賣拂鑑札雛形 木製

警察署又ハ分署記號檢印

何第何號 住所

流質物賣拂鑑札 氏 名 出店スルモノハ 堅一尺二寸 巾四寸

年 齡

第六號 流質物賣拂臺帳書式 雇人ノ携帶スル鑑札ハ營業者ノ氏名ヲ肩書スヘシ (自店外ニ於テ賣拂フトキハ施行規則ノ手續ヲ履ミ貳冊以上ヲ調製スルコトヲ得)

長七寸

何年月日

價金何拾圓也

一何色羽二重紋付男小袖 何枚

價金何拾圓也

一金兩側懷中時計 何箇

幾品

○甲第三十六號 明治十七年六月七日

湯屋營業取締規則別冊之通改定候條此旨布達候事

湯屋營業取締規則

第一條 湯屋及藥湯營業ノ許可ヲ受ケタル者ハ開業二日前戸長ノ與印ヲ受ケ處管警察署又ハ分署ヘ届出ツヘシ

業廢又ハ改名代換轉居シタルトキハ亦前項ニ同シ

第二條 火焚處烟出及天井裏ハ堅固ニ之ヲ築造シ毎月一回以上掃除ヲ爲スヘシ

第三條 浴室ハ男女ノ區域ヲ設ケ混浴セシムヘカラス

第四條 浴場ハ外面ヨリ見ヘサル様適宜見隠ヲ設クヘシ

第五條 浴場ハ時々掃除シテ清淨ナラシメ且下水ヲ溜滯セシムヘカラス

第六條 平常ハ午後十二時ヲ限リ入浴ヲ止メ烈風ノ節ハ時間ニ拘ハラヌ停業スヘシ

何郡何町何番地 買主 氏 名

第四類 第四 營業警察

第七條 浴客ノ衣類其他ノ物品紛失或ハ盜難ニ罹リタルキ又ハ浴客中舉動不審ト見認ムルトキハ速ニ管處警察署若クハ分署又ハ巡行巡查ヘ申告スヘシ

紛失及盜難届ハ有所主ト連署スヘシ

第八條 前各條ニ違背シタル者ハ違背罪ヲ以テ所罰セラルヘシ

第九條 警察官吏ハ隨時浴場及火焚所等ニ臨檢スルコトアルヘシ

○甲第六十六號 明治十七年七月廿八日

彫刻師取締規則別紙之通制定候條旨布達候事

彫刻帳取締規則

第一條 印章及銅版木版彫刻ノ營業ヲ爲サントスル者ハ戸長ノ與印ヲ受ケ所管警察署ヘ願出許可ヲ請フヘシ

營業免許ヲ受ケタル者ハ地方稅取締規則第九條第二項ニ準據シ所管郡役所ヘ届出ツヘシ

第二條 轉居改名若クハ廢業スル者ハ前條ノ手續ニ依リ所管警察署又ハ分署ヘ届出ツヘシ

第三條 營業者ハ附録ノ雛形ニ依リ看板ヲ製シ所管警察署ノ記號捺印ヲ受ケ之ヲ戶外ニ掲示スヘシ但廢業シタルトキハ消印ヲ請フヘシ

第四條 營業者ハ帳簿ヲ製置シ印章彫刻ノ依頼者アルトキハ附録ノ書式ニ依リ其住處氏名及事由ヲ詳記シ刻成ノ後交付スルトキハ其年月日ヲ記入シ該印影ヲ捺シ置クヘシ豫メ印章ヲ彫刻シ置キ他人ノ購求ニ應スルトキ亦前項ノ手續ニ從フヘシ

第五條 銅版木版等彫刻ノ依頼者アルトキハ附録ノ書式ニ依リ前條ノ帳簿ニ其住所氏名及種類使用方等ヲ詳記シ刻成ノ後交付スルトキハ其年月日ヲ記入シ見本一葉ヲ取り順次番號ヲ付シテ別冊ニ綴リ置クヘシ但書籍其他廣報等ニ係ル者ハ此限ニ在ラス

第六條 依頼者ノ住所氏名及彫刻ノ事由等不審ト認ムルトキハ速カニ所管警察署又ハ分署若クハ巡行ノ巡查ニ申告スヘシ

第七條 彫刻師ニアラサル商賈ト雖トモ刻成ノ印章ヲ販賣セントスル者ハ第一條前項第二條第四條ニ準據スヘシ

第八條 前各條ニ違背シタル者ハ違背罪ニ依リ處罰セラルヘシ

第九條 警察官及ヒ巡查ハ隨時監臨シ帳簿ヲ檢査スルコトアルヘシ

附録 看板雛形 木製

署名ノ頭字警察署記號檢號

何第何號	口
○ 彫 刻 營 業	
住 所 氏 名	

長二尺三寸

帳簿ノ書式ノ一

明治何年月日依隨

印章 ○ (交付ノ際印影ヲ捺ス)

何府縣何郡區町村番地

身分職業戶主(非戶主)

氏 名

但新刻又ハ遺失若クハ磨滅ニ付再刻(官廳ヨリ依頼アルトキハ其廳名ヲ記載スヘシ) 年 齡

明治何年月日交付ス

何府縣何郡區町村番地

氏

年 齡

明治何年月日依頼

第何號

身分職業

例ハ何々手形又ハ何々切符何百枚

但何々會社又ハ何々用(官廳ノ依頼ハ前例ニ依ル)

氏

年 齡

明治年月日交付見本別冊ニ綴ル

○甲第四號

明治十八年二月十五日

管内火藥類賣買營業者ハ九名以内トシ左ノ町村ニ於テ許可候條此旨布達候事

南秋田郡

秋田

二名以内

北秋田郡

大館

各一名

仙北郡

横手

各一名

平鹿郡

湯澤

各一名

雄勝郡

本庄

各一名

由利郡

能代

各一名

山本郡

花輪

各一名

鹿角郡

明治十八年二月十日

○甲第六號

明治十八年二月十日

二十年縣令  
追加十三號

煙火及「マツチ」ノ製造ヲ爲ス者ハ左ノ項ヲ遵守スヘシ若シ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ處罰セラルヘシ此旨布達候事

第一 煙火及「マツチ」ノ製造人ハ本廳ヘ願出免許證札ヲ受クヘシ

第二 煙火「マツチ」ノ製造所ハ周圍ノ地圖(家屋又ハ火ヲ取扱フ場所ノ距離ヲ明記ス)及構造ノ圖而ヲ添ヘ所管警察署ヘ願出認可ヲ受クヘシ

第三 「マツチ」ノ製造ニハ黃燐ヲ用ユルヲ禁止ス

○甲第六十二號 明治十八年八月十五日

貸金營業者ニシテ動産物ヲ抵當ニ預リ金錢ヲ貸付ケタルトキハ左ノ書式ニ準シ帳簿ヲ製置シ物品ノ種類及預ケ人ノ住所氏名等ヲ詳細登錄スヘシ若シ違背シタルトキハ違警罪ヲ以テ處罰セラルヘシ此旨布達候事

但賍物捜査上必要ト認ムルトキハ警察官又ハ巡查ニ於テ監臨シ預リ物品及帳簿ヲ檢査スルコトアルヘシ

帳簿書式

明治何年月日

第何號

何箇

一預リ品

何箇

一金兩側時計

何箇

第四類 第四 營業警察

七百十三

何府縣何郡區町村何番地

預ケ人 氏

年 齡

但 器械何々 但 番號何々 但 金銀地金 但 秋田小判何々 但 慶長小判何々 一 珊瑚珠玉 但 何分玉古渡又ハ土佐 此 貸金何十圓也 但 明治何年月日限	附屬品何々 何箇 何箇 何箇 何箇 何箇 何箇	住所氏名 前ニ同シ
明治何年月日 第何號 一 預リ品 内 一 何色縮緬女小袖 但 紋何々 但 裏何々 一 博多男帶 但 色何々 但 縞何々 此 貸金何十圓也 但 明治何年月日限 (朱書) 右明治何年月日元利返濟ニ付返付又ハ何裁判所ノ裁許ニ依リ公賣或ハ何々	何箇 何箇 何箇 何箇 何箇 何箇 何箇 何箇 何箇 何箇 何箇 何箇	

○甲第二號

明治十九年一月十四日

婦女ニシテ遊藝ヲナスモノ取締規則別紙之通相定候條此旨布達候事

但來ル三月一日ヨリ施行スヘシ

婦女ニシテ遊藝ヲナスモノ取締規則

第一條 婦女ニシテ遊藝稼又ハ遊藝師匠ヲ爲サントスル者ハ處管郡役所へ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

其廢業スル者ハ處管郡役所へ届出鑑札ヲ返納スヘシ

第二條 鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ轉居改名シタルトキハ其事由ヲ具シ書換ヲ請フヘシ

第三條 免許鑑札ハ他人ニ貸與スヘカラス

第四條 寄留又ハ同居スルモノハ營業上ノ諸願届ニ寄留若シハ家主ノ連署ヲ受クヘシ

第五條 貸座敷免許地内ニ住居シ又ハ寄留スルコトヲ得ス

第六條 宴席ノ招ニ應シ藝妓類似ノ業ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 本則第一條第二條第三條及第五條第六條ニ違背シタル者ハ一日以上五日以下ノ

拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

○秋田縣令第五十七號 明治二十年五月十二日

蠶絲業組合ニ加入セスシテ製造シタル蠶種又ハ生絲若クハ繭等ハ販賣スルヲ許サス犯ス者ハ五拾錢以下ノ科料ニ處ス

○秋田縣令第七十號 明治二十年六月廿一日

街路宿屋營業人力車取締規則別冊之通相定メ來ル七月一日ヨリ施行ス

二十一年  
全第二十六  
號改正



但明治十七年七月甲第六十四號布達市街道取締規則ハ廢止ス  
街道取締規則

第一章 通則

- 第一條 街道ト稱スルハ道敷及道敷ニ沿フタル下水並橋梁トス
- 第二條 本則ハ警察規則ニ於テ市街ト稱スル町村ニ適用スルモノトス
- 第三條 本則ニ於テ自費ヲ以テ爲スヘキ義務ヲ怠ルトキハ官ニ於テ執行シ其費用ヲ徴収スヘシ

第二章 街道ノ安寧及保存

- 第四條 街道ニ建物軒檐(庇係此ヲ)旗柱招牌物干等ヲ設ケ又ハ出スヘカラス
- 第五條 左ノ諸件ニ係ルモノハ街道ニ出スコトヲ得ベキモノトス
  - 一 鈎看板ハ地盤ヲ距ル九尺以上ニ限リ二尺以内
  - 二 軒檐ハ地盤ヲ距ル九尺以上ハ二尺六尺以上ハ一尺五寸以内
  - 三日除ハ支柱ヲ用ヒス地盤ヲ距ル七尺以上ニ限リ三尺以内
  - 四 掲燈ハ地盤ヲ距ル六尺以上ニ限リ一尺以内
- 第五條 十二月ヨリ翌年三月ノ間ニ於テ雪圍又ハ防雪ノ係庇ヲ設クルハ二尺以内
- 第六條 左ノ事項ハ其場ノ圍而テ添ヘ所管警察署ヘ願出允許ヲ受クヘシ
  - 一 街道ニ樹木ヲ植ヘ又ハ街燈若クハ便所ヲ建ツル事
  - 二 街道ニ柵欄支柱ヲ設ケ又ハ齒止石ヲ置クコト
  - 三 街道ニ華表碑表及指道標其他公衆ノ用ニ供スル標識ヲ建設スル事

第四類 第四 營業警察

- 四 街道ニ消防具其他公衆ノ用ニ供スル物件ヲ置クコト
- 五 工事ノ爲メ一時通行ヲ停止スル事
- 六 車馬通行停止ノ榜示アルニ車馬ヲ出入スル事
- 第七條 左ノ事項ハ其場ノ圍面ヲ添ヘ所管警察署又ハ分署ヘ願出允許ヲ受クヘシ
  - 一 街道ニ床店露店淫臺店及蕙賣張ヲ設クルコト
  - 二 街道ニ目塗土置場ヲ設クルコト
  - 三 工事ノ爲メ一時街道ニ竹木土石類ヲ置キ或ハ板圍繩張足代ヲ設ケ其他街道ヲ使用スル事
  - 四 街道ヲ經テ建物ヲ移シ又ハ街道ヲ壅塞スヘキ長大ノ物件ヲ運搬スル事
  - 五 一時街道ニ舞臺(神佛祭典等ノ節)小屋掛(歲市草市等ノ節)及店飾ヲ設クル事
  - 六 街道ニ神輿山車又ハ手踊屋臺ヲ出ス事
  - 七 神佛送迎ノ注メ街道ニ飾物ヲ出シ又ハ奉納物ヲ牛車ニテ運搬スル事
  - 八 第五條五項ノ場合ニ於テ止ヲ得ズ制限ヲ超ユルコト
- 第八條 街道ヲ使用シ之ヲ毀損シタル者ハ直ニ原形ニ復スヘシ
- 第九條 街道ニ沿フタル場所ニ竹木ヲ立置クトキハ強靱ナル繩索ヲ以テ之ヲ縛束シ又ハ蕙賣其他ノ物件ヲ堪積スル者ハ顛仆セサル様堅牢ノ裝置ヲ爲スヘシ
- 第十條 街道ニ沿フタル建設物及樹木等崩壞顛仆ノ虞アルモノハ速ニ修理撤却若クハ扶植伐採スヘシ
- 第十一條 街道ニ竹木土石類ヲ置クトキハ標識ヲ設クヘシ

- 第十二條 運搬中ノ建物若クハ長大ノ物件ヲ夜中街路ニ停メ置クトキハ路傍ニ片寄セ標燈ヲ掲グヘシ
  - 第十三條 街路ノ井戸ニシテ通行ノ妨害ヲ爲スヘキモノト認ムルトキハ地並ニ堅牢ナル蓋ヲ以テ之ヲ覆ハシムヘシ
  - 第十四條 道路橋溝渠下水ヲ毀損壅塞シ街路ノ樹木ヲ伐採シ又ハ街燈ヲ破毀消滅スヘカテス
  - 第十五條 制札指道標便所及牆壁等ヲ毀棄汚損シ又ハ樂書貼紙ヲ爲スヘカラス
  - 第十六條 街路ニ商品薪炭荷車其他ノ物件ヲ排列シ行人ノ妨害ヲ爲スヘカラス
  - 第十七條 街路ニ於テ荷造木挽其他ノ作業ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス
  - 第十八條 街路ニ於テ火器ヲ弄シ又ハ焚火ヲ爲スヘカラス
  - 第十九條 行商ニ用フル荷車ハ長サ八尺巾三尺屋臺店ハ長サ六尺巾三尺ヲ超過スヘカラス
- 第三章 街路ノ清潔
- 第二十條 街路ハ常ニ掃除ヲ爲シ塵芥雜物ヲ存スヘカラス  
但掃除ノ負擔ハ市街掃除規則ニ據ル
  - 第二十一條 街路ニ汚水ヲ洒注シ又ハ不潔物ヲ投棄スヘカラス
  - 第二十二條 下水ハ浚渫シテ疏通ナラシメ其浚ヒ揚ケタル淤泥塵芥等ハ街路ニ布キ又ハ路傍ニ留置クヘカラス但浚渫ノ度數及負擔ハ市街掃除規則ニ據ル
  - 第二十三條 街路ニ於テ便所ニアラサル場所ニ大小便ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス

- 第二十四條 街路ニ於テ敷物疊毀類其他ノ塵埃ヲ掃フヘカラス
  - 第二十五條 街路ヲ運搬スル下潔物ハ漏泄飛撒セシムヘカラス但臭氣アル物品ハ蓋ヲ以テ密閉スヘシ
- 第四章 街路ノ通行
- 第二十六條 牛馬及諸車ハ夜中燈火ナクシテ疾驅スヘカラス
  - 第二十七條 馬車及牛車ハ幅員三間以内ノ街路ヲ通行スヘカラス但其街路ニ沿フタル家屋ニ出入スル者ハ此限ニアラス
  - 第二十八條 車ハ小兒車ヲ除クノ外其種類ノ如何ヲ問ハス跡押ノミニテ運轉スヘカラス
  - 第二十九條 末口ノ尖リタル竹木等ヲ運搬スルトキハ其末口ヲ纏束スヘシ
  - 第三十條 牛馬諸車ヲ並ヘ挽キ又ハ濫リニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス
  - 第三十一條 車二輛以上ヲ連繫シテ輓クヘカラス但長大ノ物件ヲ運搬スル爲メ數車ヲ連結スルハ此限ニアラス
  - 第三十二條 牛馬三頭以上連繫シテ率クヘカラス但賣買等ノ爲メ輸送スル牛馬ハ此限ニアラス
  - 第三十三條 車馬行連フトキハ五ニ左ニ避ケ軍隊并砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ
  - 第三十四條 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ
  - 第三十五條 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲ爲シ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ
  - 第三十六條 郵便用消防用ニ供スルトキ車馬及灌水車又ハ葬送等ニ行送フトキハ避讓ス

第三十七條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上通行スル馬車ハ徐行スヘシ  
 第三十八條 車馬街角ヲ通行スルトキハ右ハ大廻ハリヲ爲シ左ハ小廻リヲ爲スヘシ  
 第三十九條 牛馬諸車其他ノ物件ヲ街路ニ横へ通行ヲ妨グヘカラス  
 第四十條 制止ヲ背ンセスシテ出火場其他雜沓ノ場所ニ牛馬諸車ヲ牽入ルヘカラス  
 第四十一條 街角橋上其他雜沓ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ牛馬諸車ヲ駐止スヘカラス  
 第四十二條 街路ニ佇立シ又ハ空車ヲ輓テ彷徨シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第五章 罰則

第四十三條 本則第四條第六條第七條第十四條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ所ス但刑法ニ正條アル者ハ刑法ニ從フ

第四十四條 本則第九條第十條第十一條ニ違背シ官署ノ督促ニ從ハサルモノハ第十二條ニ違背シ命令ニ從ハサルモノ第二十八條ニ違背シ制止ヲ背セサルモノ第十五條第二十一條第三十二條ニ違背シタルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス但刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ從フ

宿屋取締規則

第一章 通則

第一條 宿屋ヲ分テテ旅人宿下宿屋木賃宿ノ三種トス  
 第二條 宿屋營業ヲナサントスルモノハ其種類ヲ記シ營業用ニ供スル建物坪數間取ヲ記

シタル明細圖面及雇人ノ氏名年齢ヲ記シタル調書ヲ添へ所管警察署へ願出允許ヲ請フヘシ但シ間取坪數雇人等ニ増減變更アルトキハ更ニ届出認可ヲ受クヘシ  
 第三條 營業上ニ關スル願届ハ總テ取締人ノ加印ヲ受クヘシ  
 第四條 左ノ項ニ觸ル、者ハ允許ヲ與ヘス  
 一 未丁年者ニシテ後見人ナキ者  
 二 白痴瘋癲者  
 三 強盜及詐偽取財ノ罪ヲ犯シタルモノ又ハ其他ノ罪ヲ犯シ監視中ノ者  
 四 風俗ヲ紊ルヘキ所爲アリト認メタル者

第五條 改氏名又ハ廢業シタルトキハ其旨所管警察署又ハ分署へ届出テ看板ノ消印ヲ請フヘシ  
 第六條 宿屋營業者ハ左ノ式ニ從ヒ看板ヲ製シ所管警察署ノ記號檢印ヲ受ケ店頭ニ掲グヘシ但シ旅人宿ハ夜中標燈ヲ以テ之ニ代フヘシ

記號檢印

何第何號

旅人宿(下宿屋)(木賃宿)營業  
 住所屋號  
 氏名

第七條 宿泊人ノ所有品ハ特ニ其寄托ヲ受ケサルモ紛失セサル様注意スヘシ



警察署又ハ分署へ届出ツヘシ

第四章 木賃宿

第二十八條 木賃宿トハ單ニ座敷及薪炭ヲ供給シ旅人ヲ止宿セシムルモノヲ云フ

第二十九條 宿泊人滞在中外泊シタル者アルトキハ其旨ヲ帳簿ニ記シ置クヘシ

第三十條 宿泊人届出方ハ第二十條ノ例ニ從フヘシ

第五章 營業組合

第三十一條 宿屋營業者ハ土地ノ狀況ニ依リ便宜組合ヲ設ケ所管警察署ノ認可ヲ受クヘシ但一市街又ハ一村内ニ於テ兩組ヲ置クルヲ得ス

第三十二條 組合ニ入ラサル者ハ宿屋營業ヲ爲スヲ得ス

第三十三條 組合ニハ取締人一人ヲ置クヘシ但組合營業中ヨリ公撰シ所管警察署ノ認可ヲ受クヘシ

第三十四條 組合ニ於テハ止宿料其他營業上ニ關スル規約ヲ設ケ所管警察署ノ認可ヲ受クヘシ

第三十五條 取締人ニ於テ取扱ノ事項左ノ如シ

一 宿屋營業ニ關スル諸規則命令ヲ營業者ニ通知スル事

二 組合營業者ノ願届ニ加印シ意見アルトキハ其旨ヲ記シ添申スル事

三 營業者名簿ヲ製シ増減アル毎ニ之ヲ加除スル事

第三十六條 營業者ハ組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ其費額及罰賦法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三十七條 左ノ資格ニ適合スルモノニアラサレハ取締人タルコトヲ得ス

一 年齢二十五年以上ニシテ組合区域内ニ相當ノ家屋又ハ土地ヲ有スルモノ

二 營業ニ關スル諸規則類ヲ解讀シ得ルモノ

第三十八條 前條ノ資格ニ適合スト雖トモ強竊盜及詐偽取財ノ罪ヲ犯シタルモノハ取締人タルコトヲ得ス但其他ノ犯罪ト雖トモ監視中ノ者亦同シ

第三十九條 所管警察署ニ於テ取締人ニ不都合ノ所爲アルト認ムルトキハ任期中ト雖トモ臨時改撰セシムルコトアルヘシ

第六章 罰則

第四十條 本則第二條第五條第六條第十條第十一條第十三條ニ違背シタルモノ第十六條第十七條ニ違背シ官署ノ督促命令ニ從ハサルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢ノ科料ニ處ス但刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ從フ

第四十一條 本則第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十四條第二十六條第二十七條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條ニ違背シタルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス但刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ從フ

第一章 通則

第一條 人力車營業トハ轆子ヲシテ車ヲ輓カシメ營業スルヲ云フ

第二條 人力車營業ヲ爲サントスルモノハ所管警察署へ願出免許証ヲ受クヘシ

第三條 營業上ニ關スル願届ハ總テ取締人ノ加印ヲ受クヘシ

廿一年無令  
改四十九號

第四條 營業者ハ轆子ノ族籍住所氏名年齢ヲ所管警察署又ハ分署ニ届出一人ニ付鑑札一個ヲ受クヘシ

第五條 營業者自ラ車ヲ轆クトキハ總テ轆子ノ例ニ從フヘシ

第六條 轆子ノ鑑札ハ毎年四月所管警察署又ハ分署ノ検査ヲ受クヘシ其検査ヲ受ケサルモノハ無効ナルヘシ

第七條 車体ハ毎年二回(四月)所管警察署又ハ分署ノ検査ヲ受ケ其証ヲ受クヘシ其新造改造又ハ買受讓受ヲ爲シタルトキハ定期ニ拘ハラス届出検査ヲ受クヘシ

第八條 左ノ場合ニ於テハ所管警察署又ハ分署へ届出書替又ハ再渡ヲ請フヘシ  
一 轉居改氏名其他免許証車体検査証鑑札面ニ異動ヲ生シタル時

第九條 左ノ場合ニ於テハ所管警察署又ハ分署へ届出免許証車体検査証又ハ鑑札ヲ返納スヘシ  
一 廢業又ハ廢車シタル時  
二 二人力車ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタル時  
三 轆子ヲ解僱シ又ハ轆子ノ失踪逃走若クハ死去シタル時

第十條 免許証車体検査証鑑札ハ之ヲ貸與スヘカラス

第十一條 車体検査証ハ車ノ蹴込右方ニ釘付スヘシ

第十二條 營業者ハ貨錢標(堅四寸)ヲ製シ取縮人ノ檢印ヲ受ケ車ノ蹴込左方ニ釘付スヘシ

第十三條 検査証アル車ト雖モ第十九條ノ制限ニ適セス又ハ破損若クハ不潔ニ至リタル

モノハ警察官吏ニ於テ使用ヲ差止ムル事アルヘシ

第十四條 營業者ハ出願ノ際身元保証金トシテ轆子ノ多寡ニ依リ左ニ掲グル金額ヲ所管警察署へ相納ムヘシ但公債証書國立銀行預リ券ヲ以テ納ムルコトヲ得

一 轆子十人以上金五圓十一人以上一人ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ増加ス

第十五條 身元保証金ハ廢業又ハ營業禁止若クハ其組合ヨリ除名シタルトキハ之ヲ還付スルモノトス

第十六條 身元保証金ハ營業者若クハ其轆子營業上ニ關シ他人ニ被ラシメタル損害ノ償等ニ充用スル事アルヘシ

第十七條 身元保証金ニ缺額ヲ生シタルトキハ十日以内ニ完納スヘシ限内缺額ヲ納メサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス

第十八條 營業者ハ検査証鑑札各一個ニ付手数料トシテ金三錢所管警察署又ハ分署へ相納ムヘシ

第二章 車体ノ構造及轆子ノ資格

第十九條 車体ハ堅牢ニシテ其構造及付属品ハ左ノ制限ニ從フヘシ  
一 一人乗ハ横巾内法二尺未滿二人乗ハ二尺以上トス  
二 車体ハ漆塗ニシテ其中張ハ革、天鵝絨、羅紗等ヲ用井且ツ泥除ヲ備フヘシ  
但新規買入レノ車體ハ其塗色無地ニ限リ泥除モ同様ナルヘシ  
三 コム引又ハ桐油製ノ母衣前掛及不潔ヲラサル蒲團ヲ備フヘキモノトス  
四 羽止銚二箇以上及提灯ヲ備ヘ摺付木ヲ用意スヘキモノトス

第二十條 輓子ハ左ノ資格ヲ有スル者ニ限ルヘシ  
 一 年齡滿十八年以上ニシテ身體強壯ナル者  
 二 其土地ノ路程ヲ畧知スル者  
 第二十一條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ強盜強姦及幼者ヲ畧取誘拐スル罪若クハ過失ニアラサル殺傷罪ヲ犯シタルモノハ輓子タルコトヲ得ス其他ノ犯罪ト監視中ノ者亦同シ  
 第二十二條 輓子ハ左ノ服裝制限ニ從フヘシ  
 一 若服ハ法被又ハ油筒半纏及股引但雨雪泥濘ノトキハ半股引ヲ用ユルモ妨ナシ  
 二 冠リ物ハ帽子又ハ笠  
 三 雨具ハゴム引又ハ桐油製其他見苦シカラサルモノ  
 第三章 輓子就業制限  
 第二十三條 輓子ハ鑑札ヲ携帶シ警察官吏又ハ乘客ニ於テ見ンコトヲ求メタルトキハ直チニ之ヲ示スヘシ  
 第二十四條 路上ニ彷徨シ又ハ佇立スヘカラス  
 第二十五條 乘客ノ承諾ヲ得ス途中ニ於テ他ノ車ニ乗セ替ヘ又ハ濫リニ駐車スヘカラス  
 第二十六條 駐車場ノ外人力車ヲ置クヘカラス但乘客用弁ノ爲メ往來ノ妨害トナラサル場所ヘ駐車スルハ妨ナシ  
 第二十七條 乘客ノ指定セサル宿泊店飲食店及其他ノ場所ヘ輓入ルヘカラス  
 第二十八條 車ヲ並ヘ輓キ又ハ濫リニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第二十九條 人力車通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フ  
 一 車馬及歩行者ニ行逢フトキハ左ニ避ケ軍隊並砲車輜重車ニ對シテ右ニ避クヘシ  
 二 賃車ニ對シテハ空車ニ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ  
 三 車前除行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ懸ケ聲ヲ爲シ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ  
 四 郵便用消防用ニ供スル車馬及灌漑水車又ハ葬送等ニ行逢フトキハ避讓スヘシ  
 第三十條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通過スルトキハ徐行スヘシ  
 第三十一條 二輛以上ノ車ヲ連繫シテ輓クヘカラス  
 第三十二條 夜中燈火ナクシテ疾驅スヘカラス  
 第三十三條 夜中燈火ナクシテ市街又ハ群集ノ場所ヲ通過スヘカラス  
 第三十四條 街角橋上其他往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス  
 第三十五條 乘客降車ノ際遺留品アリタルトキハ速ニ最寄警察署分署又ハ巡查派出所交番所ニ届出ツヘシ  
 第四章 車賃  
 第三十六條 人力車ノ賃錢ハ組合協議ノ上之ヲ定メ所管警察署ヲ經由シ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ  
 第三十七條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乘客ニ對シ賃錢定額以外ノ金錢ヲ請求スヘカラス  
 第三十八條 乘客ニ於テ單ニ行先ヲ示シ其道筋ヲ定メサルトキハ最近ノ路程ニ依リ賃錢ヲ計算スヘシ

第五章 乘載制限

第三十九條 一人乘ニ二人二人乘ニ三人以上ヲ乘載スヘカラス但十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト見做シ三年未滿ハ定員外トス

第四十條 左ニ記載シタルモノハ人力車ニ乘載スヘカラス

- 一六種傳染病及ヒ疥癬ノ甚キモノ
- 二車体外ニ張出スヘキ長大ノ物品

第六章 駐車場

第四十一條 駐車場ヲ分チテ左ノ二種トス

- 一公設駐車場(一般營業人ニ於テ駐車スヘキモノ)
- 二私設駐車場(一人又ハ數人ニテ設立シ其專用ニ屬スルモノ)

第四十二條 公設駐車場ハ所管警察署ニ於テ之ヲ定メ標示スヘキモノトス私設駐車場ハ營業者協議ノ上之ヲ定メ所管警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

第四十三條 客ノ乗用ニ應ジ難キ人力車ハ駐車場ニ置クヘカラス

第四十四條 駐車場ニ於テハ轆子ノ名札ヲ掲ケ置キ客ノ求メアリタルキハ到着ノ順序ニ從ヒ速カニ出車スヘシ

第四十五條 客ヨリ求メアリタルトキハ正當ノ理由ナクシテ出車ヲ拒ムヘカラス但暴行

者及看護人ナキ瘋癪人ハ此限ニ在ラス

第四十六條 私設駐車場ハ組合取締人ノ烙印ヲ受ケ標識ヲ設クヘシ

第七章 營業組合

營業組合

第四十七條 人力車營業組合第四十七條人力車營業者ハ警察署及分署ノ所管ニ從ヒ組合ヲ設クヘシ但土地ノ狀況ニ依リ所管警察署ノ認可ヲ得二組以上ヲ設クル事ヲ得

第四十八條 組合ニ入ラサル者ハ人力車營業者ト爲ス事ヲ得ス

第四十九條 組合ハ警察署又ハ分署ノ所在地ニ取締所ヲ設ケ取締人一人ヲ置クヘシ其取締人ハ組合營業者ヨリ公撰シ所管警察署ノ認可ヲ受クヘシ

第五十條 組合ニ於テハ其規約ヲ定メ所管警察署ヲ經由シ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十一條 取締人ニ於テ取扱ノ事項左ノ如シ

- 一人力車營業ニ關スル諸規則命令ヲ營業者ニ通知スル事
- 二私設駐車場ノ標識及賃錢標ニ烙印スル事
- 三組合營業者ノ願届ニ加印シ意見アルトキハ其旨ヲ記シ添申スル事
- 四營業者名簿ヲ製シ増減アル毎ニ之ヲ加除スル事

第五十二條 營業者ハ組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ其費額及割賦法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十三條 左ノ資格ニ適合スルモノニ非サレハ取締人タルコトヲ得ス

一年齢二十五年以上ニシテ組合區域内ニ相當ノ家屋若クハ土地ヲ所有スルモノ

二取締所所在地ニ居住シ又ハ寄留スルモノ

三組合營業者ニシテ人力車三輛以上ヲ所有スルモノ

四營業上ニ關スル諸規則類ヲ解讀シ得ルモノ

第五十四條 前條ノ資格ニ適合スト雖トモ強窃盜及詐偽取財ノ罪ヲ犯シタル者ハ取締人

第四類 第四 營業警察



タル事ヲ得ズ其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者亦同シ  
第五十五條 所管警察署ニ於テ取締人ニ不都合ノ所爲アリト認ムルトキハ任期中ト雖トモ臨時改撰セシムル事アルヘシ

第八章 罰則

第五十六條 本則第二條第四條ニ違背シタルモノ第三十條第三十三條ニ違背シテ制止ヲ肯セサルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上壹圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス但刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ從フ

第五十七條 本則第七條第八條第九條第十條第二十三條第三十七條第四十二條第四十五條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條ニ違背シタルモノハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス但刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ從フ

○秋田縣令第七十一號 明治二十年六月廿一日

宿屋取締規則第二十八條木賃宿營業ノ儀ハ警察署及分署所在地ニ限り允許ス其人員及場所ハ所管警察署ニ於テ定ムルモノトス

○秋田縣令第八十八號 明治廿年八月三十日

本年六秋田縣令第七十號街路取締規則第六條五項ハ市街外ノ道路ニモ之ヲ適用ス

○秋田縣令第百三號 明治廿年十一月一日

箱雪車取締規則左ノ通相定ム

箱雪車取締規則

第一條 人力車營業者ニシテ冬季箱雪車營業ヲ爲サントスル者ハ所管警察署へ届出認可

ヲ受クヘシ

第二條 人力車營業者ニアラズシテ箱雪車營業ヲ爲サントスル者ハ人力車組合ニ加入シ身元保証金ヲ納メ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 營業者ハ挽子ノ族籍住所氏名年齢ヲ所管警察署又ハ分署へ届出一人ニ付鑑札一個ヲ受クヘシ

第四條 營業者ハ賃錢及住所氏名ヲ記載シタル標札(堅四寸(横五寸)ヲ製シ取締人ノ捺印ヲ受ケ雪車ノ後面ニ釘付スヘシ

第五條 賃錢ハ組合協議ノ上之ヲ定メ所管警察署へ届出認可ヲ受クヘシ

第六條 營業人力車取締規則第一條第三條第五條第九條第十四條第十六條第二十條第二十一條第二十三條第二十五條第二十七條第三十三條第三十五條第三十七條第三十八條ハ箱雪車營業者ニモ之ヲ適用ス

第七條 本則第一條第二條第三條ニ違背シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

第八條 本則第四條第五條及營業人力車取締規則第二十三條第二十七條ニ違背シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

○秋田縣令第廿五號 明治廿一年四月十六日

演藝場及觀物場取締規則別紙之通り相定ム

但明治十七年甲第八號布達同十九年甲第三十八號達ハ廢止ス  
演藝場及觀物場取締規則

第一章 通則

- 第一條 演藝場トハ劇場寄席及左ノ技藝等ヲ演セシメ見料ヲ收ムル興行場ヲ云フ  
能狂言 角力 演劇 手踊 講談 寫繪 輕業 曲馬ノ類
- 第二條 觀物場トハ左ノ見セ物等ヲ陳列シ見料ヲ收ムル興行場ヲ云フ  
生人形 眼鏡鏡 禽獸 魚介ノ類
- 第三條 興行場ニ關スル一切ノ事ハ坐主又ハ興行主其責ニ任スヘシ
- 第四條 興行時間ハ日出ヨリ午後十一時ヲ限リトス但演藝ノ屋外興行ハ日没ヲ限リトス
- 第五條 安寧ヲ害シ倫理ヲ亂リ其他猥褻ノ所爲又ハ講談ヲ爲サシムヘカラス
- 第六條 見料坐料ノ外下足料其他ノ名義ヲ以テ觀客ヘ出錢ヲ促スヘカラス
- 第七條 興行場ニハ警察官吏監臨ノ席ヲ設クヘシ
- 第二章 定席ノ構造
- 第八條 舊ニ劇場及寄席ヲ建築シ又ハ改造セントスルモノハ豫メ其圖面及仕様書ニ隣佑ノ承諾書ヲ添ヘ所管警察署ヘ願出認可ヲ受ケ竣工ノ上ハ更ニ届出巡査ヲ受クヘシ
- 第九條 劇場及定席ハ通常入口ノ外交通便利ノ地ニ向ヒ六尺以上ノ非常出入口ヲ設クヘシ
- 第十條 便所ハ臭氣ノ客席ニ及ハサル所ニ設ケ又適宜窓牖ヲ設ケテ空氣ヲ流通セシムヘシ

第三章 定席興行

- 第十一條 劇場及寄席營業ヲナサントスルモノハ所管警察署又ハ分署ニ願出免許証ヲ受

第四類 第四 營業警察

- 第十二條 轉居改氏名遺失毀損等免許証ニ異動ヲ生シタルトキハ所管警察署又ハ分署ニ届出書換又ハ再渡ヲ受クヘシ其廢業シタルトキハ免許証ヲ返納スヘシ
- 第十三條 定席ニ於テ興行ヲ爲サントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ニ藝人ノ鑑札ヲ添ヘ所管警察署又ハ分署ニ届出捺印ヲ受クヘシ  
一 演藝又ハ見世物ノ名稱  
二 興行日數及開閉時間  
三 木戸錢及坐料ノ定價及其上高
- 第十四條 興行中ハ戶外ニ左ノ看板ヲ掲ケ夜間ハ標燈ヲ以テ之ニ換フヘシ  
堅三尺

製 木	演劇講談又ハ何々
	住所
	氏名

- 第十五條 木戸錢及坐料ハ觀客ノ見易キ場所ニ揭示スヘシ
- 第十六條 觀客ノ下足及携帶品ハ紛失セサル様注意ヲ爲スヘシ
- 第十七條 鑑札ヲ所持セサル藝人ヲ出席セシムヘカラス
- 第十八條 觀客ヲシテ樂屋又ハ藝人ノ休息所ニ入ラシムヘカラス
- 第十九條 觀客ノ散スルムキハ木戸口ノ雜沓ヲ制シ危險ナカラシムヘシ
- 第二十條 場内及便所ハ毎日掃除シテ清潔ナラシメ且ツ便所ニハ適宜ノ防臭藥ヲ撒布ス

第二十一條 烈風ノ際ハ勿論平素火災ノ虞ナキ様ニ注意シ豫メ適宜ノ用水ヲ備フヘシ

第二十二條 定席ハ他人ニ貸與シ興行セムルヲ得但其屆書ニ連署スヘキモノトス

第四章 一時興行

第二十三條 定席外ニ於テ一時興行ヲ爲サントスルモノハ其場所及第十三條ニ掲グル各  
項ヲ記載シ藝人ノ鑑札ヲ添ヘ所管警察署又ハ分署ヘ願出許可ヲ受クヘシ

第二十四條 小屋掛興行ヲナストキハ機數其他務メテ其構造ヲ堅固ニシ觀客ノ安全ヲ保  
ツヘシ

第二十五條 藝人ノ休息所ハ客席ト經畧ヲ定メ別ニ之ヲ設クヘシ

第二十六條 第十五條ヨリ第二十條ニ至ル各條ハ一時興行ニモ之ヲ適用ス

第五章 罰則

第二十七條 本則第八條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十七條ニ違背シタル者ハ一日ノ拘  
留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

第二十八條 本則第四條第五條第六條第十四條第十五條第十七條ニ違背シタルモノ及第  
十八條第二十條ニ違背シ制止ヲ肯セヌ又ハ官署ノ督促ニ從ハサルモノハ五錢以上五拾  
錢以下ノ科料ニ處ス

附則

一 祭典法會等ニ際シ放樂(見料坐料等ヲ徵セサルモノ)興行ヲナスモノハ明治二十年秋田縣令第九十九  
號ニ依リ所管警察署又ハ分署ヘ届出ツルノ外本則第三條第五條第七條第十八條第廿四

條ヲ遵守スヘシ

一 從來ノ免許定席ト雖トモ更ニ本則ニ從ヒ願出認可ヲ受クヘシ

○秋田縣令第五十七號 明治廿一年八月十六日

乗合馬車取締規則別冊ノ通相定ム

第一章 通則

第一條 乗合馬車營業ヲ爲サントスル者ハ所管警察署ヲ經テ縣廳ヘ願出免許証ヲ受クヘ  
シ

第二條 營業者ハ馭者馬丁ノ族籍住所氏名年齢ヲ所管警察署ニ届出一八ニ付鑑札一個ヲ  
受クヘシ

第三條 營業者自カラ馭者馬丁ノ業ヲ爲サントスルトキハ總テ馭者馬丁ノ例ニ從フヘシ

第四條 馭者馬丁ノ鑑札ハ毎年一回(四月)所管警察署ノ検査ヲ受クヘシ其検査ヲ受ケサ  
ルモノハ無効タルヘシ

第五條 車体及ヒ馬疋ハ毎年二回(四月)所管警察署ノ検査ヲ受ケ其証ヲ受クヘシ其買受  
譲受ヲ爲シ又ハ車体ヲ新造改造シタルトキハ定期ニ拘ハラス検査ヲ受クヘシ但本文ノ  
外臨時検査ヲ爲スコトアルヘシ

第六條 左ノ場合ニ於テハ第一條第二條手續ニ從ヒ届出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ  
一 轉居氏名其他免許証車馬検査証鑑札面ニ異動ヲ生シタル時  
二 免許証車馬検査証鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ文字不分明ニ至リタル時

第七條 左ノ場合ニ於テハ前條ノ例ニ依リ免許証車馬検査証又ハ鑑札ヲ返納スヘシ

- 一 廢業又ハ車馬ノ使用ヲ廢シタル時
- 二 馬車ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタル時
- 三 馭者馬丁ヲ解雇シ又ハ失踪逃亡若クハ死去シタル時

第八條 免許証検査証鑑札ハ之ヲ貸與スヘカラス

第九條 馬車ヲ運轉スルトキハ馭者馬丁チ欠クヘカラス

第十條 乗客ノ員數ハ車体馬力ニ應ジ之ヲ定メ所管警察署ノ認可ヲクヘシ

第十一條 車体検査証ハ外部乗客昇降口ノ右方ニ釘付シ馬匹検査証ハ其頸輪ニ結着スヘシ

第十二條 検査証アル馬車ト雖モ第十四條第十五條ノ制限ニ適セス又ハ其車体器具ノ破損若クハ不潔ニ至リ或ハ馬匹疾病衰弱ノ狀アルヲ認ムルトキハ其使用ヲ差止ムヘキモノトス

第十三條 營業者ハ検査証鑑札各壹個ニ付左ノ手数料ヲ納ムヘシ

- 一 車体検査証 五錢
- 一 馬匹検査証 三錢
- 一 馭者鑑札 三錢
- 一 馬丁鑑札 三錢

第二章 車体馬匹及器具

第十四條 車体ハ堅牢ニシテ其構造及ヒ付属品ハ左ノ制限ニ從フヘシ

- 一 車ハ四輪以上ニシテ適當ナル駐車器ヲ備フヘキモノトス
- 二 車体ハ無地漆塗ニシテ其屋根ハ木製ノモノトス
- 三 客坐ハ清潔ニシテ適當ノ裝置ヲ爲スヘキモノトス  
但一人ノ坐席ハ壹尺二寸ヲ下ルヘカラス
- 四 車輪ニハ泥除ヲ設クヘキモノトス
- 五 車体前面ノ兩側ニハ稍子燈ヲ備フヘキモノトス
- 六 運轉器心棒發條力車手網及其他ノ器具ハ堅牢強靱ノモノヲ用ユヘキモノトス
- 七 日覆ハ白布雨覆ハゴム引又ハ桐油製ヲ用ユヘキモノトス
- 第十五條 馬匹ハ五歳以上ニシテ強壯ナルモノニ限ルヘシ
- 第十六條 馬匹ニハ検査証ヲ結着スル爲メ頸輪ヲ設クヘシ

第三章 馭者馬丁ノ資格及服裝

第十七條 馭者ハ滿二十年以上馬丁ハ滿十七年以上ニシテ身体強壯ナルモノ且ツ馭者ハ馭術ニ熟達スル者ニ限ルヘシ

第十八條 前條ノ資格ニ適合スト雖トモ醉狂又ハ暴行ノ癖アル者若クハ強窃盜強姦及過失ニアラサル殺傷罪ヲ犯シタル者ハ馭者馬丁タルコトヲ得ス其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノモノ亦同シ

第十九條 馭者馬丁ハ左ノ服裝制限ニ從フヘシ

- 一 馭者ハ帽子筒袖ツボン靴
- 二 馬丁ハ帽子又ハ笠法被股引但雨雪泥濘ノ時ハ半股引及ゴム引又ハ桐油製ノ雨具ヲ